

〔一般論文〕

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容

中 嶋 洋・菊池 義昭

はじめに

前稿では、1902（明治 35）年と 1903（同 36）年の岡山孤児院の賛助員募集活動の展開過程とその実態を解明した¹⁾。その結果をごく簡単に要約すると、まず、賛助員総数が 1902 年 1 月の 11,550 人から同年 12 月末に 10,449 人へ減少し、1903 年 12 月末には 9,611 人へと 1 万人の大台を切ることになっていた。この原因は、1902 年の総新賛助員数が 2,048 人であったのに対し、総退員者等数が 3,039 人あり、新賛助員への加入者数より退員者等数の方が 991 人多くなり、翌 1903 年も総新賛助員数 2,067 人に対し総退員者等数 2,605 人と、538 人減少したため、1902 年の各月の賛助員総数は 1 万人を維持していたが、1903 年 5 月時点で 1 万人を切り、同年 12 月末には 9,611 人になったからであった。

さらに、こうした賛助員総数の減少は、賛助金の集金総額にも反映し、1902 年の 6,948 円 96 銭から 1903 年の 5,647 円 48 銭へ、1,295 円 48 銭減少した。特に、地方委員による賛助金集金が、1902 年 3,134 円 39 銭（全額のうちの 45.1%）に対し、1903 年 1,901 円 38 銭（全額のうちの 33.7%）となり、地方委員による賛助金募集活動が低下していくことも理

解できた。

ただ、1903年5月の賛助員の分布状況をみると、岡山県1,874人、東京府1,191人、兵庫県650人、大阪市522人、京都府508人、愛媛県404人と続き、最小は沖縄県の2人で、全47の道府県に分布していた。さらに、欧米195人、台湾44人、韓国4人、清国2人と、日本以外の海外にも賛助員が存在するまでに拡大していたことが確認できた。このため、当時の岡山孤児院の賛助員は、日本の全47道府県内の市区町村に分布し、同院を支援する全国的なネットワーク網が47道府県内の市区町村に存在し、かつ、欧米、台湾、韓国、清国にまで拡大していたことが判明した。

そして、このような全国的な支援ネットワーク網を形成していた事実が、日本の社会福祉の歴史における慈善事業期の岡山孤児院の実践の歴史的役割の1つと仮定できた。

そこで、本稿では、これまでの右肩上がりから減少に転じた賛助員募集活動が、日露戦争が始まる1904(同37)年と同戦争が終わる1905(同38)年にどのように推移し、全国的な支援ネットワーク網がどう変化するかを、兩年の岡山本部、職員(外部事務員)、同院音楽幻燈(活動写真)隊、地方委員(賛助員)による賛助員募集活動の解明を通して明らかにし、その特徴を分析していくことにする。特に、現賛助員からの集金活動が重要になってくるので、その内容と特徴も明らかにする。

つまり、本稿では、本研究の研究課題である、明治30年代から同40年代に全国的な支援ネットワークシステムを構築した岡山孤児院の賛助員募集活動の展開過程の実態を解明し、その歴史的役割を分析するため、1904年と1905年の賛助員募集活動により、1万人前後の全国的な賛助員の支援ネットワークシステムをどのように運営し維持したか。また、個々の賛助員およびその賛助員と岡山孤児院の結節点となった個々の地方委員が、岡山孤児院の活動から、どのような啓蒙を受け、彼らの慈善事業に対する認識としての価値感(観)がどのように変化したかも明らかにしたいと考える。

1、1904（明治 37）年の賛助員募集活動の推移とその実態

1）1904 年の新賛助員の募集活動

（1）賛助員総数と新賛助員数の推移

1903 年 12 月末の賛助員総数（月末総数）は 9,611 人と、同年 1 月末の 10,459 人と比較すると 848 人も減少し、全体的には減少傾向に転じていた²⁾。その月末総数などが翌 1904 年 1 月から毎月どのように推移するかをまとめると表 1 のようになり、同年 1 月の月末総数 9,540 人から 12 月には 8,965 人とさらに 575 人も減少し、減少傾向が継続し、右肩下がりが見著ようになっていたことが確認できた。

その原因は、毎月の新賛助員数に比べて退会者等数が多かったからであった。つまり、毎月の新賛助員数が 3 月に 600 人加入し、12 月 138 人、6 月 126 人と 100 人台の月もあったが、1 月 6 人、9 月 11 人など 1 桁と 2

1904 年の月別総賛助員数と新賛助員数の推移

<表 1>

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
新賛助員数	6 人	82 人	600 人	54 人	36 人	126 人
総賛助員数	9,617 人	9,622 人	9,707 人	9,524 人	9,310 人	9,342 人
退会者等数	77 人	515 人	237 人	114 人	131 人	235 人
月末総数	9,540 人	9,107 人	9,470 人	9,310 人	9,216 人	9,107 人
	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
新賛助員数	42 人	32 人	11 人	59 人	40 人	138 人
総賛助員数	9,149 人	9,067 人	9,030 人	9,033 人	9,047 人	9,066 人
退会者等数	114 人	48 人	56 人	26 人	119 人	101 人
月末総数	9,035 人	9,019 人	8,974 人	9,007 人	8,928 人	8,965 人

〈注〉退会者等数は月末賛助員退会者等数の略で、月末総数は月末賛助員総数の略。
総賛助員数は、前月に月末総数に本月の新賛助員数を加算した総数。月末総数は、本月の総賛助員数から退会者等数を減算した総数。

（『岡山孤児院新報』第 88 号から第 99 号より作成）

桁台が大半となり、その年間合計加入者は1,226人で、月平均約102.2人に止まったからであった。その一方で、毎月の退会者等数は、2月515人、3月237人、6月235人で、4月、5月、7月、11月、12月も100人台となり、合計退会者等数が1,773人に達し、月平均約147.8人になったからであった。

さらに、昨年の新賛助員の年間合計加入者は2,067人であったのに対し、本年のそれが1,226人となり、841人(40.7%)減少し、半減に近い減少になってしまった。一方、年間の退会者等数も、昨年の2,605人に対し本年は1,773人と832人(31.9%)減少したものの、本年の年間加入者が1,226人に対し、本年の年間退会者等数は1,773人と547人増加したため、減少傾向は継続したのであった。

このような、右肩下がりになっていく1904年の賛助員募集活動を、新賛助員募集活動の実態と賛助金の集金活動の内容の2つの視点から解明していくことにする。

つまり、前稿までの研究では、新賛助員募集活動と賛助金集金活動を一体的に解明して来たが、本稿では新賛助員の加入者が減少する中で、全国各地に散在する現賛助員から賛助金をどのように集金し、岡山孤児院の財政維持に貢献していたかを解明、分析することが必要であると新たに認識し、そうすることで、1904年とそれに続く1905年の賛助員募集活動の同院の財政維持に貢献した特徴がより明確に解明と分析できると判断したからである。

(2) 新賛助員の募集活動の概要

1904年の新賛助員の道府県別の募集活動の概要をまとめると表2のようになる³⁾。青森県、岩手県、秋田県、栃木県、茨城県、石川県、島根県、香川県、沖縄県を除く、1道3府38県と韓国、清国、台湾から加入者が存在した。

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中嶋・菊池) (33) 234

1904 (明治 37) 年の月別の新賛助員の道府県市町村別の加入者数

<表 2 >

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
北海道	札幌区 1人	夕張炭 山2人			札幌区 1人				小樽区 1人				2区等	5人
青森県														
岩手県														
宮城県							仙台市 6人	仙台市 2人		仙台市 8人			1市	16人
秋田県														
山形県								山形市 2人、 米沢市 1人、 上ノ山 町1人					2市1 町	4人
福島県				原町1 人			福島町 1人、 庭坂村 1人	若松市 10人、 鶯島村 1人、 郡山町 4人		若松市 8人、 箕村1 人、 郡山町 31人			1市3 町3村	58人
栃木県														
茨城県														
群馬県			高崎市 1人										1市	1人
埼玉県						熊谷町 1人							1町	1人
千葉県			上瀑村 1人									野田町 1人	1町1 村	2人
東京府			大烏町 1人	東京市 2人		東京市 26人、 荏原郡 1人	東京市 16人	東京市 2人		東京市 3人	東京市 1人	東京市 2人	1郡1 市1村	54人
神奈川県			横浜市 20人			横浜市 39人	横浜市 1人、 生見尾 村2人					横須賀 町16 人、 横浜 市1人	1市1 町1村	79人
新潟県			新潟市 1人										1市	1人
富山県		新庄村 1人											1村	1人
石川県														
福井県		福井市 1人											1市	1人
山梨県						甲府 市16 人、諏 訪村1 人、里 垣村1 人、瀧 王村1 人、市 川大門 町4人							1市1 町3村	23人
長野県												木島村 1人	1村	1人
岐阜県												中津町 1人	1町	1人
静岡県												浜松町 2人、 川野村 1人、 安東村 1人、 静岡市 21人	1市1 町2村	25人

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
愛知県											名古屋 市12人、 豊橋町 1人	岡崎町 4人、 豊橋町 1人	1市2 町	18人
三重県						桑名町 1人					津市2 人、四 日市市 1人、 神戸町 1人		2市2 町	5人
滋賀県			佐山村 1人			八幡町 1人					烏居本 村1人		1町2 村	3人
京都府	京都市 1人	京都市 3人、 深草村 1人			京都市 1人、 舞鶴町 1人	京都市 6人							1市1 町1村	13人
大阪府		小路村 5人	大阪市 1人	大阪市 22人	大阪市 2人、 山田村 1人								1市2 村	31人
兵庫県	神戸市 1人	姫路市 1人	神戸市 10人、 姫路市 18人、 柏原町 1人	神戸市 1人	神戸市 4人、 姫路市 1人	神戸市 3人、 姫路市 2人	姫路市 2人	生野町 1人		神戸市 1人、 大久保 村1人	姫路市 1人		2市2 町1村	48人
奈良県										奈良市 3人			1市	3人
和歌山 県		松原村 1人							御坊町 1人、 有栖川 村1人				1町2 村	3人
鳥取県	小鴨村 1人												1村	1人
島根県														
岡山県	岡山市 1人	倉敷町 4人、 岡山市 1人	岡山市 6人、 金川村 1人、 早島町 1人、 高梁町 1人、 久世町 1人	味野村 1人、 津井町 1人、 小田村 1人、 玉島町 1人、 井原町 13人、 高尾村 4人、 西江原村 1人	岡山市 4人	岡山市 1人、 早島町 2人、 妹尾村 1人		岡山市 2人、 味野村 4人	津山町 1人、 佐良山 村2人、 倉敷町 2人、 栗広村 1人、 勝山町 1人、 鞆野村 1人	岡山市 1人、 神島内 村1人	岡山市 1人、 大島中 村1人、 落合町 2人	岡山市 1人、 船穂村 3人、 玉島町 7人、 高梁町 1人	1市10 町10村	78人
広島県				広島市 1人、 尾道市 1人								呉市7 人	3市	9人
山口県		秋穂村 1人			下関市 1人	下関市 1人	上宇野 令村1 人				防府町 1人		1市1 町2村	5人
徳島県						椿村1 人、堀 江村1 人	徳島市 1人						1市2 村	3人
香川県														
愛媛県		別子山 村5人		八幡浜 町1人、 新居浜 村2人	新居浜 村3人						別子山 村2人	新居浜 村2人、 別子山 村1人	1町2 村	16人
高知県						高知市 1人	高知市 1人						1市	2人

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中嶋・菊池）（35） 232

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
福岡県		八幡町 1人			若松町 1人、 門司市 4人、						八幡町 1人		1市2 町	7人
佐賀県					唐津町 1人								1町2 村	1人
長崎県					長崎市 7人、 佐世保 市3人	長崎市 1人		長崎市 1人、 佐世保 市1人					2市	13人
熊本県											熊本市 1人		1市	1人
大分県	青江村 1人						狭間村 1人			臼杵町 1人	東紫村 1人		1町3 村	4人
宮崎県		上江村 1人、 高城村 1人			宮崎町 1人						高鍋町 9人		2町2 村	12人
鹿児島 県												隈之城 村5人	1村	5人
沖縄県														
韓国						京城2 人、仁 川1人							2ヶ所	3人
清国			福州2 人										1ヶ所	2人
台湾		基隆53 人	台北 163人、 基隆 人、13 台 83 新 66 台 156 平 17 打 人、 27 三 1 人	台中1 人		台中10 人、新 竹1人、	鳳山7 人、台 南2人						10ヶ所	607人
その他											軍艦橋 立1人	軍艦橋 立57人	2ヶ所	60人
総数	6人	82人	600人	54人	36人	126人	42人	32人	11人	59人	40人	138人		

〈注〉ゴチック体は10人以上の新賛助員の加入者。
（『岡山孤児院新報』第88号から第99号より作成）

このうち、北海道は、1月と5月に札幌区計2人、2月に夕張炭山2人、
9月に小樽区1人の2区等で合計5人が加入した。次に東北地方では、宮
城県で7月、8月、10月に仙台市から合計16人が、山形県では8月に山
形市2人、米沢市1人、上ノ山町1人の2市1町の合計4人が、福島県で
は4月に原町1人、7月に福島町1人、庭坂村1人、8月と10月に若松市
計18人および郡山町計35人、これに8月に翁島村1人、10月に箕村1

人が加わり、1市3町3村の合計58人となり、7月から10月の仙台市、若松市、郡山町では10人台から30人台の加入者となり、福島県は合計58人に達したため、これらの市町での積極的な新賛助員募集活動が理解できた。

関東地方では、群馬県で3月に高崎市1人、埼玉県では6月に熊谷町1人、千葉県では3月に上瀑村1人、12月に野田町1人の1町1村の合計2人であった。さらに、東京府では、3月に大島町1人、4月、6月から8月、10月から12月に東京市で計52人と6月の荏原郡1人の1郡1市1村より合計54人が加入し、うち東京市の6月26人、7月16人が多く注目できた。神奈川県は、横浜市で3月20人、6月39人、7月と12月各1人の計61人となり、加えて7月生見尾村2人、12月横須賀町16人の1市1町1村の合計79人に達し、横浜市が大半を占めて3月と6月が多く、次が横須賀町となり、全道府県の中で2番目に多かった。このため、東京市の6月、7月と横浜市に6月に積極的な募集活動があったとみることができた。

中部地方では、新潟県が3月に新潟市1人、富山県が2月に新庄村1人、福井県が2月に福井市1人、山梨県が6月に甲府市16人、諏訪村1人、黒垣村1人、瀧王村1人、市川大門町4人の1市1町3村の合計23人となり、長野県は12月に木島村1人であり、甲府市16人の加入者数が目を引いた。

また、岐阜県が12月に中津町1人、静岡県が12月に浜松町2人、川野村1人、安東村1人、静岡市21人の1市1町2村の合計25人、愛知県が11月に名古屋市12人、豊橋町1人、12月に岡崎町4人、豊橋町1人の1市2町の合計18人と、11月と12月に加入者が集中し静岡市21人、名古屋市12人などでの積極的な募集活動が理解できた。

近畿地方では、三重県が6月に桑名町1人、11月に津市2人、四日市市1人、神戸町1人の2市2町の合計5人、滋賀県が3月に佐山村1人、

6 月に八幡村 1 人、11 月に鳥居本村 1 人の 1 町 2 村の合計 3 人、京都府では京都市が 1 月、2 月、5 月、6 月に計 11 人と 2 月に深草村 1 人、5 月に舞鶴町 1 人の 1 市 1 町 1 村の合計 13 人となり、大阪府では大阪市が 3 月、4 月、5 月に計 25 人と 2 月小路村 5 人、5 月山田村 1 人が加わり 1 市 2 村の合計 31 人であった。

さらに、兵庫県では、神戸市が 1 月と 3 月から 6 月および 11 月に計 20 人、姫路市が 2 月と 3 月、5 月から 7 月と 11 月に計 25 人、3 月に柏原町 1 人、8 月に生野町 1 人、11 月に大久保村 1 人が加わり 2 市 2 町 1 村の合計 48 人となり、奈良県は 10 月に奈良市 3 人のみで、和歌山県は 2 月に松原村 1 人、9 月に御坊町 1 人、有栖川村 1 人の 1 町 2 村の合計 3 人であった。このため、3 月の神戸市 10 人、姫路市 18 人、4 月の大阪市 22 人が積極的な募集活動と理解できた。

中国地方では、鳥取県で 1 月に小鴨村 1 人の加入があり、広島県では 4 月に広島市 1 人、尾道市 1 人、12 月に呉市 7 人の 3 市の合計 9 人、山口県では 2 月に秋穂村 1 人、5 月と 6 月に下関市各 1 人、7 月に上宇野令村 1 人、11 月に防府町 1 人の 1 市 1 町 2 村の合計 5 人であった。

岡山県では、岡山市が 1 月から 3 月、5 月、6 月、8 月、10 月から 12 月に計 18 人、倉敷町が 2 月と 9 月に計 6 人、早島町が 3 月と 6 月に計 3 人、高梁町が 3 月と 12 月に計 2 人、味野村が 4 月と 8 月に計 5 人、玉島町が 4 月と 12 月に計 8 人で、その他に 3 月に金川村と久世町が各 1 人、4 月に下津井町 1 人、小田村 1 人、井原町 13 人、高尾村 4 人、西江原村 1 人、6 月に妹尾村 1 人、9 月に津山町 1 人、佐良山村 2 人、栗広村 1 人、勝田町 1 人、檜野村 1 人、10 月に神島内村 1 人、11 月に大島中村 1 人、落合町 2 人、12 月に船穂村 3 人が加わり、1 市 10 町 10 村の合計 78 人であった。

四国地方では、徳島県が 6 月に椿村 1 人、堀江村 1 人、7 月に徳島市 1 人の 1 市 2 村の合計 3 人、愛媛県では別子山村が 2 月と 11 月、12 月に計 8 人、新居浜村が 4 月、5 月、12 月に計 7 人、八幡浜町が 4 月 1 人の 1 町

2 村の合計 16 人、高知県では高知市が 6 月と 7 月に各 1 人の合計 2 人の加入があった。

九州地方では、福岡県が 2 月と 11 月に八幡町各 1 人の計 2 人、5 月に若松町 1 人と門司市 5 人の 1 市 2 町の合計 7 人、佐賀県では 5 月に唐津町 1 人であった。長崎県では、長崎市が 5 月、6 月、8 月に計 9 人、佐世保市が 5 月と 8 月に計 4 人の 2 市の合計 13 人となり、熊本県では 11 月の熊本市 1 人だけで、大分県では 1 月に青江村 1 人、7 月に狭間村 1 人、10 月に臼杵町 1 人、11 月に東柴村 1 人の 1 町 3 村の合計 4 人で、宮崎県では 2 月に上江村 1 人と高城村 1 人、5 月に宮崎町 1 人、11 月に高鍋町 9 人の 2 町 2 村の合計 12 人、鹿児島県では 12 月の隈之城村 5 人だけであった。

そして、最大の加入者があったのは台湾で、基隆が 2 月 53 人、3 月 13 人の計 63 人、台中が 3 月 83 人、4 月 1 人、6 月 10 人の計 94 人、台南が 3 月 156 人、7 月 2 人の計 157 人、新竹が 3 月 66 人、6 月 1 人の計 67 人もおり、さらに 3 月に台北 163 人、平安 17 人、打狗 7 人、淡水 27 人、三叉河 1 人、7 月に鳳山 7 人が加わったため合計 607 人に達し、全体の 49.5% を占め最大の加入者であった。この背景には、日本が 1894 (同 27) 年 8 月から始める日清戦争で勝利して、台湾を割譲させ、領有権を持つようになり、多くの日本人が在住していたためであったとみる。

これに、韓国で 6 月に京城 2 人、仁川 1 人の 2 ヶ所の合計 3 人、清国で福州 2 人が加わった。さらに、軍艦橋立から 11 月 2 人、12 月 57 人の計 58 人、12 月に軍艦吾妻から 2 人が加入し 2 ヶ所の合計 60 人と 3 番目に多かった。こちらも、本年 2 月から日露戦争が始まり満州南部が主戦場になった等の背景があったからとみることができた。

このため、1904 年の新賛助員募集活動は、3 府 38 県の 1 郡 30 市 2 区 37 町 46 村 1 ヶ所および台湾、韓国、清国等の 15 ヶ所から 1,226 人が加入したことが確認できた。

そして、1 ヶ月に 10 人以上の加入者があった市町村は、福島県若松市

と郡山町、東京府東京市、神奈川県横浜市と横須賀町、山梨県甲府市、静岡県静岡市、愛知県名古屋市、京都府京都市、大阪府大阪市、兵庫県神戸市と姫路市、岡山県井原町、台湾の台北、基隆、台中、新竹、台南、平安、淡水と軍艦橋立であったため、これらの市町等では、積極的な募集活動があったと理解できた。また、後者の台湾や軍艦橋立からの加入者があった背景には、日露戦争の影響によるものとみることができた。

さらに、先の 10 人以上の加入者がいた市町等は、これまでの研究から、岡山孤児院の音楽幻燈（活動写真）隊での新賛助員募集活動であった可能性が高く、その事を次に解明してみる。

（3）音楽幻燈（活動写真）隊での新賛助員の募集活動

1904 年の音楽幻燈（活動写真）隊の巡回運動の巡回地別の概要と新賛助員数や新地方委員の就任人数をまとめると表 3 のようになった⁴⁾。

つまり、2 月から 3 月初旬までは、台湾の 8 ヶ所等を巡回して音楽幻燈（活動写真）会を実施した。これを可能にしたのは、前記したように日本が台湾の領有権を持ち、多くの日本人が在住していたからとみることができた。まず 2 月 1 日から 5 日までは基隆で開催した同（活動写真）会で新賛助員を 66 人募集した。2 月 10 日から 13 日の台北の開催では 163 人、16 日から 19 日の台南の開催では台南 156 人と打狗 7 人の計 163 人、23 日から 26 日の台中の開催では台中 94 人と平安 17 人の計 111 人、27 日、28 日の新竹の開催では新竹 66 人と三叉河 1 人の計 67 人、3 月 3 日の淡水の開催では 27 人を募集した。このため全体では 586 人に達し、2 月の全新賛助員 82 人と 3 月同 600 人の合計 682 人の 85.9%を占めたことが注目できた。

さらに、新地方委員に基隆では西きよ子、台北では角田秀雄、長尾なみ子、三好鉄子、里見操子、佐田文代子、津下実子、台南では藤井米八郎、久山常男、秋山市三、島村穂吉、台中では小畑駒三、新竹では佐々木忠

1904 年の音楽灯籠（活動写真）隊の開催地と新賛助員数他

〈表 3〉

月日	項目	開催地	寄付収入	新賛助	地方	月日	項目	開催地	寄付収入	新賛助	地方
1/		台北丸船中	17.000	—	—	7/24・25	山	米沢市	234.170	1人	—
2/1～5		基隆	951.228	66人	1人	7/29・30	福島	若松市	361.516	11人	—
2/10・12・13		台北	2752.169	163人	6人	8/2・3		郡山市	221.120	4人	—
2/16-19	台湾	台南	1312.486	163人	6人	8・26・27		味野村	200.855	4人	—
2/23-26		台中	1254.631	111人	2人	9/1・2		倉敷町	92.375	3人	—
2/27・28		新竹	511.126	67人	4人	9/4・5		勝岡田村	91.115	—	—
3/3		淡水	114.450	27人	—	9/8・9		津山町	202.860	3人	—
3/		チューサー号	75.622	—	—	9/13・14	岡山県	勝山町	157.940	1人	—
3/26・27	岡山	高尾村	91.495	4人	—	9/17・18・19		久世町	226.003	1人	—
3/30・31		井原町	116.695	10人	—	9/22・23		落合町	117.540	—	—
4/20・21・25・26	大	大阪市	1280.460	25人	—	9/25・26		大塚和村	84.950	—	—
4/28・29・30	兵	神戸市	788.105	6人	—	10/2・3		西大寺町	267.710	—	—
5/6・7	京	京都市	701.290	6人	—	10/10・11		生窓町	367.136	—	—
5/13・14	岡山	早島町	※ 100.521	2人	—	10/15・16・17	奈良	奈良市	231.025	3人	—
5/15		東興除村	※ 30.005	—	—			大和郡山町	129.960	—	—
6/7・8・9	山梨	甲府市	509.790	19人	—	10/26・27・28	三重	津市	175.110	3人	—
6/11		市川大門町	90.000	4人	—	11/4・5		四日市市	413.230	1人	—
6/14	東京府	華族会館	312.500	43人	—	11/10・11・12	愛知県	名古屋市	723.902	12人	—
6/16・17・18		青年会館	872.069	—	—	11/17・18		岡崎町	237.902	4人	—
6/24		早稲田大	21.622	—	—	11/22・23		豊橋町	164.140	2人	—
6/25・26		高等工業	422.000	—	—	12/1・2・3	静岡県	静岡市	377.050	22人	—
6/27	神	青山学院	55.000	—	—	12/7・8		沼津町	347.842	1人	—
7/1・2		横浜市	1414.685	42人	—	12/10・11	神	浦賀町	79.600	—	—
7/7・8	宮	仙台市	473.078	8人	—	12/14-17		横須賀町	871.255	76人	—
7/11・12	福	福島町	393.940	2人	—	12/20・21	静岡	浜松町	153.065	2人	—
7/19	山形	上ノ山町	52.020	1人	—	12/26・27		見付町	68.140	1人	—
7/20・21		山形市	255.185	2人	—						

〈注〉新賛助は新賛助員数、地方は新地方委員数の略。 大は大阪府、京は京都府、神は神奈川県、山は山形県、宮は宮城県、福は福島県で、他は県が付く。

（『岡山孤児院新報』第 88 号から第 99 号より作成）

蔵、国安輝之、有安とり子、松本つね子と平安の三井栄次郎、打狗の横田利盛、鳳山の石丸幸作が就任した。このため、6月の台中10人、新竹1人、7月の鳳山7人、台南2人の新賛助員の募集にもつながり、賛助金の集金も実施し、その内容は後述する。

その後同隊は、3月27日と28日に岡山県の高尾村で開催し新賛助員に4人が加入し、30日と31日の井原町での開催では10人を募集した。

4月20日、21日と25日、26日は大阪市で開催し同市24人、山田村1

人の計 25 人、28 日と 29 日は神戸市で開催し、神戸市の 4 月 1 人、5 月 4 人と姫路市 1 人の計 6 人が加入したとみるが、開催前月（3 月）の神戸市 10 人と姫路市 18 人も職員による募集とみることができた。そして、5 月 6 日、7 日の京都市の開催では 5 月 1 人、6 月 6 人の加入と少なかった。

つまり、大阪市、神戸市、京都市では、すでに現賛助員が多数いるため、音楽幻燈（活動写真）会を開催しても、新賛助員の募集には限界が発生していたとの見方ができた。

5 月 13 日と 14 日の岡山県早島町の開催では 2 人の加入が確認できたが、翌 15 日の東興除村では新賛助員の加入はいなかった。

6 月からは、音楽幻燈（活動写真）隊がまだ巡回運動を実施していない山梨県内で開催し、7 日から 9 日は甲府市で実施し 19 人の新賛助員を集め、11 日の市川大門町では 4 人が加入したが、新地方委員の就任は確認できなかった。

その後、東京市の華族会館で 6 月 14 日、青年会館で 16 日から 18 日、早稲田大学で 24 日、高等工業学校で 25 日、26 日、青山学院で 27 日に開催し、43 人の新賛助員を募集した。また、7 月 1 日と 2 日は横浜で開催して 42 人を募集し、その後、まだ音楽幻燈（活動写真）会を実施していない東北地方に向った。

つまり、7 月 7 日、8 日には宮城県に飛び仙台市で開催し新賛助員 8 人を集めた。11 日と 12 日は福島県に行き福島町で開催し 2 人、19 日は山形県に移動し上ノ山町で開催し 1 人、20 日と 21 日は山形市で実施し 2 人、24 日と 25 日は米沢市で開催し 1 人、29 日と 30 日は福島県に戻り若松市で実施し 11 人、8 月 2 日と 3 日には郡山町で開催し 4 人を募集し、帰院した。

そして、この山梨県と東北 3 県の巡回運動で注目できたのが、各地の音楽幻燈（活動写真）会で新賛助員がほとんど集まらなかったことと、これに合せるように新地方委員の就任もなかったことである。その原因として

考えられるのは、岡山孤児院が同会の中で積極的に新賛助員を募集しなかったためと理解できたが、なぜ積極的に募集しなかったのかについて言及した明確な資料を現時点では確認できない。ただ、2月から日露戦争が始まり、その影響からかもしれないと考えた。

8月下旬から10月中旬までは、岡山県内の10ヶ所を巡回して音楽幻燈（活動写真）会を開催し、8月26日と27日の味野村で4人、9月1日と2日の倉敷町で3人、8日と9日の津山町で3人、13日と14日の勝山町で1人、17日から19日の久世町で1人を募集したが、いずれも少数の新賛助員の募集に終わっていた。

10月中旬から12月は、奈良県から東海地方の3県と神奈川県内を巡回し、10月15日から17日の奈良市で3人、26日から28日の三重県津市で3人、11月4日と5日の四日市市で1人、10日から12日の愛知県名古屋市中区で12人、17日と18日の岡崎町で4人、22日と23日の豊橋町で2人、12月1日から3日の静岡県静岡市で24人と多数の新賛助員を募集し、7日と8日の沼津町で2人、14日から17日に横須賀町で78人、20日と21日は静岡県浜松市に戻り4人、26日と27日はその近隣の見付町で1人が加入したとみる。

そして、横須賀町の78人は、12月に同町で17人、軍艦吾妻2人、軍艦橋立57人、翌1905年1月に海軍水雷術練習所1人、同橋立1人の加入者で、かつ、静岡市24人には翌1905年1月の加入者が2人、沼津町2人のうち1人および浜松町4人のうち2人も翌年1月の加入者であった。

以上のように、1904年の音楽幻燈（活動写真）隊の巡回運動における新賛助員募集活動は、2月と3月の台湾での8回の同（活動写真）会の開催では合計586人を募集し、その後の加入者を含めると597人もの新賛助員を募集し、新地方委員も19人就任したが、3月下旬からの岡山県内や国内各地の巡回運動では合計342人しか集めることができず、新地方委員の就任は確認できなかった。このため1904年の音楽幻燈（活動写真）隊

での新賛助員は合計 926 人（1905 年 1 月分除く）であった。このうち、10 人以上の新賛助員を募集したのは井原町 10 人、大阪市 25 人、甲府市 19 人、東京市内（5 ヶ所）43 人、横浜市 42 人、若松市 11 人、名古屋市 12 人、静岡市 22 人、横須賀町 76 人で、これらの 9 市町を除く 32 市町村の開催では 10 人以下の少数の新賛助員しか集まらず、その結果が表 1 の毎月の新賛助員数に直接影響したと判断できた。

つまり、本年の新賛助員総数 1,226 人のうち 926 人（75.5%）が音楽幻燈（活動写真）会での新賛助員募集によるものであったからである。そして、同（活動写真）会での新賛助員総数も昨年（1,060 人）より 134 人減少したため、本年の総新賛助員数（1,226 人）は昨年の総数 2,067 人より 841 人（40.7%）に急減したことが確認できた。また、この急減により 3 月下旬からは新地方委員の就任もなくなり、現地方委員による現賛助員からの集金活動や新賛助員募集活動も、右肩下りになっていくことが想定できた。そして、このような急減の原因の社会的な背景の要因として考えられるのが、1904 年 2 月から始まる日露戦争の影響があったと推定できた。

そこで次に、このような右肩下りになっていく 1904 年の賛助員募集活動の中で、毎月の賛助金の集金活動がどのように推移するかの内容と同年の同院の財政における賛助金の貢献度（役割）および全国に分布する現賛助員からの賛助金の納入内容の特徴をまとめることにする。

2) 1904 年の賛助金の集金活動

(1) 毎月の賛助金の収支と全収支に占める割合

1904 年 1 月から 12 月までの月別の賛助金の収支と同院の月別の全収支に占める割合をまとめると表 4 のようになる⁵⁾。つまり、1 月の賛助金収入は 321 円 12 銭であったため、全収入に占める割合は 25.5%であった。一方、同月の賛助金集金費は 13 円 72 銭で全支出の 1.1%であったため、1 月の賛助金の実質的な収益金は 307 円 40 銭となり、後者の賛助金集金

1904 年の月別賛助金収支と全収支に占める割合

< 表 4 >

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
①賛助金収入	321.120	1,342.120	801.625	396.300	409.834	276.550	292.270
賛助金の割合 (%)	25.5	60.4	11.2	7.3	8.7	4.7	5.0
全収入	1,258.112	2,221.187	7,159.423	5,448.009	4,726.726	5,904.221	5,835.858
②賛助金 集金費	13.720	73.715	102.930	15.735	63.815	19.672	39.620
同集金費 の割合 (%)	1.1	3.3	1.4	0.3	1.4	0.3	0.7
全支出 (繰 越金含む)	1,258.112	2,221.187	7,159.423	5,448.009	4,726.726	5,904.221	5,835.858
① - ② = ③収益金	307.400	1,268.405	698.695	380.565	346.019	256.878	252.650
④月末院 児総数	260 人	推定 260 人	推定 260 人	推定 259 人	推定 259 人	推定 259 人	250 人
③ ÷ ④ = 1 人 当り 収益金	1.180	* 4.878	* 2.687	* 1.469	* 1.336	* 0.992	1.011
	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	『岡山孤 児院新 報』第 88 号か ら第 99 号より作 成)
①賛助金収入	123.420	108.930	155.700	92.000	510.590	4,830.459	
賛助金の割合 (%)	2.2	2.3	9.5	3.3	12.9	9.4	
全収入	5,520.726	4,649.570	1,644.698	2,825.092	3,960.873	51,154.495	
②賛助金 集金費	3.000	3.380	6.827	36.380	6.325	385.119	
同集金費 の割合 (%)	0.05	0.07	0.4	1.3	0.2	0.8	
全支出 (繰 越金含む)	5,520.726	4,649.570	1,644.698	2,825.092	3,960.873	51,154.495	
① - ② = ③収益金	120.420	105.550	148.873	55.620	504.265	4,445.340	
④月末院 児総数	253 人	260 人	263 人	283 人	289 人		
③ ÷ ④ = 1 人 当り 収益金	0.476	0.406	0.566	0.197	1.745	* 平均 1.425	

< 注 > * は推定の意味。

費は職員が各地を巡回して賛助金を集金しつつ新賛助員も募集する際の旅費と宿泊費等であった。

そして、2月以降の賛助金収入の推移をみていくと、2月が1,342円12銭(60.4%)に急増し、3月は801円62銭5厘(11.2)に減少したが高水準を維持していた。しかし、4月から396円30銭(7.3)に半減し、5月409円83銭4厘(8.7)に微増したが、6月276円55銭(4.7)、7月292円27銭(5.0)に減少し、9月108円93銭(2.3)、10月155円70銭(9.5)、11月92円(3.3)へとさらに急減し、12月に510円59銭(12.9)に回復し、年間の全賛助金収入は4,830円45銭9厘となり、総歳入51,154円49銭5厘の9.4%を占めていた。このため、昨年全賛助金収入5,647円39銭4厘より816円93銭5厘も減額したものの、毎月の賛助金収入が同院の総歳入の中で安定的な財源として重要であったことが再確認できた。

一方、支出の中の賛助金集金費は、2月73円71銭5厘で、3月102円93銭で最も多い支出となり、4月から7月までは10円台から60円台、8月から11月を除く12月までは3円から6円台の合計385円11銭9厘の支出となり、職員による賛助金募集活動は継続されていたが、積極的に実施しない月があり、これが結果的に賛助金収入の減少傾向に結びつく要因の1つになったと理解できた。また、その結果、毎月の賛助金収入から賛助金集金費を差し引いた収益金も年間4,445円34銭に止まった。

つまり、昨年の年間全賛助金収入が5,647円39銭4厘であったため、本年は816円93銭5厘減額の4,830円45銭9厘となり、同院の総歳入に占める割合も昨年の16.6%から9.4%に減少した。また、昨年の年間賛助金集金費は534円22銭6厘であったのに対し、本年は385円11銭9厘と149円10銭7厘の減額したため、収益金も5,113円16銭8厘から4,445円34銭に減少していた。

ただし、減少傾向にあったものの同院の歳入の9.4%を占めており、同院の財政を安定的に維持する重要な財源の1つであることには変りがな

かった。その賛助金の「重要な財源」としての指標もしくは貢献度を数値で示すと、毎月の院児1人当りの賛助金の収益金になると仮定でき、それを試算すると推定を含め表4下の「③÷④＝1人当り収益金」の欄のようになり、2月が最大の院児1人当り4円87銭8厘で、最少は11月の19銭7厘で、平均1円42銭5厘になったため、1904年の賛助金の、院児の生活と教育のための貢献度は1円42銭5厘と理解できた。

そこで次に、1月末の9,540人から12月末に8,965人に減少する全国各地他に分布する現賛助員の中で、実際に賛助金を納入した現賛助員の全体的な実態をまとめることにする。

つまり、12月末においても8,965人の現賛助員が存在したことは、毎月10銭を納入する「毎月出金者」が年間1円20銭を、1年に1回納入する「年金一時出金者」が1円を、全員納入していたとすれば机上の試算では10,758円から8,965円の範囲内の賛助金収入になるが、実際の年間の全賛助金収入は4,830円45銭9厘と、8,965円の試算を基礎にすると、納入率は53.9%となり、現賛助員の半数近くが未納という現実があった。

その意味では、1904年の全国各地に分布する現賛助員の中で、実際に賛助金を納入した現賛助員の全体的な実態をまとめることは、同院の安定的な財源である賛助金収入を実際に支えた現賛助員の納入動向の特徴を説明することになり、本稿での研究目的の(2)の解明、分析に直結すると判断するからである。

(2) 全国に分布する現賛助員からの賛助金の納入の内容

全国に分布する現賛助員の賛助金の納入方法は、前述したように当初毎月10銭を納入する「毎月出金者」で始まり、1901年2月からは年1回1円を納入する「年一時出金者」の奨励が加わった⁶⁾。そして、1903年2月10日付の『岡山孤児院新報』第76号で、下記のように現賛助員の中の「毎月出金者」の「年一時出金者」への移行を依頼した。

月約賛助員の方々に御願申上候

これまで本院のため毎月金十銭宛の御寄附を御願申して居ましたが過去五年間の経験に徴するに各地方に於て地方委員の方々が毎月々々集金してくださる御手数中々のことにあらずまた寄附してくださる皆様に於ても毎月出すのは面倒など仰せらるゝ方もあり且つ毎月にすると送金料なり、集金費なり一年中では大したものになりますから本年よりは可成地方委員の方々の手数と集金、送金の費用を省くために

一年一回金壹圓宛

出金の年賛助員の方に改めてくださる様に御願申上ますすれば孤児院新報は毎月本院より直接に郵送いたします

この改正法につきては各地に於て地方委員の方々より御話くださる筈で御座りますが本院よりも事務員出張して皆様に御願申上の計畫でござりまするから何卒御承諾被下度願申上候（『岡山孤児院新報』第 76 号）

つまり、これまで 5 年間現賛助員から毎月 10 銭の賛助金の寄付をお願いし、各地の地方委員が毎月毎月集金し、その集金に手間がかかり、また、毎月寄付する現賛助員の皆様も「面倒など仰せられるゝ方」もおり、かつ、各地方委員からの毎月の賛助金の送金料や職員による集金費も「大したもの」になるため、1 年 1 回 1 円の「年賛助員」に移行することを依頼した。同時に、この移行により、毎月発行の『岡山孤児院新報』は岡山孤児院より直接現賛助員に郵送するとした。

さらに、この「改正法」については、各地の地方委員と同院の職員が現賛助員を訪問した際に「御話」する計画ですのでぜひ「御承諾」をお願いするという内容であった。

このため、1903 年 2 月から現賛助員の「毎月出金者」から「年一時出金者」への移行が加速していくことになったとみる。また、すでに「年一時出金者」になっていた現賛助員も多数おり、1904 年 1 月の時点では現賛助員

の大半が「年一時出金者」に移行していたと理解できた。

さらに、地方委員や同院の職員が訪問できない「地方」の現賛助員には賛助金の納入を郵便爲換か郵便切手での送付を求め、その送付先は岡山市門田屋敷岡山孤児院とし、東中島町郵便受取所宛とする依頼も『同新報』に、すでに何度も掲載していたことも付け加えておく。

このため、1904年の同院の安定的な財源である賛助金収入を実際に支えた現賛助員による納入の実態とその特徴を解明するには、「年一時出金者」の納入状況をまとめれば、その大半が把握できると判断し、「年一時出金者」の道府県市町村別と海外からの毎月の納入者の内容をまとめると表5（折込資料を123頁参照）のようになり、次にこの表5の内容を解明しその特徴を分析していくことにする。

なお、前述した「月約賛助員の方々に御願申上候」は、これまでの地方委員の仕事（役割）を大きく変更し、同院の賛助金集金の仕事も変化し、この変更と変化により同院の賛助員関係の事務も改善されたとみられるが、これらの点については後述する。

そして、表5をまとめてみると全国47の全て道府県の現賛助員から納入が確認でき、海外からの送金もあり、その月別の内容とその特徴は次のようであった。

北海道は、1月に1区6町8村3ヶ所から32人が、2月は釧路区21人を含め3区3町3村1ヶ所から42人が納入した。3月は1町1村1ヶ所3人、4月は2村7人、5月は2区4人、6月は1区1町2人、7月は2区2町9人、8月は函館区8人を含め2区1町1村11人、9月は札幌区4人、10月は2町1村3人であった。

そして、12月は1区3町9村2ヶ所より25人に増加し、全体では（以下全体では略）4区7町18村4ヶ所の合計（以下合計略）144人が納入し、最も多かったのは札幌区の計（以下計略）23人、2番目が釧路区22人で、以下函館区、寿都町、角田村各12人、旭川町7人、室蘭町6人と続いて

いた。

東北地方では、青森県が2月2村3人、3月1市1村4人等（等は団体からの納入で以下同様）、5月1市1村10人、12月2市3村8人の、2市5村より25人等が納入し、藤崎村11人が最も多く、弘前市5人等、青森市4人と続いた。岩手県では2月盛岡市1人、12月甲子村1人の、1市1村より2人が納入し、宮城県では1月石越村1人、6月仙台市2人、8月と10月同市各1人、12月1市1町3村7人の、1市1町4村より12人が納入し、仙台市7人が最も多かった。

秋田県からは、6月山瀬村1人、12月花輪町1人の、1町1村の2人が納入し、山形県は1月鶴岡町1人、2月萩原村1人、8月山形市3人の、1市1町1村より5人が納入した。

福島県は、1月1市1町8人、4月原町2人、6月日橋村2人、8月若松市1人、9月福島町1人、10月若松市4人、12月5町1村6人の、1市6町2村より24人が納入し、若松市12人が最も多かった。

このため、東北地方では、青森県の25人等が最大で、次が福島県24人、宮城県12人と続き、市町村別で多かったのは若松市12人、藤崎村11人、仙台市7人であった。

関東地方では、栃木県が1月栃木町1人、5月宇都宮市1人、12月1郡1村2人の、1郡1市1町1村より4人が納入し、茨城県では12月に1市2町4人が、群馬県では2月安中町2人、12月1町1村の3人の、2町1村より5人が納入し、埼玉県では1月浦和町1人、2月鶴瀬村1人、11月大岡村1人、12月1町1村2人の、1町3村より5人が納入した。

千葉県では、1月に1市2町1村4人等、2月東金町1人、3月野田町3人、6月大須賀村1人、11月佐原町1人、12月3町1村4人の、1市6町3村より14人が納入した。

東京府では1月東京市2人、2月同市487人、3月同市43人とこの2ヶ月で計530人に達し、その後は4月1市1町2人、5月東京市3人、6月

1市1町1村9人、7月1市1村2人、8月東京市1人、9月1市1町2人、11月東京市1人、12月1市1村4人であったため、1市3町3村より557人となり、うち551人が東京市の納入者であった。

神奈川県では、2月1市2村8人、3月1市1町1村82人で、この82人の中に横浜市69人、横須賀町12人が含まれていた。その後は4月横須賀町1人、6月1市1町5人、7月1市1町2人、8月横浜市1人、11月下田町1人、12月3町8人の、1市4町3村より108人が納入し、横浜市79人と横須賀町19人がその大半を占めた。

このように、関東地方では、東京府557人と神奈川県108人が最も多く、かつその内訳は2月と3月を中心として東京市551人、横浜市79人、横須賀町19人であり、同院の職員による現賛助員への集金を集中的に実施したとみることができた。なお、東京市を含む各地の市町村での同院の職員による集金活動の内容は、次頁でまとめることにし、ここでは、その可能性がある市町村を指摘しておくことに止める（以下同様）。

中部地方では、新潟県が1月1町1村2人、2月新潟市1人、3月1市2町3人、4月2町4人等、6月高田町2人、7月同町3人、10月相川町1人、11月1市1町6人、12月1町1村2人の、1市8町2村より24人等が納入し、新潟市は7人であった。

富山県では、1月富山市1人、2月守山町1人、3月2市2人、12月2市6人の、2市1町より富山市7人を含む10人で、石川県では3月金沢市11人、4月と5月同市各2人、10月同市1人、12月1市1町2村5人の、1市1町2村より21人が納入し、うち金沢市18人であった。

福井県では、2月福井市8人、7月面谷鉾山1人の、1市1ヵ所より9人が納入し、山梨県では2月と4月甲府市各1人の、1市2人の納入だけであった。また、長野県では、1月1市1町4村9人、5月1市1町2人、6月神科村1人、8月上田町2人、10月諏訪町1人、12月1市1町5村11人の、1市5町10村より27人が納入し、長野市が9人であった。

岐阜県では、3 月 1 市 1 町 4 人だけで、静岡県では 1 月静岡市 1 人、3 月 1 市 1 町 16 人で、5 月と 8 月静岡市各 2 人、6 月岡崎町 1 人、12 月 1 市 6 町 13 人の、1 市 7 町より 35 人が納入し、静岡市と沼津町の各 12 人が最も多かった。

愛知県では、1 月半田町 1 人、2 月 1 市 1 村 2 人、3 月名古屋市 21 人が多く、11 月 1 市 1 村 6 人で、1 市 1 町 2 村より 30 人となったが、やはり名古屋市 27 人が大半を占めていた。

このため、中部地方では静岡県 35 人、愛知県 30 人、長野県 27 人が上位で、名古屋市 27 人、金沢市 18 人、静岡市と沼津町各 12 人が多かった。このうち、3 月の沼津町 12 人、名古屋市 21 人は同院の職員による集金とみることができた。

近畿地方では、三重県が 1 月 2 市 2 人、2 月朝上村 1 人、3 月 2 村 2 人、4 月神山村 1 人、6 月大井村 2 人、8 月 2 村 2 人、11 月津市 3 人の、2 市 2 町 5 村より 13 人が納入し、滋賀県では 1 月 2 町 2 人、2 月大津市 14 人を含む 1 市 1 町 1 村 16 人、3 月幸島村 1 人、4 月水口町 1 人、5 月八幡町 3 人、7 月油日村 1 人、10 月草津町 1 人、11 月 1 市 1 町 2 人、12 月 1 郡 1 町 1 村 3 人の、1 郡 1 市 6 町 5 村より 30 人が納入し、大津市 15 人が多数であった。

京都府では、1 月 1 市 1 町 7 人、2 月京都市 203 人を含む 1 市 1 村 204 人、3 月 1 郡 1 市 1 町 4 人、5 月淀町 1 人、6 月京都市 2 人、9 月当尾村 1 人、10 月八幡町 3 人、11 月京都市 1 人、12 月 1 市 1 町 2 村 1 ヶ所 10 人の、1 郡 1 市 5 町 4 村 1 ヶ所より 233 人が納入し、京都市の 2 月 203 人を含む 214 人が大半を占めていた。

大阪府では、1 月 2 市 5 人、2 月大阪市 163 人、3 月同市 8 人、4 月同市 9 人、5 月同市 1 人、7 月 2 市 1 町 6 人、9 月高石村 1 人、10 月大阪市 2 人、12 月 1 市 1 村 5 人の、2 市 1 町 2 村より 200 人が納入し、大阪市の 2 月 163 人を含む 193 人が大半であった。このため、2 月の京都市と大阪市では、

同院の職員による集金活動が実施されたとみることができた。

兵庫県では、9月を除いて毎月納入者があり、1月は1郡1市1町3村8人、2月2市2町1村11人、3月神戸市180人を含む1市1町181人と最も多く、4月2市1町1村7人、5月尼崎町15人等を含む1市5町1村31人等、6月2町2村5人、7月生野町20人を含む1町2村22人、8月1市2町5人、10月1市2村7人、11月1市2町4人、12月2市8町5村25人であった。

このため、1郡2市14町16村より306人等が納入し、神戸市203人が半数以上を占め、生野町28人、尼崎町15人等で、納入者が県内各市町村に分布していた。さらに、3月の神戸市180人は、2月の京都市203人と大阪市163人と同様に、同院の職員による集金活動で多数の納入者があったためとみることができた。

奈良県では、1月1市3町1村5人、2月1市1町3人、4月1市1村3人、5月奈良市1人、12月白樫村1人の、1市4町3村より13人が納入し、和歌山県では1月2村3人、2月1町1村7人、3月2町4人、4月新宮町1人、6月大島村1人、7月和歌山市31人等を含む1市1町2村35人等、8月田辺町1人、9月下田原村1人、10月栗栖川村1人、11月和歌山市1人、12月2町2村7人の、1市4町9村より62人等が納入し、和歌山市32人等が半数を占め、7月の和歌山市32人等は同院の職員による集金活動とみることができた。

このように、近畿地方では、合計857人等の納入者となり、うち兵庫県が1郡2市14町16村1ヶ所より306人と最も多く、京都市233人、大阪府200人、7月の和歌山県62人等と続き、2月と3月の京都市203人、大阪市163人、神戸市180人、7月の和歌山市32人等は同院の職員による集金活動での多数の納入者であったとみることができた。

中国地方では、鳥取県が1月美保村1人、2月八東村1人、6月1市1町4人、10月鳥取市1人、11月米子町2人、12月河原村1人の、1市1町3村より10人が、島根県では1月3町1村4人、3月西郷町1人、6月

1 市 1 町 2 人、8 月太田町 1 人、11 月柏淵村 1 人、12 月 2 町 1 村 6 人の、
1 市 6 町 2 村より 15 人が納入した。

岡山県では、毎月納入者があり、1 月 1 市 3 町 11 村 27 人、2 月岡山市
73 人を含め 1 市 7 町 8 村 161 人、3 月 1 市 8 町 6 村 130 人で、うち岡山市
13 人、撫川村 20 人、高梁町 17 人、津山町 38 人、久世町 10 人、勝山町
18 人が含まれていた。その後 4 月 1 市 5 町 6 村 31 人、5 月 1 市 4 村 9 人、
6 月岡山市 18 人と五島町 24 人を含む 1 市 2 町 2 村 47 人、7 月総社町 10
人、成羽町 14 人を含む 1 市 5 町 3 村 56 人、8 月 1 市 1 村 6 人、9 月 1 市
1 町 5 村 9 人、10 月 1 市 5 村 8 人、11 月 1 市 2 村 6 人、12 月 1 市 9 町 17
村 40 人であった。

このため、1 市 21 町 61 村より 530 人等の納入者があり、うち岡山市
143 人等が最も多く、倉敷町 61 人、津山町 60 人、玉島町 33 人、高梁町
25 人、撫川村 20 人、勝山町 18 人、成羽町 16 人、総社町 11 人と続き、
これらの市町村では同院の職員が集金活動をしたとみる。

広島県では、1 月 1 市 1 町 1 村 6 人、2 月 1 市 1 町 1 村 5 人、3 月 2 市 4
人、4 月尾道市 41 人、福山町 37 人、府中町 14 人、松永町 14 人を含む 2
市 4 町 2 村 116 人、5 月 2 市 2 人、6 月広島市 22 人と呉市 15 人の 2 市 37 人、
9 月 1 町 1 村 2 人、11 月呉市 1 人、12 月呉市 16 人を含む 2 市 4 村 21 人
から納入があった。このため、3 市 7 町 9 村より 194 人が納入し、尾道市
41 人が最も多く、呉市 39 人、福山町 37 人、広島市 31 人、府中町 14 人、
松永町 14 人と続き、やはりこれらの市町村でも同院の職員の集金活動が
あったとみることができた。

山口県では、1 月 1 市 1 ヶ所 4 人、2 月 2 町 3 人、4 月 2 町 3 人、5 月岩
国町 27 人、山口町 18 人、下関市 12 人を含む 1 市 3 町 2 村 67 人と最も多
く、6 月徳山町 2 人、8 月 1 町 1 村 2 人、9 月 1 市 2 町 2 村 5 人、10 月 2
村 2 人、11 月防府町 1 人、12 月 2 町 4 村 7 人の、1 市 7 町 9 村 1 ヶ所よ
り 96 人が納入し、3 月の尾道市 41 人、福山市 37 人などは同院の職員に

よる集金であったとみられ、4月の岩国町 27 人、山口町 18 人、下関市 12 人なども同院の職員による集金活動とみることができた。

このように、中国地方では、岡山県 530 人等が最も多く、次が広島県 194 人、山口県 96 人と続き、岡山市 143 人等を含む 10 人以上の納入者のあった市町村などは、同院の職員による集金活動と理解できた。

四国地方では、徳島県が 1 月 3 村 3 人、4 月と 6 月徳島市各 1 人、7 月徳島市 20 人を含む 1 市 1 村 21 人と最も多く、1 市 4 村より 26 人が納入し、香川県では 1 月高松市 1 人、3 月 1 市 1 町 1 村 4 人、5 月 3 町 3 人、6 月麻野村 1 人、10 月高松市 25 人、多度津町 28 人を含む 2 市 2 町 60 人と最も多く、12 月 1 市 2 村 3 人であったため、2 市 4 町 4 村より 72 人が納入し、7 月徳島市 20 人や 10 月高松市 25 人、多度津町 28 人などは同院の職員による集金活動とみることができた。

愛媛県では、1 月今治町 38 人を含む 1 町 2 村 42 人が最大で、2 月 1 町 1 村 3 人、3 月 2 町 1 村 6 人、4 月 1 町 2 村 4 人、5 月 2 村 2 人、6 月八幡浜町 2 人、7 月今治町 1 人、9 月 2 村 2 人、12 月 2 町 6 村 19 人の、4 町 12 村より 81 人が納入し、1 月の今治町 38 人は同院の職員による集金とみることができた。

高知県では 1 月夜須村 2 人、2 月 1 市 1 町 1 村 3 人、3 月中村町 1 人、6 月安芸町 2 人、7 月高知市 42 人が最大で、12 月 2 町 2 人となり、1 市 3 町 2 村より 52 人が納入し、高知市 42 人が多数であった。

このように、四国地方では、愛媛県 81 人が最も多く、次が香川県 72 人、高知県 52 人で、1 月の今治町 38 人、7 月の徳島市 20 人と高知市 42 人、10 月の高松市 25 人と多度津町 28 人などは、同院の職員による集金活動とみることができた。

九州地方では、福岡県が 1 月 2 町 3 村 5 人、2 月 2 市 1 町 1 ヶ所 4 人、3 月 2 市 2 村 5 人、4 月福岡市 15 人、若松市 16 人、八幡町 21 人、久留米市 10 人、小倉市 27 人を含む 4 市 4 町 94 人、5 月柳川町 10 人、大牟田町

10 人、門司市 35 人の 1 市 2 町 56 人となり、6 月 1 市 1 町 3 人、7 月門司市 1 人、8 月警固村 1 人、12 月 3 市 2 町 3 村 8 人となった。

このため、5 市 8 町 8 村 1 ヶ所より 180 人が納入し、4 月と 5 月は 8 市町で 10 人以上が納入していたが、これは先の 4 月尾道市 41 人などや 5 月岩国町 27 人などと関連し、この時期に瀬戸内海沿岸等の市町村で同院の職員による集金活動の結果とみることができた。

佐賀県では、1 月東嬉野村 1 人、2 月北波多村 1 人、3 月唐津町 2 人、5 月 1 市 1 町 11 人のみで、1 市 1 町 2 村より 15 人が納入した。長崎県では 1 月長崎市 1 人、2 月佐世保市 1 人、3 月長崎市 3 人、4 月同市 1 人、5 月同市 28 人、佐世保市 30 人の計 58 人と最も多く、6 月 1 市 1 村 2 人、8 月長崎市 10 人、9 月 2 市 3 人、11 月長崎市 2 人、12 月 1 市 1 町 2 人の、2 市 1 町 1 村より 84 人が納入し、長崎市 48 人と佐世保市 34 人が大半を占め、うち 5 月の長崎市 28 人と佐世保市 30 人が中心であったため、これも同院の職員による集金活動とみることができた。

熊本県では、3 月熊本市 1 人、4 月熊本市 13 人を含む 1 市 1 町 20 人、9 月坂梨村 1 人、12 月 2 町 1 村 3 人の、1 市 2 町 2 村より 25 人が納入し、4 月の熊本市 13 人が多かった。大分県では、1 月青江村 1 人、5 月中津町 13 人が最大で、10 月 1 市 1 村 2 人、11 月北方新町 1 人、12 月臼杵町 1 人の、3 町 1 村より 18 人が納入し、宮崎県では 1 月 1 町 1 村 9 人、2 月 1 町 1 村 3 人、3 月都城町 3 人、5 月木城村 1 人、6 月 2 村 2 人、7 月延岡市 2 人、8 月宮崎町 1 人、11 月佐土原村 1 人、12 月 1 町 2 村 4 人の、3 町 7 村より 23 人が納入し、北方村 9 人が多かった。

鹿児島県では、1 月 1 市 2 村 1 ヶ所 5 人、2 月鹿児島市 1 人、3 月種子村 1 人、4 月鹿児島市 2 人、5 月と 8 月同市各 1 人、11 月東南方村 1 人の、1 市 3 村 1 ヶ所より 12 人が納入し、沖縄県では 1 月切田 1 人であった。

このため、九州地方では、福岡県 180 人、長崎県 84 人、熊本県 25 人、宮崎県 23 人、大分県 18 人と続き、4 月と 5 月に福岡県内の 5 市 6 町より

150人、5月に佐賀県内で1市1町より11人、同月に長崎県内の2市より58人、4月に熊本県内の1市1町より20人、5月に大分県の中津町13人の納入は、同地域での同院の職員による集金活動とみることができた。

そして、海外では、韓国から3月仁川2人、3月同1人、4月鎮南浦1人、5月2ヶ所4人、6月2ヶ所3人、7月釜山2人、8月仁川1人、9月同2人の、4ヶ所より16人が、清国では2月天津1人、3月南台3人、8月と10月天津各1人の、2ヶ所より6人が納入した。

台湾では、3月新竹12人、台南9人、台北9人、基隆6人を含む5ヶ所37人と最大の納入者であったが、これは前述した2月から3月初旬に台湾の6ヶ所等で音楽幻燈（活動写真）会を実施し、この時の新賛助員が賛助金を納入したためとみる。また、その後も4月台南1人、5月2ヶ所3人、6月台中37人を含む4ヶ所44人、7月5ヶ所13人、8月4ヶ所7人、9月3ヶ所4人、10月3ヶ所7人、11月台北4人から納入があり、合計11ヶ所より120人が納入し、台中37人が最大で、台北21人、台南17人、新竹16人、基隆12人と続いた。

米国では、2月桑港1人、9月と10月桑港各1人の3人およびハワイで3月1人、5月4人の5人が納入し、その他に2月大日本水雷艇乗員1人、同軍艦赤木1人、第五師団等2人から納入があった。

以上のように、「年一時出金者」は、全国47道府県の4郡51市4区166町263村9ヶ所と海外5ヶ国他などの22ヶ所より3,498人等の納入が確認できた。最大は東京府557人、次が岡山県530人等、兵庫県306人、京都府233人、大阪府200人、広島県194人、福岡県180人、北海道144人、台湾120人、神奈川県108人と続いた。また、市区町村では、東京市551人、京都市214人、神戸市199人、大阪市193人、岡山市143人等、横浜市79人、倉敷町61人と続いていた。

そして、1904年の「年一時出金者」の総数が3,498人であったことから判断し、同年の「年一時出金者」の納入額は最低でも3,498円（複数年

を一度に納入した現賛助員を含めるともう少し高額になるとみる）と理解でき、同年の全賛助金収入が 4,830 円 45 銭 9 厘であったことから、その 72.4%程度が「年一時出金者」からの納入と推定できた。

そこで次に、全国 47 道府県の 4 郡 51 市 4 区 166 町 263 村 9 ヶ所と海外 5 ヶ国他などの 22 ヶ所よりの 3,498 人の納入者を中心とした賛助金が、どのように送金または集金したのかを解明していくことにする。

つまり、これまでの研究を通して、現賛助員からの納入方法は 3 つあり、1 つは現賛助員が直接岡山孤児院に納入する方法、2 つは前述した同院の職員が現賛助員を訪問して集金する方法、3 つは全国各地に散在する地方委員が担当地区の現賛助員を訪問等により賛助金を集金し、同院に送金する方法であった。

この 3 つの方法により全国に分布する 3,498 人の納入者を中心にした現賛助員が、実際にはどのような方法で実施したのかを解明し、1904 年の賛助金の送金および集金活動の特徴を分析していくことにする。特に、1904 年は、前述したように「年一時出金者」が 72.4%程度となり、「毎月出金者」が「年一時出金者」への移行する中で、全国各地に分布する現賛助員より先の 3 つの納入方法（送金および集金活動）でどの程度の賛助金を集め、その結果 3 つの納入方法の役割分担がどう変化するかの特徴を分析していくことにする。

（3）現賛助員から岡山孤児院に直接納入された賛助金の動向

現賛助員から岡山孤児院に直接納入（送金）された毎月の賛助金の金額をまとめると表 6 の「本部直接収入」の欄のようになる⁷⁾。1 月が 199 円 32 銭で、2 月 104 円 42 銭、3 月 93 円 90 銭であったが 4 月 70 円 30 銭に減少し、5 月からは 60 円台から 40 円台に減額し、12 月 385 円 39 銭に急増した。この 12 月の急増は、「年一時出金者」などが 12 月に納入（送金）したからとみられ、表 5 の 12 月の欄の全国 39 道府県からの納入者 277 人

1904 (明治 37) 年の職員による賛助金の月別の集金内容

< 表 6 >

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
本部直接収入	199.320	104.420	93.900	70.300	70.778	49.450	52.770	43.620	57.930	51.800	41.900	385.390	1221.578
福山町大島三郎	3.000												3.000
今治町大島三郎	44.200												44.200
岡山市集金人	12.500		8.400	4.900									25.800
岡山市渡辺万吉郎		94.900				33.500	19.300	8.300				3.200	159.200
撫川村・庭瀬町渡辺万吉郎			22.600										22.600
早島町渡辺万吉郎			0.100										0.100
妹尾町渡辺万吉郎			3.000										3.000
茶屋町渡辺万吉郎			5.000										5.000
津山町渡辺万吉郎			45.000										45.000
久世町渡辺万吉郎			12.500										12.500
勝山町渡辺万吉郎			17.300										17.300
西川村渡辺万吉郎			3.000										3.000
弓削村渡辺万吉郎			1.000										1.000
玉島町渡辺万吉郎						16.300							16.300
笠岡町渡辺万吉郎						10.000							10.000
高梁町渡辺万吉郎						9.700	8.700						18.400
総社町渡辺万吉郎							10.000						10.000
羽成町渡辺万吉郎							15.000						15.000
吹屋町渡辺万吉郎							9.000						9.000
新見町渡辺万吉郎							3.000						3.000
味野村渡辺万吉郎								4.000					4.000

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中畠・菊池）（59） 208

[illegible]

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
沼津町 佐久間 武男			11.000										11.000
静岡市 佐久間 武男			2.000										2.000
名古屋 市佐久 間武男			24.300										24.300
岐阜市 佐久間 武男			2.300										2.300
大垣町 佐久間 武男			3.000										3.000
小倉市 佐久間 武男				27.700									27.700
若松市 佐久間 武男				15.500									15.500
八幡町 佐久間 武男				22.500									22.500
福岡市 佐久間 武男				15.400									15.400
飯塚町 佐久間 武男				4.300									4.300
久留米 市佐久 間武男				12.000									12.000
熊本市 佐久間 武男				13.500									13.500
八代町 佐久間 武男				9.200									9.200
大牟田 町佐久 間武男					11.000								11.000
柳河町 佐久間 武男				10.000									10.000
佐賀市 佐久間 武男					3.000								3.000
唐津町 佐久間 武男					8.500								8.500
佐世保 市佐久 間武男					31.000								31.000
長崎市 佐久間 武男					30.700								30.700
門司市 佐久間 武男					38.156								38.156
中津町 佐久間 武男					14.000								14.000
高松市 佐久間 武男										25.000			25.000

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中畠・菊池) (61) 206

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
丸 亀 町										6.000			6.000
佐 久 間													
武 男										29.000			29.000
多 度 津													
町 佐 久										1.000			1.000
間 武 男													
琴 平 町													
佐 久 間													
武 男													
京 都 市		239.200											239.200
佐 藤 弘													
之													
大 阪 市		175.000	5.000										180.000
佐 藤 弘													
之													
神 戸 市			195.500										195.500
佐 藤 弘													
之													
京 都 市						2.000							2.000
佐 藤 弘													
之													
東 京 市						1.000							1.000
佐 藤 弘													
之													
横 浜 市						4.500							4.500
佐 藤 弘													
之													
基 隆 入 江			5.000										5.000
大 九 郎													
台 南 森			15.000										15.000
上 信													
台 北 光			14.350										14.350
延 義 民													
新 竹 光			12.900										12.900
延 義 民													
大 阪 市				9.000									9.000
光 延 義 民													
大 阪 市						9.000							9.000
光 延 義 民													
東 京 市													
光 延 義 民													
名 古 屋											5.000		5.000
市 光 延 義 民													
義 民													
横 須 賀												6.000	6.000
町 光 延 義 民													
山 形 市								3.000					3.000
小 野 田 鎮													
倉 敷 町									5.000				5.000
小 野 田 鎮													
津 市 小 野 田 鎮											3.000		3.000
静 岡 市 末 藤 新 市												4.000	4.000
岡 山 市 集 金 人											0.500		0.500
岡 山 市 集 金 人												25.400	25.400
①計	259.020	1,108.520	672.065	328.300	278.334	168.050	223.170	74.520	77.630	126.800	50.400	425.990	3,792.799

(『岡山孤児院新報』第 88 号から第 99 号より作成)

も含まれていたとみる。そして、同院に直接納入(送金)された「本部直接収入」の合計金額は 1,221 円 57 銭 8 厘となり、年間全賛助金収入 4,830 円 45 銭 9 厘の 25.3%を占めた。

さらに、昨年の「本部直接収入」の合計金額が 928 円 97 銭で、年間全

賛助金は5,647円48銭であったため、「本部直接収入」は16.4%となり、この昨年の数字と比較すると、金額では292円60銭8厘、割合では8.9%増加していた。このため、年間全賛助金は、昨年より817円2銭1厘減少する中で「本部直接収入」が増加していたことが確認できた。その原因は、1903年2月の「毎月出金者」から「年一時出金者」への移行の奨励が現賛助員に浸透し、全国各地の現賛助員が岡山孤児院へ年1回1円の「年一時出金」を直接納入(送金)する人々が増加したためと理解できた。また、その増加により、職員や地方委員による集金活動が反比例的に減少傾向になるという特徴も想定できた。

そして、全国各地に分布する現賛助員から同院へ直接納入(送金)された賛助金は、同院を支援する目的で現賛助員が自主的、主体的に納入(送金、以下送金を使用)したと仮定できた。その意味で先のような現賛助員は当時の岡山孤児院という慈善事業施設を、個人として自主的、主体的に支援する一般民衆と理解でき、かつ、そのような一般民衆が全国に分布し、一般民衆の全国的な支援ネットワークの1つが具体化していた事実を裏付けるものと理解できた。

そこで、その具体例の内容の一端を1904年の『岡山孤児院新報』に掲載されていた記事よりまとめると次のようになり、研究目的の(4)の中の岡山孤児院の実践から、現賛助員などがどのような啓蒙を受け、彼等が慈善事業に対しどのような認識としての価値(感)観を持つようになったか的一端を分析してみる。なお、全国の現賛助員からの直接送金以外の職員および地方委員による現賛助員からの集金活動の内容は、次項以下でまとめることにする。

1月20日の『同院新報』第88号の「日誌一月中」に「一日三厘宛を貯金して」という記事が掲載され、昨年7月より新賛助員として加入した「とし」という女性から、次のような手紙を添て賛助金が送金されてきた。

寒さきびしく候へ共院長様を初め諸兄達健かに候やさて私事七月頃より
賛助員となりて日日三厘づゝ貯へ候ひしに歳末に至り右の金子と相成候
間御送申上候多忙のため延引いたし候へ共御ゆるし下され度候あらへ
かしこ　　一月十九日　　とし方　　（『岡山孤児院新報』第 88 号）

この手紙で注目できたのは、「寒さきびしく候へ共院長様を初め諸兄達
健かに候や」と、冬の寒さが厳しい中で石井院長以下全院兄が「健か」で
あるかを気遣う文章から始まり、それに続けて岡山孤児院が奨励した賛助
金の貯蓄方法である毎日 3 厘ずつを貯金して、12 月末になったので送金
することにしたが、本人が多忙で送金が遅れたことを「御ゆるし下され」
と結んでいたことである。

つまり、岡山孤児院という慈善事業施設への敬意と院児達の健全な成長
への気遣いを記した内容が注目でき、この女性が当時の慈善事業施設を社
会的に重要な存在と認識し、そこで暮らす院児の健全な発達と成長を願う
意識が内包されていたと読み取ることができたからである。

また、同日には、現賛助員の河合與平次郎が来院して院内を参観し、昨
年と本年の 2 ヶ年分の賛助金を納入していたが、この参観と納入は河合自
身が現賛助員として、岡山孤児院という慈善事業施設の現場を訪問し、同
院の活動を直接見聞し、自分の寄付という行為の意味を体験的に理解する
自主的、主体的な意志（実践）が内包されていると判断できた。

さらに、同日神戸市三宮町の西村正次も来院して同院を参観し、参観後
に新賛助員として入会し本年分の賛助金を寄付したが、こちらは、本人が
岡山孤児院という慈善事業施設に興味を持ち、その興味を実行に移し遠方
の神戸市より来院し、同院が本人の予想を超えた慈善事業施設であったた
めか、同院の活動に共感し一人の個人として自主的、主体的に同院を支援
することを決意し、新賛助員へ入会しその場で賛助金を支払ったと解釈で
きた。

2月8日には、東京市日本橋蛸殻町の現賛助員の田中文二郎より、亡母の13回忌に5円の寄付があった。この寄付金は、賛助金に加えて亡母の13回忌という本人の最も大切な行事を記念する目的で、同院への寄付を本人自らが選択して実行した点が注目できた。つまり、岡山孤児院という慈善事業施設への寄付が、本人の最も大切な行事の亡母の13回忌を記念するに値する価値があるものと認識し、現賛助員として新たな寄付を実施したと理解できたからである。

さらに、この寄付金に添えられた手紙の中で、亡母の13回忌が2月11日なので、その「十一日に常食の他何品にても宜敷孤児一同へ喰物遣はし度に付」この5円を寄付したいと記し、寄付金の使用目的を院児への食物の寄付と指定していたことは、最も大切な亡母の13回忌という記念行事を院児たちと共有したいという意図があったと理解でき、この意図の中に亡母と院児と自分とを対等な関係とみる意識が芽生えていたと想定でき注目できた。

そして、同院では11日院児全員に先の田中の「御精神を話しきかせ」寄付金の5円で密柑を購入して院児に配布し、寄付者の意志を共有していた。

2月26日には、福岡県若松町の若松製鉄所の吉田定次郎が来院し新賛助員に入会し賛助金1円を寄付した。この入会の意味は、先の神戸市の西村正次と同様と判断できた。なお、以下同類の入会は同じような意味と理解し、その解説は省略する。

3月9日には、徳島県三好郡三町村の現賛助員の平尾常十郎が、村内の有志54人を勧誘して1円97銭を募集し送金してきた。これは、同院の現賛助員として同院の事業を地元の関係者に広報し寄付金を募集した活動で、現賛助員として同院の慈善事業を積極的かつ自主的に啓蒙する地方委員に近い活動と理解できた。

12日には、岡山県御津郡金川村の二宮二郎が来院し、新賛助員に加入

し同金 1 円と臨時寄付金 1 円を寄付した。また、8 月 24 日にも古新聞の売却代 36 銭とライオン券 12 枚の恵贈があった。

25 日には、清国南台で兵役に付いた小園江隆哉より本人を含む新賛助員 3 人の入会と 3 円の郵便小為替が送付された。その小園江からの書簡によると、本人は群馬県高崎市出身で一昨年小商人として清国福州に渡航し、本年 1 月に渡台した際に基隆で同院の音楽幻燈（活動写真）会を観て、「院主石井氏の御熱心と今日の隆盛」を知り、国のため同院のため、同情ある友人と相談し賛助員募集をしていたが、帰福と同時に「日露の開戦」で戦地に出発することになったので、賛助員募集ができなくなり、3 人分の入会を送付するという主旨であった。

この内容から、台湾での同（活動写真）会を観て啓蒙され、同院への協力のため賛助員募集を友人と自主的に始めたが、日露戦争で出征することになり中断し、本人他 2 人が新賛助員に入会するという、日露戦争の開戦という当時の世相を反映した新賛助員の加入例であった。

28 日には、ハワイのホノルルの医師勝木布太郎が来院し新賛助員となり 10 年分の賛助金を寄付し、翌 29 日には工兵第一大隊の竹内熊次郎が、出軍の途中に来院して参観し、5 円を寄付し新賛助員に入会したが、この例は出軍という人生の転機に、慈善事業施設を見学し、5 円という大金を寄付して善行を示すためとも推測でき、やはり当時の世相を反映した入会例と言えた。

4 月 29 日には、台南の現賛助員遠藤くに子と令嬢が帰途神戸市より汽車で来院し、基本金へ 10 円、賛助金 2 人分の 10 円を寄付した。この訪問と寄付には、現賛助員の河合與平次郎と同様の意味が含まれていたと理解できた。以下同類の活動も同じような意味と判断し解説を省略する。

6 月 22 日には、台湾新竹西門街の原田島吉が、賛助員申込書と臨時寄付金 50 銭を送付し入会し、24 日には姫路師範学校付属小学校の現賛助員の神崎竹代が賛助金と臨時寄付金が送付し、28 日には長崎市中川の現賛

助員の宮脇れん子が賛助金と臨時寄付金を送金し、いずれも賛助金だけでなく臨時寄付金を加えて一緒に送金するケースであった。

このような、賛助金に臨時寄附金を加えるという行為は、慈善事業施設である岡山孤児院への支援の思いがさらに強いための主体的な相乗効果的行為と判断できた（以下賛助金と臨時寄附金等を一緒に送る行為の意味は同様と理解し、その説明は省略）。また、30日には、東京府中野町の現賛助員の青木寿太郎が賛助金を送金してきた。

7月2日には、現賛助員の西山明教（大阪市堂島）から、6月30日の天皇皇后両陛下よりの恩賜金1,000円の下賜を祝して祝歌が送られ、7月30日には東京市の小野田元良が来院し新賛助員になり、同金50銭を寄付した。

8月8日には、島根県小松島村の土橋新七より、現賛助員であった土橋綱五郎が「東都遊学中病気」となり、「種々手」を尽して保養していたが「天命」により薬の効果なく先日「死去」したので、本人の生前の「遺言」により5円を寄付し、現賛助員を退会するという主旨の書簡が届いた。

この内容は、現賛助員の土橋綱五郎が自らの死を前にしても岡山孤児院への支援を強く認識し、「遺言」で同院への寄付を望み、家族がそれを実行した例であり、やはり慈善事業施設岡山孤児院への深い敬意と同院の発展を願う気持ちが行動として実行されたことが注目できた。

翌9日には、日露戦争に出征中の現賛助員の常□盛松より、出征の経過と戦地を転戦してロシア軍との戦闘を交えて勝利に向って前進する決意などを記した書簡に、賛助金1円を添え野戦郵便局より送金してきた。

その書簡には「○月5日○○○○に接し十三日○○丸出帆いよ／＼征露の途に従事致し○○○及び○○○、○○○、○○○、及○○○附近に交戦只今○○を去る十四五里の地に○○致」（○は原文のママ）し、5、6週中には必ず満州に於けるロシアの誇る基地に「我日章旗を押立て、天皇陛下万歳」を唱えたいので、その際は後日詳しく報告する。願くば「孤児諸子を

督励し國家の鉄柵たる軍人志願を十分」に果たしたいと記していた。

13 日には、神戸市中山手通の現賛助員の赤見誠三郎より、「故令夫人一周紀念」のため 5 円を基本金に寄付してきた。18 日には、岡山県師範学校の星校長の案内で東京市の樋口勘二郎が来院し、新賛助員に入会し、2 年分の 2 円を寄付し、女子の編物を購入して帰った。

9 月 9 日には、現賛助員で出征中の〇〇〇衛生隊所属の横田虎治より賛助金の恵送があり、東京市小石川区の山崎政二よりは現賛助員の妹が永眠し、その「御遺志」により生前着用の衣類を寄贈してきた。

26 日には、神奈川県横須賀町の現賛助員の寺島大浩より本人の誕生日を祝して、1 円の寄付があったが、これも本人の誕生の慶事を同院の院児と共に祝おうとした寄付とみることができる。

10 月 16 日には、岡山県沖村の現賛助員の小野寿子が岡山市の井上のへ子と来院、小野は古着 1 包と 50 銭、井上が 20 銭を寄付したが、これは現賛助員による関係者への啓蒙活動と理解できた。

20 日には、毎回『岡山孤児院新報』の送付を受けている（たぶん現賛助員）カナダのバンクーバー在住の金子民三郎より基本金へ 20 円の寄付があった。その書簡の中で、本人が「貴院の為め御盡力申上候と存じ心懸け」ているが、「目下戦争への献金盡力中」に加えて、当地の日本人の事業が不景気で、その志はあるが「其力乏しく如何」ともしがたいと、同地では日露戦争への献金と不景気で岡山孤児院への寄付が集まりにくいと報告しつつ 20 円を送金してきた。

24 日には、台湾平安港の現賛助員の渡辺きせ子より小包郵便の恵送があり、翌 25 日には和歌山県同市の現賛助員茨木昭一より書籍と絵はがき、福岡県小倉市の現賛助員の柴田董之は古着 2 包を寄贈してきた。

11 月 2 日には、滋賀県大津市の現賛助員の西本栄児より賛助金 1 円と臨時寄付金 1 円の恵贈があり、軍艦松島の乗組員で現賛助員篠原善太郎よりは賛助金 50 銭と臨時寄付金 50 銭が、5 日には東京市京橋区の現賛助員

の閑除作より賛助金 1 円と基本金 1 円が送金された。

15 日には、姫路市の現賛助員中島規之より賛助金と臨時寄付金 1 円が送金され、24 日には軍艦橋立の乗組員の新美勝三郎（現賛助員か）が新賛助員を勧誘し、賛助金と臨時寄付金を取りまとめ恵贈してきた。さらに、新美は 12 月 10 日にも乗組員の賛助金と寄付金を取りまとめ 34 円 35 銭を送付してきた。

また、この新美の新賛助員募集により、表 2 の 11 月の軍艦橋立 1 人と 12 月同 57 人の加入が実現したが、表 5 の「年一時出金者」には先の 34 円 35 銭の送金による現賛助員の人数が反映されていない。たぶん手元の『岡山孤児院新報』第 99 号に欠落があったためとみる。

12 月 6 日には、清国の遼陽停車場の現賛助員の李遠より賛助金 1 円が送金され、15 日には福島県庭坂村の現賛助員伴久太郎より賛助金、臨時寄付金、クリスマス祝として 40 銭とライオン歯磨慈善券、古切手が恵贈された。

また、同日、台湾総督府民政部在職中に新賛助員に加入し、その後満州金鉾調査隊員として清国鳳凰庁で活動中の留岡善九郎より賛助金 1 円と寄付金 2 円が送金された。

24 日には、新潟県高城村の現賛助員妹尾園子より賛助金 1 円と某夫人として基本金 40 円が、26 日には香川県大野村の現賛助員土田志満より賛助金 1 円と 4 月からリボン等の髪飾りをやめて蓄えた 30 銭が寄付された。

29 日には、広島県呉市の呉海兵団の現賛助員朝比奈充より、本人の寄付金 1 円、同団軍楽手の村田十九雄と伊藤揮代士の新賛助員入会費 2 円、同団員等からの寄付 1 円 18 銭が恵贈された。

以上が、1904 年に現賛助員より同院へ直接納入（送金）した具体例の一端の 40 例であるが、この 40 例を大別すると㊦全国各地の現賛助員より賛助金や寄付金等が送金された例が 31 例、㊧各地から岡山孤児院を訪問し参観して新賛助員に加入し直後に直接賛助金を納入した例が 8 例で、郵

送での新賛助員への加入が 1 例あった。また、㊦と㊧の中には㊨出征兵士となり戦地等からの新賛助員加入や賛助金送金等の例が 7 例含まれていた。

さらに、㊦の中には賛助金と一緒にまたは個別に臨時寄付金等を恵送し、新賛助員や寄付金を募集した例および本人の「遺言」で寄付した例もあり、その意味でこのような現賛助員は、自主的、主体的な認識や意志を持って慈善事業施設岡山孤児院を積極的に支援する現賛助員のグループと判断できた。また、㊧のグループも自主的、主体的に同院を訪問し参観し、その直後新賛助員に加入し賛助金を納入していたため、㊦と同様のグループに含まれると理解できた。

（4）職員による現賛助員からの集金活動の内容

次に、同院の職員による現賛助員からの賛助金の集金活動の内容を説明すると、賛助金の集金活動は昨年に引き続き外部事務員が担当し、佐久間武男、佐藤弘之、大島三郎、入江大九郎、光延義民などで、1 月 4 日に草地磯吉が退職したため、2 月 7 日から再度渡辺万吉郎が外部事務員に就任した⁸⁾。

また、彼らは並行して音楽幻燈（活動写真）隊の先発準備員も担当しており、その時々状況に応じて 2 つの役割を使いわけ、さらに、賛助金の集金活動では新賛助員の募集も同時に実施していた。

そして、最も注目できたのは、先の外部事務員などの職員による集金額の合計が 3,792 円 79 銭 9 厘に達し（表 6）、全賛助金収入 4,830 円 45 銭 9 厘の 78.56%を占め、総歳入の 7.4%であったことである。

つまり、1904 年の全賛助金収入の 8 割近くが外部事務員を中心とした職員による集金活動で集められていたため、職員による集金活動が 1904 年の全賛助金収入を支えていたという特徴が理解できた。

また、職員の集金活動には、各地に散在する現賛助員宅を訪問して集金

するため旅費と宿泊費の支出が伴い、その支出は表4の中の賛助金集金費で、1月が13円72銭を使用し、2月73円71銭5厘で、3月102円93銭が最も多くなり、4月から7月までは10円台から60円台、8月から11月を除く12月までは3円から6円台の合計385円11銭9厘の支出があった。

このため、職員による集金額合計3,792円79銭9厘より385円11銭9厘を差し引いた3,407円68銭が実質的な収益金となり、収益率が89.8%であった。この収益率から判明したことは、旅費と宿泊費を使っても職員による集金活動は効率的で、必要かつ重要であることが確認できたことである。ただし、職員への手当の支払いは含まれていないが。

そこで、このような最も重要な集金活動を担った職員による、個々の集金活動の内容をまとめると表6のようになり、どのような集金活動を実施したかを解明すると次のようになる。

まず、大島三郎は、1月14日今治町での賛助金集金活動等のため岡山孤児院を出発し、途中の福山町（福知山は誤記と判断）で3円を集金し、今治町では44円20銭を集金し、11日後の24日同町の無露文治牧師より孤児（愛小12歳）の収容を依頼され、同児を伴い帰院した。このうち、先の44円20銭の納入者の中の「年一時出金者」が、表5の愛媛県の1月の欄の38人となり、その氏名が確認できた。

つまり、44円20銭のうち38円は「年一時出金者」で残りの6円20銭は「毎月出金者」とみることができた。さらに、今回は賛助金の集金活動と同時に地元の孤児の収容を実施していたことも確認できた。ただし、大島は、この1月の集金活動後は同活動を担当せず、主に音楽幻燈（活動写真）隊の巡回運動を担当したとみる。

それから、外部事務員ではないが、岡山市の賛助金集金人の活動が確認できたので、その活動もみていくと、1月に12円50銭、3月に8円40銭、4月に4円90銭を集金し合計25円80銭を集めていた。このうちの「年一時出金者」は表5から1月10人、3月13人、4月4人であったとみる。

そして、2 月 7 日に再度外部事務員に就任した渡辺万吉郎は、岡山市で 2 月に 94 円 90 銭を集金し、うち 73 人は「年一時出金者」であったとみる。3 月は、撫川村と庭瀬町で 22 円 60 銭（うち表 5 の「年一時出金者」20 人を含むとみる、以下カッコ内の数字は同様）、早島町 10 銭、妹尾町 3 円（3 人）、茶屋町 5 円（4 人）、津山町 45 円（38 人）、久世町 12 円 50 銭（10 人）、勝山町 17 円 30 銭（18 人）、西川村 3 円、弓削村 1 円（1 人）と岡山県内の町村を集金した。

4 月に入ると渡辺は、福山町 45 円 30 銭（37 人）、新市村 4 円（4 人）、府中町 14 円（14 人）、松永町 16 円（14 人）、尾道市 42 円 70 銭（41 人）、三原町 2 円（2 人）を集金し、5 月も引き続き瀬戸内海沿岸の三田尻村 5 円（5 人）、宮市町 3 円（2 人）、山口町 18 円（18 人）、長府村 3 円（3 人）、下関市 11 円 50 銭（12 人の一部）を集金した。

6 月は、岡山市内で 33 円 50 銭（18 人）を集金し、玉島町 16 円 30 銭（24 人の一部）、笠岡町 10 円、高梁町 9 円 70 銭（2 人）を集め、広島県呉市に行き 9 円（15 人の一部）、広島市 21 円 60 銭（22 人）、山口県徳山町 2 円（2 人）を集金した。

7 月は、岡山市 19 円 30 銭（6 人）、総社町 10 円（10 人）、高梁町 8 円 70 銭（6 人）、成羽町 15 円（14 人）、吹屋町 9 円（8 人）、新見町 3 円（2 人）を集金し、さらに、大阪府岸和田町に行き 4 円 30 銭（3 人）、次に和歌山市で 35 円 60 銭（31 人）、その後四国に渡り徳島市で 20 円 50 銭（20 人）、高知市で 45 円（42 人）を集めた。

8 月は、岡山市で 8 円 30 銭（2 人）、味野村 4 円（4 人）を集金し、その後 9 月から 11 月は賛助金集金を担当せず、12 月に岡山市 3 円 20 銭（6 人等の一部）を集めていた。なお、12 月の愛知県豊橋町 2 円は同地の音楽幻燈（活動写真）会で新賛助員に加入した 2 人（表 2 の 11 月 1 人、12 月 1 人）からの集金とみることができた。

このため、渡辺は、2 月から 8 月に岡山県内と瀬戸内海沿岸の中国地方

や近畿地方と四国地方の市町村の集金活動を担当し計 658 円 90 銭を集金し、職員による全集金額 3,792 円 79 銭 9 厘の 17.4%、全賛助金収入 4,830 円 45 銭 9 厘の 13.6%を集めていたことが確認できた。

次に、佐久間武男の賛助金の集金活動をみていくと、佐久間の場合は、まず『岡山孤児院新報』第 87 号(1904 年 1 月 15 日)と第 88 号(同年 2 月 15 日)に「特別廣告」として 1 月 15 日付の「賛助金集金出張廣告」が掲載され、東京市と横浜市で「例年の通り出張」して「本年分賛助金」を集金することを告知し集金活動に着手した。

つまり、佐久間は、1 月 6 日に東京市に向け出発し、1 月から 2 月にかけて同市内で 495 円(487 人)を集金した。3 月にも東京市 89 円 51 銭 5 厘(43 人)、横浜市 67 円 50 銭(69 人の一部)、横須賀町 12 円 90 銭(12 人)を集金し、横浜市では新賛助員 20 人(表 2、以下同様に新賛助員数は表 2 より)を募集し、帰りに沼津町 11 円(12 人の一部)、静岡市 2 円(4 人の一部)、名古屋市 24 円 30 銭(21 人)、岐阜市 2 円 30 銭(2 人)、大垣町 3 円(2 人)を集め帰院した。

4 月と 5 月は福岡県、熊本県、佐賀県、長崎県、大分県内の各市町を巡回し、4 月に小倉市 27 円 70 銭(27 人)、若松市 15 円 50 銭(16 人の一部)、八幡町 22 円 50 銭(21 人)、福岡市 15 円 40 銭(15 人)、飯塚町 4 円 30 銭(.3 人)、久留米市 12 円(10 人)、熊本市 13 円 50 銭(13 人)、八代町 9 円 20 銭(7 人)を集金した。続けて 5 月は大牟田町 11 円(10 人)、柳河町 10 円(10 人)、佐賀市 3 円(3 人)、唐津町 8 円 50 銭(8 人)、佐世保市 31 円(30 人)、長崎市 30 円 70 銭(28 人)、門司市 38 円 15 銭 6 厘(35 人)、中津町 14 円(13 人)を集め、かつ、新賛助員を唐津町 1 人、佐世保市 3 人、長崎市 7 人、門司市 4 人を募集して帰院した。そして、岡山市でも 20 円 70 銭(3 人)と新賛助員 4 人を集めた。

6 月、7 月は集金活動がなく、8 月は岡山市で 15 円 60 銭(4 人)、9 月も同市で 14 円 70 銭(1 人)、10 月も同市で 14 円(3 人)を集め、また、

香川県高松市 25 円 (25 人)、丸亀町 6 円 (6 人)、多度津町 29 円 (28 人)、
琴平町 1 円 (1 人) を集金し帰院し、11 月と 12 月の集金活動はなかった。

このように、佐久間は、2 月と 3 月は東京市から東海道沿線の 8 市町で
集金し、4 月と 5 月は九州北部の 5 県の 16 市町と 10 月は香川町内の 4 市
町で賛助金を徴収し、5 月、8 月、9 月、10 月は岡山市内の集金も実施した。
その結果計 1,099 円 97 銭 1 厘を集め、職員による集金の 29%、全賛助金
収入の 22.8% を占めていた。

次に佐藤弘之は、佐久間と同様に『岡山孤児院新報』第 87 号と第 88 号
の「特別廣告」で、京都市、大阪市、神戸市での賛助金の集金が告知し、
1 月 9 日京都市に向けて出発した。その結果 2 月に京都市で 239 円 20 銭
(203 人)、大阪市 175 円 (163 人) を集金し、3 月大阪市 5 円 (8 人の一部)、
神戸市 195 円 50 銭 (180 人) を集めて帰院した。また、この時、新賛助
員を神戸市で 10 人、姫路市で 18 人、さらに 4 月に大阪市で 22 人を募集
したとみる。

4 月と 5 月の集金活動はなく、6 月に京都市 2 円 (2 人)、東京市 1 円 (7
人の一部)、横浜市 4 円 50 銭 (4 人) を集金したが、これらは音楽幻燈 (活
動写真) 隊の先発準備員 (表 3) として京都市および東京市と横浜市で活
動中に集金したものであった。さらに、7 月から 12 月の集金活動もなかつ
たため、計 622 円 20 銭を徴集し、職員による集金の 16.4%、全賛助金収
入の 12.9% を担っていた。

次は、入江大九郎、森上信、光延義民の 3 人は、3 月に基隆 5 円 (6 人)、
台南 15 円 (9 人)、台北 14 円 50 銭 (9 人)、新竹 12 円 90 銭 (12 人) の
集金活動の実績があるが、これらは音楽幻燈 (活動写真) 隊の先発準備員
などで台湾の各地で開催した時の新賛助員から集金したものであった。

つまり、台湾の各地での同 (活動写真) 会では、2 月に基隆で新賛助員
53 人を募集し、3 月は基隆 13 人、台北 163 人、台中 83 人、台南 156 人、
新竹 66 人などを募集していたため、この中の一部の新賛助員から集金し

たものであった。

さらに、光延の大阪市の4月9円(9人)、東京市の6月9円(7人)、11月名古屋市5円(5人)、12月横須賀町6円(5人)も同地での音楽幻燈(活動写真)会の際に、大阪市の新賛助員22人中の9人、東京市26人中の9人、名古屋市12人中の5人、横須賀町16人中の5人からの集金であった。

そして、小野田鎮の8月山形市3円(3人)、9月倉敷町5円(2人)、11月津市3円(3人)も同(活動写真)会での新賛助員や現賛助員からの集金であった。また、12月の末藤新市の静岡市の4円(3人)も同(活動写真)会での新賛助員21人からの集金で、末藤は8月より再度同院の職員に復帰するため宮崎県高鍋町より家族と来院し、「物品募集主任」として同隊に同行していた。

その他に、集金人2人が11月岡山市で50銭、12月同市で25円40銭(6人等)を集金していたが、臨時に雇われて集金したものであった。

このように、職員による賛助金の集金活動は、渡辺万吉郎、佐久間武男、佐藤弘之を中心に、渡辺は岡山県内と瀬戸内海沿岸の5県等で、佐久間は岡山市内と東京市から東海道沿線の4府県の市町および九州北部の5県の市町で集金活動を実施した。

また、佐藤は、2月と3月に京都市、大阪市、神戸市で集金活動を実施、その後は音楽幻燈(活動写真)隊の先発準備員の活動の中にも集金していた。さらに、その他の職員は、音楽幻燈(活動写真)隊の先発準備員の活動中などに集金し、全体では2,571円22銭1厘と全賛助金収入の53.2%を徴収する集金活動となり、総歳入の5.0%であった。

ただし、前述したように、先の各地での集金活動には、旅費、宿泊費等の賛助金集金費が必要で、その経費が385円11銭9厘であったため、約1割が経費となっていた。

そして、本年の職員による賛助金集金活動を昨年と比較すると、草地磯吉が渡辺万吉郎に変更したが、集金市町村は韓国と台湾を除いてほぼ同様

前記したように地方委員の賛助金の集金活動は、1902年2月10日付の『岡山孤児院新報』第76号で、現賛助員の中の「毎月出金者」の「年一時出金者」への移行を奨励し、地方委員による毎月の集金を年1回の集金に軽減し、彼らによる毎月の『同院新報』の配付も中止し、同院より直接現賛助員に送付することにした⁹⁾。このため、地方委員は現賛助員から年1回賛助金を集金して、同院へ送金すればよくなり、地方委員の仕事が大幅に軽減され、その結果同院への送金回数も減少する方向になった。

さらに、3月下旬からの国内各地の音楽幻燈（活動写真）会では、新地方委員の就任がなくなったため、地方委員の集金活動は、3月以前に就任している地方委員に限定され、やはり、減少していくことが予想できた。そんな中で全国各地に散在する個々の地方委員が、地元の現賛助員から集金し同院に送金した月別の金額をまとめると表7のようになる。

<表 7>

[illegible]

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
東北	弘前市石戸 谷軍三郎			6.800										6.800
	藤崎村長 谷川英治					9.800								9.800
	若松市兼 子常五郎										4.000			4.000
関東地方	水戸市松 井久吉												6.500	6.500
	横浜市日能	2.600	6.500	3.600	1.900	5.100			1.500					21.200
	横浜寺岡			2.100					2.900			2.500		7.500
	横浜市高橋						3.800		3.500			3.900		11.200
中部地方	新潟市大 橋正吉											8.400		8.400
	高田町荒 木信実			4.500			6.900	5.800						17.200
	富山市服 部たきよ												5.000	5.000
	金沢市中 島孝一郎			9.800	4.400									14.200
	福井市高 田とし子		13.800					3.500						17.300
	上田町河 合操		2.100						1.400					3.500
	静岡市藤 波甚助		2.400	3.100		4.500			5.600					15.600
近畿地方	大津市数 田信吉		19.400		2.200		2.000			3.000			2.700	29.300
	彦根町若林											6.200	5.600	11.800
	八幡町大島					5.700								5.700
	岸和田町 土井	11.000				7.600								18.600
	尼崎町小 森純一					16.000								16.000
	西宮町岡 田藤吉	0.900		2.100			2.600			2.100			2.100	9.800
	神戸市兵 庫下村完 兵衛		2.200		5.200	3.400				0.500	0.300		0.800	12.400
	神戸市兵 庫日下部			3.600							3.700			7.300
	神戸市兵 庫上村								0.400					0.400
	神戸市松 田治郎吉	3.600												3.600
	神戸市三 瀬千津江			22.500										22.500
	神戸市鎌 原政子			9.200										9.200
	神戸市清 水			5.400										5.400
	明石町中 西幸太郎	2.500		2.400		14.100								19.000
	明石町本 林武夫						3.400				7.200		8.900	19.500
	姫路市品 川惣三郎	4.700			4.900			3.000						12.600
	姫路師範 学校矢野			1.900										1.900
	三田町斎 藤泰一郎												9.000	9.000
	生野町吉 川繁次郎		1.000		2.000			21.000	3.000			1.000	2.000	30.000
	篠山町萩 原林三郎			3.200										3.200
	柏原町林 清吉	2.200				2.400			2.300			2.100		9.000

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中畠・菊池) (77) 190

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	奈良市秋田猪太郎	2.000	2.000											4.000
	田辺町伊藤賢一		6.000						2.000					8.000
	御坊町山本重一			2.000				4.000					3.000	9.000
中国地方	米子町岡島太治郎						20.000					8.100		28.100
	松江市永野武二郎						1.000							1.000
	香登村武用五郎辺衛		13.300				3.200							16.500
	藤戸村天城津下登次郎		9.200											9.200
	倉敷町大原孫三郎	1.800	84.000		1.500			1.300		1.300	0.800	0.800	0.600	92.100
	高梁町金沢長藏			25.460										25.460
	玉島町中原克一郎	2.000			7.000							1.500		10.500
	笠岡町浅野富平				4.000									4.000
	落合町山田義信				18.000									18.000
	有漢村莊三郎吉							8.000						8.000
	広島市村田里				3.200									3.200
	呉市松井守真						6.000							6.000
	岩国町栗原					29.000								29.000
四国地方	丸亀市北川孟次		1.700	2.200	1.500						7.000			12.400
	新居浜村柿原正一	4.000	3.600	4.700	3.700	4.500	4.000	3.200		6.900		3.100	9.200	46.900
	別子山村常喜秀五郎	5.000	2.400	2.000	1.200	1.200	1.000	2.100		0.700		2.200	1.100	18.900
	八幡浜町二宮茂俊				1.000		2.000							3.000
	宇和島町木村			4.400		0.400								4.800
	安芸町埴村二三						3.000							3.000
九州地方	長崎市大島賢			4.100					12.300			2.200		18.600
	長崎市北原種太郎												3.000	3.000
	延岡町加藤馨之助	1.400		1.500		2.300				2.800		1.100	1.000	10.100
	高鍋町浜田超道		2.800										3.500	6.300
	宮崎町白井卯之助		3.500		2.200	1.000		1.700			0.800		1.000	10.200
	都城町大草敬助			3.000										3.000
海外	基隆西きよ子								3.000					3.000
	台北長尾なみ子										5.000			5.000
	台中小畑駒三						37.00							37.00
	打狗横田利盛						4.000							4.000

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
風山石丸 幸作							9.000						9.000
②計	62.100	233.600	129.560	68.000	131.500	108.500	69.100	48.900	31.300	28.800	41.600	84.500	1,037.460
表6①計 +②計=合計	321.120	1,342.120	801.625	396.300	409.834	276.550	292.270	123.420	108.930	155.700	92.000	510.590	4,830.459

(『岡山孤児院新報』第88号から第99号より作成)

このうち、北海道では7人の地方委員から送金があり、函館区の磯野員為は2月に28円60銭を集金して岡山孤児院に送金し、8月には9円30銭を集金して送金してきたため、年間計37円90銭となった。また、8月の9円30銭の中には表5の「年一時出金者」の北海道の函館区8人が含まれており、以下その際の表記を9円30銭(8人)と記す。さらに、8月8日故陸軍砲兵大尉大島定の記念として父親東蔵よりの5円の寄付金も取次いでいた。

札幌区の越智喜三郎は、1月11円(4人)、2月22円(6人)、5月24円50銭(3人)、6月6円80銭(1人)、7月8円20銭(3人)、9月14円(4人)、12月18円(2人)の計104円50銭を集金して送金し、北海道で最も多くの賛助金を集めて送金してきた。さらに、2月29日には、竹原八兵衛からの理髪代等節約貯金1円77銭を、9月20日にも竹原からの散髪代節約費1円33銭を取次いでいた。

岩見沢村の内田政雄は、1月3円90銭、4月4円10銭(2人)の計8円を送金し、同村の相沢は6月に80銭を送ってきた。旭川町の辻秀は、1月3円50銭(3人)、6月1円(1人)の計4円50銭を、浦臼村の阪本彌太郎は2月3円(3人)、寿都町の斉藤純一郎は2月4円10銭(5人)の送金があった。

このため、北海道では、7人より合計162円80銭が送金されたが、これは昨年の地方委員5人から合計197円12銭の送金より、人数では増加したが、送金額では減少していた。

なお、札幌区の地方委員の石田幸八郎は1月19日夜に永眠したとの電

報が同院に届いたが、10 月 10 日には、その石田から岩見沢駅の慈善函よりの 9 円 72 銭が送金されたとあり、前者は誤記であった。

次に、東北地方では、3 人の地方委員から送金があり、青森県弘前市の石戸谷軍三郎は 3 月に 6 円 80 銭（3 人等）、同県藤崎村の長谷川英治は 5 月に 9 円 80 銭（9 人）を、福島県若松市の兼子常五郎牧師は 10 月 4 円（4 人）を集金し、合計 20 円 60 銭を送金してきた。

これは、今年の 4 人からの合計 59 円 40 銭の送金と比べると送金額が 3 割程の減額になっていた。

関東地方では、4 人の地方委員から送金があり、茨城県水戸市の松井久吉は 12 月に 6 円 50 銭（2 人）を、神奈川県横浜市の日能は 1 月 2 円 60 銭、2 月 6 円 50 銭（4 人）、3 月 3 円 60 銭（69 人の一部）、4 月 1 円 90 銭、5 月 5 円 10 銭、8 月 1 円 50 銭（1 人）の計 21 円 20 銭を、同市の寺岡は 3 月 2 円 10 銭（69 人の一部）、8 月 2 円 90 銭、11 月 2 円 50 銭の計 7 円 50 銭を、同市の高橋も 6 月 3 円 80 銭（4 人）、8 月 3 円 50 銭、11 月 3 円 90 銭の計 11 円 20 銭を送金してきたため、関東地方全体では合計 46 円 40 銭になった。

これは今年の 9 人からの合計 117 円 80 銭と比較すると、人数と金額とも半減以下であった。なお、横須賀町の地方委員の黒田寛一が 7 月 21 日に来院していた。

中部地方では、7 人の地方委員から送金があり、新潟県新潟市の大橋正吉は 11 月に 8 円 40 銭（5 人）と同月 9 日に笠原轡太郎よりの追善寄付金 3 円を取次ぎ、同県高田町の荒木信実は 3 月 4 円 50 銭（1 人）、6 月 6 円 90 銭（2 人）、7 月 5 円 80 銭（3 人）の計 17 円 20 銭を送金してきた。

また、富山県富山市の服部たきよは 12 月 5 円（5 人）を、石川県金沢市の中島孝一郎は 3 月 9 円 80 銭（11 人の一部）、4 月 4 円 40 銭（4 月 2 人と 5 月 2 人か）の計 14 円 20 銭を、福井県福井市の高田とし子は 2 月 13 円 80 銭（8 人）、7 月 3 円 50 銭（面谷鉾山 1 人）の計 17 円 30 銭を送

金してきた。

さらに、長野県上田町の河合操は2月2円10銭(1人)、8月1円40銭(2人)の計3円50銭を、静岡県静岡市の藤波甚助は2月2円40銭、3月3円10銭(4人の一部)、5月4円50銭(2人)、8月5円60銭(2人)の計15円60銭を送金してきたため、全体では合計81円20銭となった。

これらを、昨年の地方委員10人からの合計174円70銭と比較すると人数が減少し金額は半額以下になっていた。

近畿地方からは、最も多い24人の地方委員から送金があり、うち兵庫県が17人を占めていた。まず、滋賀県大津市の藪田信吉は2月19円40銭(14人)、4月2円20銭、6月2円、9月3円、12月2円70銭(11月1人か)の計29円30銭を、同県彦根町の若林は11月6円20銭、12月5円60銭(1人)の計11円80銭を、同県八幡町の大島は5月5円70銭(3人)を送金してきた。

なお、同県彦根町の地方委員森山寅之助からは、11月11日に京森11歳(孤児)が送院され無事着院していた。

大阪府では、岸和田町の土井が1月11円、5月7円60銭の計18円60銭を送金し、兵庫県尼崎町の小森純一は5月16円(15人等)を、同県西宮町の岡田藤吉は1月90銭、3月2円10銭、6月2円60銭(2人)、9月2円10銭、12月2円10銭の計9円60銭を送金してきた。

また、同県神戸市では7人の地方委員の集金活動とその送金が確認でき、同市兵庫の下村完兵衛は2月2円20銭(2人)、4月5円20銭(2人)、5月3円40銭、9月50銭、10月30銭、12月80銭の計12円40銭を送金し、8月7日付の書簡では賛助員の清水光次の手を経て下村に届いた出征軍人室井清一郎の餞別50銭が送金された。

さらに、同市兵庫の日下部が3月3円60銭(180人の一部)、10月3円70銭(5人の一部)の計7円30銭を、同市兵庫の上村が8月40銭を、同市の松田治郎吉が1月3円60銭(3人)を、同市の三瀬千津江が3月22

円 50 銭（180 人の一部）を、同市の鎌原政子が 3 月 9 円 20 銭（同）を、同市の清水が 3 月 5 円 40 銭（同）を送金してきたが、このうち先の 3 月の 4 人の送金は同月に職員の佐藤弘之が神戸市で集金活動を実施した時に並行（協力）して実施し、全体では 232 円 60 銭（180 人）を集めた。

そして、兵庫県明石町の中西幸太郎は、1 月 2 円 50 銭、3 月 2 円 40 銭（1 人）、5 月 14 円 10 銭（7 人）の計 19 円を、同町の本林武夫は 6 月 3 円 40 銭（1 人）、10 月 7 円 20 銭、12 月 8 円 90 銭（2 人）の計 19 円 50 銭を送金していた。

また、6 月 21 日付の次の書簡で、山陽鉄道の明石駅に掲置した慈善函を開封し、その中の寄付金 1 円が現賛助員からのものであるとの主旨を次のように説明し、送金してきた。

明石驛慈善函寄附の内金壹圓明石ほねつき研究會教師とあり此二包に就他の人より聞く處によれば賛助員な某氏は右の二名に何か教へに相成其禮として各一封を差出されしを受けずしてこれを停車場にある岡山孤児院慈善函に投入相成たる由に承る氏の貴院に對する厚き御同情の程感謝に堪へざる次第に御座候

六月二十一日 本林武夫 （『岡山孤児院新報』第 93 号）

さらに、同県姫路市の品川惣三郎は、1 月 4 円 70 銭（2 月 4 人）、4 月 4 円 90 銭（1 人）、7 月 3 円の計 12 円 60 銭を、これに地方委員ではないが姫路師範学校の矢野の 3 月 1 円 90 銭も加わった。同県三田町の斉藤素一郎は 12 月 9 円（7 人）と、同月 29 日に福田万次郎他 31 人よりの寄付金 4 円および福田他 34 人よりの同金 3 円 35 銭も取次いできた。

また、同県生野町の吉川繁次郎は 2 月 1 円（1 人）、4 月 2 円（2 人）、7 月 21 円（20 人）、8 月 3 円（3 人）、11 月 1 円（1 人）、12 月 2 円（1 人）の計 30 円を送金し、7 月 4 日には同町の浅田貞次郎よりの同院への基本

金 10 円の寄付も取次いだ。同県篠山町の萩原林三郎は 3 月 3 円 20 銭を、同県柏原町の林清吉は 1 月 2 円 20 銭、5 月 2 円 40 銭、8 月 2 円 30 銭、11 月 2 円 10 銭の計 9 円を送金してきた。

奈良県奈良市の秋田猪太郎は、1 月 2 円 (1 人)、2 月 2 円 (2 人) の計 4 円を送金し、6 月 17 日には岡山孤児院を訪れ 50 銭を寄付した。和歌山県田辺町の伊藤貫一は、2 月 6 円 (6 人)、8 月 2 円 (1 人) の計 8 円を、同県御坊町の山本董一は 3 月 2 円 (2 人)、7 月 4 円 (2 人)、12 月 3 円 (3 人) を送金してきたため、近畿地方全体では合計 277 円 20 銭になった。

そして、近畿地方では、昨年が 26 人の地方委員から 473 円 60 銭が送金されたのに対し、本年は 24 人から 277 円 20 銭と、地方委員数は 2 人減少し、送金額は約 200 円も減額になっていた。

岡山県を含む中国地方では、13 人の地方委員から送金があり、鳥取県米子町の岡島太治郎は 6 月 20 円 (3 人)、11 月 8 円 10 銭 (2 人) の計 28 円 10 銭を送金または納入し、11 月 26 日に 8 円 10 銭 (2 人) と本人より 2 円および米子基督教会日曜学校生徒より 1 円の寄付金を持参し、さらに、鳥服 13 歳を同伴して同院に入院させた。また、島根県松江市の永野武二郎は 6 月 1 円 (1 人) を送金してきた。

岡山県では 7 人の地方委員から送金などがあり、香登村の武用五郎辺衛は 2 月 13 円 30 銭 (6 人)、6 月 3 円 20 銭の計 16 円 50 銭を、藤戸村天城の津下豊次郎は 2 月 9 円 20 銭 (8 人)、倉敷町の大原孫三郎は 1 月 1 円 80 銭、2 月 84 円 (58 人)、4 月 1 円 50 銭、7 月 1 円 30 銭、9 月 1 円 30 銭 (2 人)、10 月 80 銭、11 月 80 銭、12 月 60 銭と毎月のように納入があり計 92 円 10 銭になった。高梁町の新沢長蔵は 3 月 25 円 46 銭 (17 人) を、玉島町の中原克一郎は 1 月 2 円 (1 人)、4 月 7 円 (7 人)、12 月 1 円 50 銭 (1 人) の計 10 円 50 銭を、落合町の山田義信は 4 月 18 円 (5 人) を、笠岡町の浅野富平は 4 月 4 円 (3 人) を、有漢村の莊三郎吉は 7 月 8 円 (7 人) を送金してきた。

広島県広島市の村田里は 4 月 3 円 20 銭（3 人）、同県呉市の松井守真は 6 月 6 円（15 人の一部）を、山口県岩国町の栗原は 5 月 29 円（27 人）を送金してきた。

このため、中国地方では、13 人から合計 251 円 6 銭が送金され、去年の 28 人から 10 人減少し送金額も 100 円近く減額した。

四国地方では、6 人の地方委員から送金があり、香川県丸亀市の北川孟次は 2 月 1 円 70 銭、3 月 2 円 20 銭（1 人）、4 月 1 円 50 銭、10 月 7 円（6 人）の計 12 円 40 銭を、愛媛県新浜村の柿原正一は 1 月 4 円、2 月 3 円 60 銭、3 月 4 円 70 銭（1 人）、4 月 3 円 70 銭、5 月 4 円 50 銭（1 人）、6 月 4 円、7 月 3 円 20 銭、9 月 6 円 90 銭、11 月 3 円 10 銭、12 月 9 円 20 銭（6 人）の計 46 円 90 銭を毎月のように送金してきた。

同県別子山村の常喜秀五郎も同様に 1 月 5 円（3 人）、2 月 2 円 40 銭、3 月 2 円、4 月 1 円 20 銭、5 月同、6 月 1 円、7 月 2 円 10 銭、9 月 70 銭、11 月 2 円 20 銭、12 月 1 円 10 銭の計 18 円 90 銭を送金してきた。また、常喜は、5 月 7 日付で私立住友別子尋常小学校の校内慈善函に寄附された現金 75 銭とライオン慈善券 32 枚を送付し、11 月 10 日には西山兵五郎他 9 人よりの寄付金 1 円 25 銭を取次いでいた。

同県八幡浜町の二宮茂俊は 4 月 1 円（1 人）と臨時寄付金 1 円 60 銭を 26 日取次ぎ、6 月 2 円（2 人）を、また、8 月 25 日には来院し 1 円を寄附した。同県宇和島町の本村は 3 月 4 円 40 銭（4 人）、5 月 40 銭の計 4 円 80 銭を、高知県安芸町の埜村二三は 6 月 3 円（2 人）と臨時寄付金（22 日）送金してきた。

このため、四国地方では 6 人から合計 89 円が送金されたが、去年の 14 人から 8 人減少し送金額も 100 円近く減額となっていた。

なお、4 月 19 日愛媛県今治町の地方委員矢野元吉の取次で、同町の長島常一郎町長の 4 兄妹よりの基本金への 20 円の寄付が送られてきた。また、11 月 27 日には、高知市の地方委員の川田真心より収容依頼のあった

孤児の兄弟が、内国通運会社神戸支部より「岡山孤児院行」の布切を縫付け「小包送り」で無事着院した。

九州地方では、6人の地方委員から送金があり、長崎県長崎市の大島翼は3月4円10銭(3人)、8月12円30銭(10人)、11月2円20銭(2人)の計18円60銭を送金し、11月19日には長男6歳が急病で永眠してしまい、愛児が玩具箱の中に集めていたライオン慈善券5枚と香典や花料20円を寄付金として送金してきた。

また、大島は出征することになり、12月1日彼の後任に鮑浦造船所の北原種太郎を推選してきた。そして、この北原は12月3円(1人)を送金し、同市の地方委員鮫島岩熊は9月25日来院した。

宮崎県延岡町の加藤馨之助は、1月1円40銭、3月1円50銭、5月2円30銭、9月2円80銭、11月1円10銭、12月1円の計10円10銭を、同県高鍋町の浜田超道は2月2円80銭、12月3円50銭の計6円30銭を、同県宮崎町の白井卯之助は1月17日岡山孤児院に来院し同院に1泊して18日出発し、2月3円50銭(2人)、4月2円20銭、5月1円、8月1円70銭(1人)、10月80銭、12月1円の計10円20銭を、同県都城町の大草敬助は3月3円(3人)を送金してきた。

このため、九州地方では6人から合計51円20銭が送金され、去年の22人から16人減少し、送金額も5分の1程に急減した。

その他に、海外では、台湾の5人の地方委員から送金があり、基隆の西きよ子は3月16日付の次のような書簡で寄付金25円、賛助金1円(6人中の1人)を送金し、8月に3円(3人)を送付してきた。

拜啓貴院益御隆盛の段奉慶賀候先般貴院音楽隊の一行御渡臺の節は万事不行届にて失禮仕候其節當地藤田組鑛山へ寄附金募集致置候處一行御引上迄間に合ひ不申一昨日郵送致來候に付別紙寄附者人名録相添へ金貳拾五圓外に賛助金壹圓計金貳拾六圓以爲替御送附申上候間御受納可被下候

此寄附金募集に就ては飯野勝三郎君非常の厚意を以て盡力被致候に付貴
院より禮状御遣はし被下度候　／三月十六日

（『岡山孤児院新報』第 90 号）

また、台北の長尾なみ子は 10 月 5 円（5 人）、台中の小畑駒三は 6 月 22
日に 37 円（37 人）と物品小包 4 個を送付し、12 月 15 日には予約基本金
寄付の第 1 回支払として 20 円の送金があった。打拘の横田利盛は 6 月 4
円（4 人）、鳳山の石丸幸作は 7 月 9 円（6 人）の送金があり合計 58 円となっ
た。

これは、昨年 の 1 人より 32 円 10 銭に比べ、4 人増加し、かつ、25 円
90 銭の増額であった。

以上が、全国に散在する地方委員よりの送金の内容で、その合計送金額
は 1,037 円 46 銭となり、全賛助金収入の 21.5%を占め、総歳入の 2.0%で
あった。

そして、再度本年と昨年の各地方別の送金者数と合計送金額をまとめると表 8 のようになり、送金者数の総計では昨年より 44 人も減少し、合計送金額も 795 円 74 銭の減額となり、「毎月出金者」から「年一時出金者」への移行が進むなどにより地方委員の仕事は軽減されていたが、それでも全国各地に散在する地方委員による集金活動は重要であったことが理解できた。ただし、地方委員の集金活動の停滞が全体の賛助金の減少傾向の主要な構成要因になっていく特徴も確認できた。

1903 年と 1904 年の地方委員の送金者数と送金額

< 表 8 >

各地方	1903 年		1904 年	
	送金者数	合計送金額	送金者数	合計送金額
北海道	5 人	197.000	7 人	162.800
東北地方	4 人	59.400	3 人	20.600

関東地方	9 人	117.800	4 人	46.400
中部地布	10 人	174.700	7 人	81.200
近畿地方	26 人	473.600	24 人	277.200
中国地方	28 人	340.600	13 人	251.060
四国地方	14 人	184.100	6 人	89.000
九州地方	22 人	253.900	6 人	51.200
諸外国	1 人	32.100	5 人	58.000
総計	119 人	1833.200	75 人	1037.460

なお、4 月 28 日付の朝鮮京城の地方委員長谷川金次郎よりは、取調べ中の者が集めた寄付金 90 円を岡山孤児院へ寄付するよう依頼して行衛不明になったため、京城警察署長の判断で長谷川の手を経て同院に送金されるという寄付もあった。

また、1905（同 38）年 1 月には、『岡山孤児院新報』第 99 号に、地方委員の台南庁総務課藤井米八郎、台南慈恵院教育部内秋山□三、台南市開仙宮街測量事務所久江常男が「廣告」を掲載し、台南市の賛助員は同市開仙宮街 30 番戸の測量師久江事務所内の岡山孤児院地方委員部か、先の同委員方に賛助金を支払うよう告知していたことを付け加えておく。

（文責 菊池義昭）

2 1905 年の賛助員募集活動の展開とその実態

1) 1905 年の賛助員募集活動の概要

（1）総賛助員数と新賛助員数の推移

1904 年 12 月末日に 8,965 人であった賛助員数が、1905 年にどのように推移するのかをまとめたのが表 9 である¹⁰⁾。つまり、1 月の新賛助員に 60 人加入し、合計 9,025 人となったが、退員する者が 41 人いたため、1 月末の総数は差し引き 8,984 人であった。

1905 年の月別の総賛助員数と新賛助員数の推移

<表 9>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
前月末現在数	8,965	8,984	8,992	8,916	8,898	8,946	8,950						62,651
本月加入者数	60	75	74	59	103	92	147	61	61	53	69	104	958
本月加入者合計	9,025	9,059	9,066	8,975	9,001	9,038	9,097						63,261
本月退員数	41	67	150	77	55	88							478
本月末現在総数	8,984	8,992	8,916	8,898	8,946	8,950							(7-12月不詳) 53,686

（『岡山孤児院新報』第 100 号から第 111 号より作成）

次いで、2 月の新賛助員は 75 人、3 月 74 人、4 月 59 人、5 月 103 人、6 月 92 人、7 月 147 人と安定していたものの、8 月以降は減少傾向に転じ、8 月 61 人、9 月 61 人、10 月 53 人、11 月 69 人、12 月 104 人となっている。その合計は、958 人となり、月平均 80 人程度であった。

一方、退員者に関しては、6 月までしか原資料に記録されておらず、同年の上半期（1 月～6 月）までの退員者数の合計は 478 人、月平均 80 人程度が減少していたことになる。ここから、同年の上半期だけを見ると、3 月及び 4 月が総賛助員数減という傾向を示していたことが理解できる。不詳箇所もあるが、このような苦境にどう対面していくことになったのかについては、以下、新賛助員の募集活動の動向を見ることで捉え直していく。

（2）新賛助員の募集活動の概要

1905 年の新賛助員の月別の募集活動の推移は表 9「本月加入者数」に示したが、その道府県・市町村別の月別加入者数をまとめると、表 10 のようになる¹¹⁾。まず、新賛助員の合計数が 20 人以上の道府県等を多い順に並べると、韓国・京城（138 人）、福岡県（108 人）、岡山県（79 人）、広島県（70 人）、山口県（69 人）、兵庫県（52 人）、愛媛県（50 人）、台湾（46 人）、大阪府（44 人）、軍艦橋立（42 人）、長崎県（41 人）、京都府（37 人）、東京府（29 人）の順となる。

次に、韓国・京城及び台湾などの諸外国を除く道府県のベスト 3 の各々

の市町村数を見てみると、(1) 福岡県：4市3町3郡1村（福岡市、久留米市、門司市、小倉市、柳河町、若松町、黒崎町、遠賀郡、企救郡、鞍手郡、川口村）、(2) 岡山県：1市8町4郡1村等（岡山市、和気町、大黒町、西川町、高梁町、吹屋町、新見町、早島町、総社町、赤磐郡、都窪郡、御津郡、児島郡、三石村）、(3) 広島県：3市4町1郡3村（呉市、尾道市、広島市、福山町、府中町、松永町、忠海町、深安郡、廣谷村、今津村、東村）などとなり、都市部を中心としつつも、周辺の町郡村にも拡がっていったことが窺える。

さらに、市町村別に見た場合、1ヶ月あたりの新賛助員数が10人以上であったものを表7中のゴシック・太字で示した。こうして見ると、大阪府よりも西において新賛助員獲得の顕著な成果が見られ、具体的には、若松町21人（福岡県）、美作20人（岡山県）、山口町19人（山口県）、大阪市17人（大阪府）、柳河町17人（福岡県）、小倉市14人（同）、赤磐郡14人（岡山県）、岩国市13人（山口県）、新居浜村13人（愛媛県）、長崎市12人（長崎県）、豊浦郡11人（山口県）、和気町10人（岡山県）、佐世保市10人（長崎県）などとなっており、必ずしも市部のみならず、町村（郡）部でも募集活動を実施していたことが分かる。さらに、諸外国にも目を向けると、韓国及び台湾で目覚ましいものが窺え、釜山47人（韓国）、台北24人（台湾）、京城23人（韓国）、仁川12人（同）などが突出している。これは、前記したように日清戦争から日露戦争中という背景の中で日本の権益の拡大により韓国へ日本人が進出していたためと理解できた。また、この増加と国内での新賛助員獲得を併せることで、減少傾向を最小限度に留めていたことが分かる。

また、新賛助員加入の状況と地域別に見ていくと、例えば北海道では、北見稚内町1人（2月）、石狩空知郡2人（8月）、札幌市1人（9月）、石狩空知郡1人（同）、札幌市1人（12月）などと、1市1町1郡から計6人の加入があった。北陸地方では、岩手県において桃生郡1人（10月）、

山形県では盾岡町1人(5月)、伊達郡1人(12月)の合計3人の加入があった。

次に、関東地方を見てみると、千葉県における野田町1人(5月)のほか、東京府では、東京市6人(1月)、東京市2人(2月)、東京高等師範学校2人(同)、東京市5人(3月)、日本女子大学1人(4月)、女医学校3人(同)、東京市1人(5月)、東京市2人(6月)、八王子町1人(同)、東京市1人(7月)、東京市2人(8月)、東京市1人(10月)、東宮御所2人(同)という加入状況であり、東京府だけでも1市1町等から29人の加入が見られた。一方、神奈川県では、横須賀町1人(4月)、横浜市1人(9月)、横須賀町1人(10月)、横浜市1人(12月)など、1市1町において4人の加入が確認された。

続けて、甲信越地方では、富山県、石川県、福井県などで加入の動きが見られた。まず、富山県では、高岡市1人(9月)、中新川郡1人(同)、富山市2人(10月)、新川郡2人(同)、南加積村1人(同)、新川西郡2人(同)、福光町1人(11月)、三日市町1人(同)、高岡市2人(同)、富山市1人(12月)などと2市2町3郡1村で14人の加入があった。石川県では、金沢市8人(9月)、加賀小松町1人(同)、金沢市4人(10月)などの秋期に、1市1町で13人の加入が確認された。福井県では、敦賀市1人(7月)、福井市2人(8月)、福井市7人(9月)、南條郡1人(同)などの2市1郡で12人の加入があった。

次いで、中部地方に目を移すと、岐阜県では、養老郡1人(9月)、金山町1人(10月)の合計2人が、静岡県では、静岡市2人(4月)、浜松町3人(同)、駿河駿東郡1人(同)、浜松町2人(5月)の1市1町1郡で8人の加入があった。愛知県では、名古屋市1人(1月)、岡崎町2人(同)、碧海郡1人(2月)、額田郡1人(3月)、名古屋市3人(4月)、岡崎町1人(同)、名古屋市1人(7月)、豊橋町2人(10月)など、1年のうちの半分の月で1市2町2郡において12人の新規加入があった。また、三重県では、四日市市2人(1月)、伊勢多気郡1人(同)、伊勢多気郡1

人(9月)、四日市市8人(12月)の1市1郡において12人の加入があった。

一方、近畿地方では、まず滋賀県では、大津市5人(5月)、彦根町5人(9月)、近江八幡町2人(10月)、彦根町2人(同)、大津市2人(同)、大津市2人(11月)、大津市1人(12月)など、1市2町で19人の新規加入が見られた。次いで、京都府では、1月から6月にかけて京都市で10人をはじめ、丹後3人(6月)、加佐郡1人(7月)、伏見町1人(10月)、京都市2人(11月)、河原町1人(12月)、宮津町7人(同)、舞鶴9人(同)、加佐郡1人(同)、倉橋村2人(同)など、合計37人の加入が見られた。また、大阪府では、大阪市の28人の新規加入をはじめ、宇治町1人(3月)、武庫郡2人(11月)、岸和田町1人(12月)、堺市2人(同)、南河内郡1人(同)、津西町6人(同)、武庫郡1人(同)など合計44人の加入があった。さらに兵庫県でも動きが見られ、神戸市2人(1月)、姫路市1人(3月)、神戸市3人(5月)、神戸市1人(6月)、姫路市2人(同)、姫路市1人(8月)、神戸市35人(11月)、兵庫南1人(同)、神戸市3人(12月)、丹波篠山3人(同)など、合計52人の加入が見られた。その他、奈良県奈良市では2月と12月に各1人が、和歌山県では那賀郡1人(3月)の加入があった。

次いで、中国地方を見てみると、岡山県、広島県、山口県で顕著な動向が窺えた。まず、岡山県では、岡山市2人(1月)、和気町10人(同)、三石村4人(同)、赤磐郡14人(同)、岡山市1人(2月)、大黒町1人(同)、都窪郡1人(3月)、岡山市3人(4月)、都窪郡1人(同)、西川町1人(5月)、高梁町2人(同)、吹屋町2人(同)、岡山市1人(6月)、新見町1人(同)、美作20人(同)、児島郡5人(7月)、早島町1人(同)、岡山市1人(8月)、御津郡1人(同)、赤磐郡1人(同)、美作1人(同)、総社町1人(9月)、岡山市2人(10月)、岡山市2人(12月)などと、一年間を通して11月を除くすべての月の新規加入があり、1市8町4郡1村等から79人の増員が見られた。

広島県では、呉市 47 人(2 月)、福山町 3 人(同)、深安郡 1 人(3 月)、呉市 3 人(同)、呉市 2 人(4 月)、呉市 1 人(5 月)、福山町 1 人(7 月)、府中町 1 人(同)、松永町 1 人(同)、廣谷村 1 人(同)、東村 1 人(同)、今津村 1 人(同)、呉市 1 人(同)、忠海町 1 人(同)、尾道市 2 人(9 月)、広島市 1 人(10 月)、尾道市 1 人(11 月)、呉市 1 人(同)などと 3 市 4 町 1 郡 3 村において 70 人の新規加入があった。また、山口県では、下半期の 6 月以降に動きが見られ、佐波郡 2 人(6 月)、都濃郡 1 人(同)、山口町 19 人(7 月)、下関市 5 人(同)、豊浦郡 11 人(同)、岩国市 13 人(8 月)、徳山市 3 人(同)、防府市 3 人(同)、熊毛郡 1 人(同)、吉敷郡 1 人(同)、豊浦郡 1 人(同)、山口農学校 1 人(同)、熊毛郡 5 人(9 月)、周防市 1 人(同)、下関市 1 人(同)、吉敷郡 1 人(10 月)などの 4 市 1 町 5 郡等、69 人の新規加入があった。

他方、四国地方では、まず徳島県徳島市で、1 月と 8 月に各 1 人の加入があった。香川県では、高松市 1 人(8 月)、多度津 2 人(同)、高松市 1 人(9 月)の合計 4 人が、高知県では 8 月に高知市で 3 人が加入しており、愛媛県では、今治町 3 人(2 月)、新居浜村 7 人(同)、新居浜村 13 人(3 月)、新居浜村 3 人(4 月)、石ヶ山丈村 4 人(同)、角野村 1 人(5 月)、金子村 1 人(同)、新居浜村 3 人(6 月)、新居浜村 1 人(7 月)、松山市 7 人(8 月)、新居浜村 6 人(9 月)、別子山 1 人(11 月)など、1 市 1 町 4 村等において 50 人の新規加入があった。

九州地方では、まず福岡県で 108 人の新規加入があり、その詳細は次の通りであった。久留米市 1 人(1 月)、柳河町 1 人(2 月)、柳河町 17 人(3 月)、福岡市 7 人(4 月)、遠賀郡 6 人(同)、久留米市 1 人(同)、川口村 1 人(同)、福岡市 1 人(5 月)、若松町 21 人(同)、久留米市 9 人(同)、柳河町 10 人(同)、門司市 3 人(同)、小倉市 14 人(同)、企救郡 2 人(同)、黒崎町 1 人(6 月)、鞍手郡 3 人(同)、門司市 1 人(同)、小倉市 3 人(同)、福岡市 1 人(7 月)、柳河町 2 人(同)、企救郡 1 人(同)、企救郡 1 人(8 月)、

門司市 1 人(12 月)。佐賀県では、西臼杵郡 1 人(3 月)、長浜村 1 人(同)、唐津町 6 人(同)、唐津町 1 人(4 月)、南高来郡 2 人(8 月)などで 11 人が、長崎県では、長崎市 12 人(3 月)、佐世保市 6 人(同)、佐世保市 8 人(4 月)、佐世保市 10 人(5 月)、長崎市 1 人(同)、佐世保市 1 人(8 月)、長崎市 3 人(9-11 月各 1 人)の計 41 人の新規加入があった。

その他の九州地方では、熊本県では、熊本市 2 人(1 月)、水俣村 1 人(10 月)の計 3 人、宮崎県では、高鍋町 2 人(2 月)、庄内村 1 人(6 月)、高鍋町 1 人(同)、高鍋町 3 人(7 月)など高鍋町を中心に 7 人増員されていた。鹿児島県では鹿児島市(1 人)、沖縄県では中頭郡(1 人)の新規加入が見られた。

その他、海外に目を向けると、とりわけ、韓国と台湾での大きな動きが見られ、海外での賛助員獲得にある程度成功しているのが分かる。具体的には、韓国・京城では、仁川 12 人(6 月)、京城 23 人(同)、釜山 2 人(同)、電信隊本部 1 人(同)、京城 13 人(7 月)、仁川 8 人(同)、釜山 47 人(同)、馬山浦 9 人(同)、大邱 8 人(同)、木浦港 1 人(同)、京城 4 人(8 月)、仁川 1 人(同)、釜山 2 人(同)、馬山浦 1 人(同)などを含む 138 人の加入が見られた。また、台湾では、台北 8 人(9 月)、基隆港 1 人(同)、淡水港 1 人(同)、基隆港 2 人(10 月)、台北 24 人(同)、台南 2 人(同)、台中 1 人(同)、淡水港 1 人(同)、安平 1 人(同)などを含む 46 人の新規加入が見られた。清国・天津では、天津 2 人(1 月)、天津 2 人(4 月)、鎮南 1 人(同)などの 5 人の賛助員を獲得している。

軍隊関係では、海軍をはじめ、陸軍病院のほか、軍艦橋立、軍艦吾妻、軍艦千歳、軍艦千早、軍艦日進などの軍艦において各々 1 人から 4 人の加入が見られた。

なおここで、小括として、新規加入状況を年度比較(1904 年と 1905 年)してみると、1904 年の新賛助員獲得総数 1,226 人の獲得場所は、2 区 30 市 37 町 1 郡 46 村、諸外国 13 ヶ所、軍艦 2 であったのに対し、1905 年で

は総獲得数 965 人で減少傾向が見られるものの、獲得場所は、38 市 41 町 32 郡 12 村、諸外国 20 ヶ所、軍艦 5 となっており、市部で 8 ヶ所、町部で 4 ヶ所、郡部で 31 ヶ所、諸外国で 7 ヶ所、軍艦で 3 ヶ所増加しており、新賛助員獲得エリアの拡大が窺えた。

なお、1904 年と 1905 年の各月別各府県別の新賛助員の加入状況を比較すると、まず、増加している主な府県は、京都府（1 市 1 町 1 村、13 人〔1904 年〕→1 市 3 町 2 郡等、37 人〔1905 年〕）、大阪府（1 市 2 村、31 人〔1904 年〕→2 市 3 町 2 郡、44 人〔1905 年〕）、兵庫県（2 市 2 町 1 村、48 人〔1904 年〕→2 市等、52 人〔1905 年〕）であり、近畿地方でこの動きが見られた。横ばい傾向は、岡山県（1 市 10 町 10 村、78 人〔1904 年〕→1 市 8 町 4 郡 1 村等、79 人〔1905 年〕）で示された。減少傾向に関しては、東京市（1 郡 1 市 1 村、54 人〔1904 年〕→1 市 1 町等、29 人〔1905 年〕）、横浜市（1 市 1 町 1 村、79 人〔1904 年〕→1 市 1 町、4 人〔1905 年〕）で顕在化しており、さらに諸外国の動向では、韓国（2 ヶ所、3 人〔1904 年〕→8 ヶ所、138 人〔1905 年〕）で急増した反面、台湾（10 ヶ所、607 人〔1904 年〕→10 ヶ所、46 人〔1905 年〕）やその他（軍艦 2 ヶ所、60 人〔1904 年〕→軍艦 5 ヶ所、54 人〔1905 年〕）などでは減少傾向が窺え、これらの結果、新賛助員の獲得総数として 1,226 人（1904 年）から 965 人（1905 年）へと、261 人の減少を見ることになっている。

（3）1905 年の音楽幻燈会の開催地と新賛助員及び担当職員

1905 年の音楽幻燈会の開催地と新賛助員及び担当職員について、表 11 に示した¹²⁾。音楽幻燈会の開催月日を見ると、大体毎月 5 回以上は開催しており、岡山県から始まり、愛媛県、広島県、長崎県、佐賀県、福岡県などと九州・四国地方に進出したのち、韓国にわたり活動を展開し、帰国後には、山口県、広島県、滋賀県、石川県、富山県などと、中国地方から甲信越地方へと渡っており、年末には兵庫県、京都府などの近畿地方で

1905 年の音楽幻燈会の開催地等と新賛助員数 〈表 11〉

開催月日	開催地	寄付収入	新賛	開催月日	開催地	寄付収入	新賛
1/3,4	岡 瀬戸村	103.800	0	7/15,16	山 長府村	276.315	0
1/6,7	岡 和気町	121.650	9	7/18～20	山 山口町	460.655	13
1/9～11	岡 萬富	100.800	0	7/22	山 小郡町	142.720	0
1/12,13	岡 三石村	125.145	4	7/26～29	山 三田尻宮市	456.130	0
1/15,16	岡 豊田村	100.910	8	8/1,2	山 徳山町	158.800	0
1/22～24	岡 岡山市	1,348.659	2	8/3～5	山 岩国町	224.154	3
2/7,8	媛 今治町	257.126	0	8/7	広 厳島町	36.050	0
2/9,10	媛 新居浜村	193.600	1	9/11,12	滋 彦根町	266.433	5
2/17～20	広 呉市	1,708.151	0	9/18～20	滋 福井市	464.900	4
2/23～25	佐 佐賀市	181.880	0	9/22,23,25,26	石 金澤市	897.156	8
3/1,9	長 長崎市	184.500	12	9/28～30	富 富山市	474.100	0
3/2～4	長 長崎市	927.610		10/3,4	富 高岡市	244.094	0
3/6,7	長 高島炭坑	150.110	0	10/7～9	滋 大津市	309.050	2
3/8	長 瑞島炭坑	166.900	0	10/10,11	滋 八幡町	131.850	0
3/13,14	佐 唐津町	167.395	2	10/16,17	和 和歌山市	314.340	0
3/19～22	福 大牟田町	476.018	5	10/23,24	京 伏見町	86.060	1
3/28～30	福 柳河町	282.570	6	10/25,26	京 京都市	884.760	0
4/4～6	福 福岡市	474.402	6	11/1～3	大 大阪市	1,394.770	0
4/12～14	長 佐世保市	1,018.585	0	11/8,9	兵 御影町	147.765	0
4/17,18	福 若松町	341.720	8	11/14,15	兵 神戸市	1,351.721	30
4/20～24	福 枝光	626.760	0	11/20,21	大 堺市	553.625	0
5/1,2	福 小倉市	834.840	0	11/23～25	大 岸和田町	325.717	0
5/4～6	福 久留米市	523.840	1	11/26	兵 道場村	64.060	0
5/13～15	福 門司市	1,002.060	0	11/27,28	兵 三田町	240.637	0
5/22～24	福 直方町	646.610	0	12/2,3	兵 尼ヶ崎町	356.350	0
6/12～14	韓 仁川	1,430.074	12	12/5,6	兵 西宮町	431.150	0
6/19～21	韓 京城	1,346.500	23	12/11～13	京 新舞鶴	606.800	3
6/23	韓 龍山	128.135	0	12/15,16	京 宮津町	197.620	7
6/25～27	韓 大邱	226.145	0	12/18,19	京 綾部町	232.390	0
7/1～4	韓 釜山	1,080.655	2	12/20,21	京 福知山町	276.294	0
7/6,7	韓 馬山浦	375.790	9	12/22,23	京 篠山町	110.030	0
7/12,13	山 下関市	557.940	5				

(『岡山孤児院新報』第 100 号から第 111 号より作成)

活躍したことが窺い知れる。

新賛助員獲得数と担当職員を月別に見ていくと、1 月においては、音楽幻燈会が岡山県で 6 回開催されており、2 人の新賛助員が得られ、その際の主な担当職員は渡辺萬吉朗、末藤新市、佐藤弘之、小野田鎮、森上信であった。2 月では、愛媛県今治町や新居浜村において開催され、新居浜村で 1 人の新賛助員を獲得した。3 月では、長崎県、佐賀県、福岡県などの

九州地方で音楽幻燈会が開催され、長崎市では、光延義民によって 12 人の新規賛助員が、佐賀県唐津町では、小野田鎮により音楽幻燈会が開催され、2 人の新賛助員が得られ、福岡県では大島三郎により 12 人の賛助員の獲得に成功した。

次いで、4 月でも福岡県、長崎県での開催が見られ、佐藤弘之、光延義民、渡辺萬吉郎らによって 14 人の新規賛助員を得ていた。続いて 5 月でも九州地方（主に福岡県）での開催が目立ち、大島三郎、佐藤弘之、小野田鎮らが活躍したものの、新規獲得は 1 名に留まった。このような成果を得て、6 月には光延義民、森上信らによって海外遠征（韓国公演）が行われ、仁川、京城において合計 35 人の新規賛助員獲得という成果が主に光延義民によって挙げられた。また、この遠征は、日露戦争中に実施され、同地在住の日本人が加入した。

7 月に帰国した音楽幻燈隊一行は、山口県に赴いており、なかでも、7 月 18 日～20 日に山口県山口町で 13 人の新賛助員獲得を大島三郎を中心に実現させているのが目を引く。併せて、7 月 26 日～29 日に三田尻宮市でも音楽幻燈会を開催し、この時は渡辺萬吉郎のリーダーシップが見られたが、新賛助員の獲得にはつながらなかった。8 月、9 月では小野田鎮が大いに活躍し、具体的には、新賛助員数 3 人（8 月 3 日～5 日、山口県岩国町）、同 5 人（9 月 11 日～12 日、滋賀県彦根町）という数字が示唆されている。加えて、9 月には、大島三郎により 4 人（福井市）、光延義民により 8 人（金澤市）などの成果も見られた。

12 月においては、新舞鶴で 3 人を集めた光延義民、宮津町で 7 人を集めた佐久間武男などが活躍した。

次いで、新賛助員及び担当職員のなかでも、新賛助員数が 10 人以上であったケースを見ていくと 30 人（11 月 14～15 日、於神戸市）、23 人（6 月 19～21 日、於京城）、13 人（7 月 18～20 日、於山口町）、12 人（3 月 2～4 日、於長崎市）、12 人（6 月 12～14 日、於仁川）などとなっている。

これらを踏まえ、ここでは、1905年の音楽幻燈会の活動成果と新賛助員募集活動を月別・地域別に見た上で以下、その特徴を明らかにしたい。

まず、1月では、1月3～4日の瀬戸村を皮切りに、萬富、豊田村、和気町、三石村、岡山市など岡山県内での活動に集中し、同活動写真会活動を通じ、計1,900円96銭4厘を集金し、23人の新賛助員の獲得が見られた。ここでは、渡辺萬吉朗、末藤新市、佐藤弘之、小野田鎮、森上信らの同院職員の活躍が見られ、こうした本部に近いところから活動を行い、確実に成果を挙げることで、勢いづけようとしたことが窺える。

次に、2月7～8日には愛媛県今治市で担当職員大島三郎が奮闘し、同地での成果は寄付収入金257円12銭6厘であった。同県においては2月9～10日にも小野田が訪れ、新居浜市で活動を展開し、193円60銭、新規賛助員数1人という成果を挙げた。その後、広島県を経由しながら、佐賀県、長崎県、福岡県などと活動の範囲を広げていき、呉市では、佐藤が1,708円15銭1厘と好成績を収めた。この勢いに乗って、九州地方を訪れた渡辺、光延義民、小野田、大島らも、各地で一定の成果を納める。例えば、3月2～4日、長崎市では927円61銭、新賛助員数12人（担当：光延）、3月19日～22日、大牟田町では476円1銭8厘、新賛助員数5人（担当：大島）、4月17～18日、若松町では341円72銭、新賛助員数8人（担当：渡辺）、5月4～6日、久留米市では523円84銭、新賛助員数1人、5月13～15日、門司市では1,002円6銭、新賛助員数0人（担当：佐藤）などが挙げられる。

このように、ベテランの職員が経験値をいかしながら、いかにすれば効率的・実益的なのかを考えながら活動していた形跡が窺えた。実際、この年の5月24日までには新賛助員数64人の獲得に成功しているが、反面、ここに来て行き詰まっていたことが予測された。その証左として、6月に入ると、光延、森上を主軸メンバーとし、韓国への海外講演が実施された。具体的には、6月12～14日、仁川では1,430円7銭4厘、新賛助員

数 12 人、同 19～21 日、京城では 1,346 円 50 銭、新賛助員数 23 人、6 月 23 日、龍山では 128 円 13 銭 5 厘、新賛助員数なし、6 月 25～27 日、大邱では 226 円 14 銭 5 厘、新賛助員数なし、7 月 1～4 日、釜山では 1,080 円 65 銭 5 厘、新賛助員数 2 人、7 月 6-7 日、馬山浦では 375 円 79 銭、新賛助員数 9 人などという成果が報告された。つまり、韓国では約 1 ヶ月間、光延・森上を中心とし、総額 4,560 円 29 銭 9 厘の寄付収入を得る一方、新賛助員獲得では後半苦戦しており、計 46 人に留まっている。

韓国講演の一方、7 月から 8 月にかけては、佐藤、大島、渡辺、小野田らを中心に、山口県内での活動が集中的に行われた。具体的には、7 月 12～13 日、下関市では 557 円 94 銭、新賛助員数 5 人(担当:佐藤)、7 月 15～16 日、長府村では 276 円 31 銭 5 厘、新賛助員数なし(担当:佐藤)、7 月 18～20 日、山口町では 460 円 65 銭 5 厘、新賛助員数 13 人(担当:大島)、7 月 22 日、小郡町では 142 円 72 銭、新賛助員数なし、7 月 26～29 日、三田尻市では 456 円 13 銭、新賛助員数なし(担当:渡辺)、8 月 1～2 日、徳山町では 158 円 80 銭、新賛助員数なし(担当:渡辺)、8 月 3～5 日、岩国町では 224 円 15 銭 4 厘、新賛助員数 3 人(担当:小野田)となっており、小野田に関しては、8 月 7 日、厳島町では 36 円 5 銭、新賛助員数なし(担当:小野田)などという成果も挙げた。

岡山県、韓国、山口県などでの活動を経ながらも、同院の音楽幻燈会活動及び職員による新賛助員獲得に向けた試みは、9 月 11 日以降、滋賀県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県などの近畿地方で展開されることになった。9 月 11 日から 12 月 23 日まで行われた活動では 2 府 5 県で最低でも合計 24 回行われ、そのなかでも寄付金収入額が 300 円以上であった活動を見てみると、9 月 16～20 日、福井市で 464 円 90 銭、9 月 18～20 日、金沢市で 897 円 15 銭 6 厘、9 月 22～26 日、富山市で 474 円 10 銭、9 月 28～30 日、大津市で 309 円 5 銭、10 月 7～9 日、和歌山市で 314 円 34 銭、10 月 16～17 日、京都市で 884 円 76 銭、10 月 25～26 日、大阪市で

1,394 円 77 銭、11 月 1～3 日、神戸市で 1,351 円 72 銭 1 厘、11 月 14～15 日、堺市で 553 円 62 銭 5 厘、11 月 20～21 日、尼ヶ崎町で 356 円 35 銭、12 月 2～3 日、岸和田町で 325 円 71 銭 7 厘、11 月 23～25 日、西宮町で 431 円 15 銭、12 月 5～6 日、新舞鶴で 606 円 80 銭、12 月 11～13 日が挙げられる。

また、新賛助員獲得状況では、9 月 11～12 日、彦根町で 5 人（担当：小野田）、9 月 18～20 日、福井市で 4 人（担当：大島）、9 月 22～26 日、金澤市で 8 人（担当：光延）、10 月 3～4 日、高岡市で 0 人（担当：渡辺）、10 月 23～24 日、伏見町で 1 人（担当：末藤）、11 月 27～28 日、三田村で 0 人（担当：大島）、12 月 2～3 日、尼ヶ崎で 0 人（担当：末藤）、12 月 11～13 日、新舞鶴で 3 人（担当：光延）、12 月 15～16 日、宮津町で 7 人（担当：佐久間）、12 月 18～19 日、綾部で 0 人（担当：小野田）、12 月 22～23 日、篠山で 0 人（担当：渡辺）という成果が見られた。

つまり、1905 年の音楽幻燈会開催及び新賛助員獲得に関しては、まず、寄付収入においては、呉市（1,708 円 15 銭 1 厘、2 月）、大阪市（1,394 円 77 銭、10 月）、岡山市（1,348 円 65 銭 9 厘、1 月）、神戸市（1,351 円 72 銭 1 厘、11 月）、佐世保市（1,018 円 58 銭 5 厘、4 月）、門司市（1,002 円 6 銭、5 月）などでは 1,000 銭以上獲得できたものの、国内での活動の低迷状況のなか、6 月を中心に開催された韓国講演（6 月 12 日～7 月 7 日、寄付金総額 4,587 円 29 銭 9 厘）に一種の打開策を見出そうとしていたことが理解できる。一方、新規賛助員獲得については、国内外でもなかなかコンスタントには獲得出来ておらず、苦戦の跡が窺えた。賛助員の新規獲得か現賛助員への働きかけの強化か、いずれの方策がよいのかの思案があったと考えられ、現賛助員への働きかけが一層重視されたと考察する。

なお、ここでは、渡辺、小野田、光延、大島、佐藤、末藤らベテラン職員による入れ代わり立ち代わりの奮闘が見られ、何とかこの一年を維持しているが、国内外での動向や活動成果の実益を考え合わせると、同院職員

にとっては、今後の発展・継続における方向性を考えなければならない時期に來ていることを実感させ得る年となっていたと考える。

2) 1905 年の賛助金の集金活動

(1) 1905 年の月別の賛助金収支と全収支に占める割合

次に、1905 年の月別の賛助金収支と全収支に占める割合を示したものが、表 12 である¹³⁾。まず全収入の月別平均は 3,470 円 81 銭、賛助金収入の月別平均は約 406 円 54 銭であり、賛助金収入が多かった月は、3 月(720 円 85 銭)、1 月(635 円 97 銭)、2 月(601 円 40 銭)、5 月(600 円 89 銭)であり、全収入に占める賛助金の割合を見てみると、47.9%(1 月)、14.8%(2 月)、19.8%(3 月)、21.5%(4 月)、10.2%(5 月)、13.3%(6 月)、9.2%(7 月)、14.9%(8 月)、7.2%(9 月)、19.1%(10 月)、3.1%(11 月)、10.9%(12 月)などとなっており、増減を繰り返しながらも、おおよそ 10～20%程度であったことが示唆される。

1905 年の月別の賛助金収支と全収支に占める割合 <表 12>

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
①賛助 金収入	635.970	601.400	720.850	576.000	600.890	333.820	542.060	315.230	150.100	394.370	110.200	474.550	5,455.000
賛助金 の割合	47.900	14.800	19.800	21.500	10.200	13.300	9.200	14.900	7.200	19.100	3.100	10.900	191.900
全収入	1327.400	4068.300	3638.000	2678.600	5912.000	2511.800	5897.500	2121.400	2088.700	2067.500	3568.400	4,336.442	40,216.042
②賛助 金集金 費	46.815	42.255	45.715	54.500	47.332	5.975	41.256	39.250	11.110	84.150	39.780	87.745	545.883
同集金 の割合	2.700	10.400	1.300	2.000	0.800	0.200	1.500	1.100	0.400	2.700	1.000	1.900	26.000
全支出	1,718.650	4,068.274	3,180.975	2,678.595	5,865.120	2,905.670	2,746.562	3,515.880	3,168.681	3,121.555	4,117.476	4,561.982	4,164.942
①-②	589.155	559.145	675.135	521.500	553.558	327.845	500.804	275.980	138.990	310.220	70.420	386.805	4,909.557

(『岡山孤児院新報』第 100 号から第 111 号より作成)

(2) 全国に分布する現賛助員からの賛助金の納入の内容

1905 年の同院の安定的な財源である賛助金収入を実際に支えた現賛助

員による納入の実態とその特徴を解明するには、「年一時出金者」の納入状況をまとめれば、その大半が把握できると判断し、「年一時出金者」の道府県市町村別と海外からの毎月の納入者の内容をまとめると表 13 のようになり¹⁴⁾、表 13 をまとめてみると全国 47 の全て道府県の現賛助者から納入が確認でき、海外からの送金もあり、その月別の内容とその特徴は次のようであった。

北海道は 1 月に 1 区 5 町 5 村 3 ヶ所から 30 人が、2 月は 1 区 1 町 4 ヶ所から 6 人が納入した。3 月は 2 ヶ所 3 人、4 月は札幌区から 5 人であり、5 月の納入者はなかった。次に、6 月は 2 ヶ所 2 人、7 月は 3 ヶ所 3 人、8 月は 1 区 1 町 1 ヶ所から 3 人、9 月は函館区 25 人をはじめとする 2 区 3 ヶ所 33 人という納入状況であり、10 月は 2 区 1 ヶ所 3 人、11 月は 2 区 2 ヶ所 9 人、12 月は 2 区 4 ヶ所 15 人であった。全体では 3 区 1 市 6 町 4 郡の計 114 人が納入し、もっとも多かったのは函館区 25 人、次いで札幌区 15 人、室蘭町 12 人と続いていた。

東北地方では、青森県では 1 月 2 市 6 人、2 月 2 郡 2 人、3 月 1 郡 9 人、7 月 1 市 1 人、12 月 1 市 1 ヶ所 3 人が納入し、南津軽郡 10 人がもっとも多く、弘前市 8 人が続いた。岩手県では 2 月に盛岡市で 2 人が納入したのみであった。宮城県では 1 月に 1 市 8 人、12 月に 1 市 1 ヶ所 3 人の納入があり、仙台市 9 人が最多であった。

秋田県では 10 月 1 町 1 人、12 月 1 市 1 ヶ所 2 人の計 3 人が納入し、山形県では 1 月 1 町 1 人、3 月 1 町 1 人、5 月 1 町 1 人、9 月 1 市 1 人、12 月 1 市 1 人となっており、山形市と楯岡町が各 2 人となっていた。

福島県では 1 月 1 町 1 人、2 月 1 市 4 人、3 月 1 町 1 人、5 月 1 市 2 郡 16 人、6 月 1 市 1 人、8 月 1 市 4 人、10 月 1 市 1 人、11 月 1 郡 1 人、12 月 2 ヶ所 7 人の計 1 市 2 町 3 郡から 36 人の納入があり、なかでも若松市 24 人が最多であり、磐城 4 人などが続いた。

このため、東北地方では福島県の 36 人が最多で、次いで青森県 21 人、

宮城県 13 人と続き、市町村別で多かったのは若松市 24 人、南津軽郡 10 人、仙台市 9 人であった。

関東地方では、栃木県において 3 月 1 市 7 人、4 月 1 町 1 人、6 月 1 町 1 人、8 月 1 町 1 人、12 月 1 市 1 人の納入がみられ、茨城県では 6 月 1 市 1 人、12 月 1 ヶ所 1 人が、群馬県では 1 月 1 市 2 町 5 人、2 月 1 市 1 人、3 月 1 市 1 町 2 人が納入し、埼玉県では 11 月浦和町 1 人が、千葉県では 1 月 1 町 1 人、2 月 2 町 2 人、4 月野田町 6 人、5 月同町 4 人、11 月安房北條町 1 人、12 月 2 ヶ所 2 人が納入した。

東京府では、1 月東京市 267 人、2 月同市 168 人、3 月同市 143 人、4 月は同市 2 人、武蔵境町 1 人、5 月同市 1 人、北豊島郡 1 人、富岡町 1 人、6 月東京市 3 人、7 月桶川町 1 人、8-9 月はともに東京市 1 人となっており、10 月東京市 6 人、大森町 7 人、11 月東京市 1 人、12 月東京市 5 人、武蔵 4 人が納入し、合計では 1 市 5 町他の 607 人が納入した。そのうち東京市の 598 人が最多であった。

神奈川県では、1 月 1 市 1 人、2 月 1 市 3 人、3 月 1 市 1 町 82 人、4 月 1 町 26 人、6 月 1 市 1 人、9 月 1 市 2 人、12 月 1 ヶ所 4 人の 1 市 1 町他から計 116 人の納入があり、横浜市の 88 人が最多で、横須賀町の 27 人が続いた。

このように、関東地方では東京府 607 人と神奈川県 116 人が多く、その内訳は 1 月から 3 月を中心にした東京府 578 人、横浜市 85 人が主なものとなっており、ここでも同員職員による現賛助員への集中的な募金活動の成果を見ることができた。

中部地方では、新潟県において、1 月高田町 6 人、2 月亀田町・村松町各 1 人、3 月新潟市 1 人、新発田町 4 人、5 月大野郡 1 人、7 月新潟市 1 人、9 月村上町 1 人の 1 市 5 町 1 郡から 16 人の納入が見られた。富山県では、1 月 1 市 1 村 2 人、2 月 1 市 1 町 2 人、4 月 1 市 1 人、10 月高岡市 2 人、12 月高岡市他 2 人の計 2 市 1 町 1 郡他から 9 人の納入があり、石川県で

は金澤市を中心に（4月1人、5月3人、6月1人、9月2人、10月9人、11月1人、12月1人、合計18人）納入され、8月石川郡1人が納入した。

福井県では、2月福井市9人、7月敦賀町1人、福井市3人の計13人の納入があり、山梨県では、1月東山梨郡諏訪村1人、8月甲府市1人、9月西磐井郡1人の計3人が、長野県では、1月2市2人、3月飯田町6人、4月松本町10人、5月小縣郡1人、6月大町1人、11月下諏訪町1人、12月信濃5人の2市4町1郡他から計26人が納入していた。

岐阜県では、4月岐阜市2人、大垣町1人、10月高須町1人の計4人が、静岡県では4月濱松町2人、静岡市1人、4月1市2町17人、5月静岡市2人、8月同市1人、12月1市3ヶ所16人の合計39人の納入があり、静岡市の19人が最多であった。愛知県では、2月1市1町1郡4人、3月2町3人、4月1市1町1郡37人、6-7月及び11月は名古屋市各1人、12月1市2ヶ所6人が納入し、名古屋市の36人が最多で、これに岡崎町7人が次いだ。

このため、中部地方では、愛知県53人、静岡県39人、長野県26人が上位を占め、名古屋市36人、静岡市19人、松本町10人などが多かった。

近畿地方では、三重県が1月1町1村3人、2月2町4人、4月1郡1人、5月1郡2人、8月2町2人、9月1郡1人、12月2市1ヶ所12人の合計25人が納入し、なかでも四日市市の10人が最多で、伊賀上野町4人、多気郡・一志郡各2人が次いだ。滋賀県では、1月大津市13人、2月同市2人、3月1町1郡10人、6月近江八幡町1人、8-9月は彦根町各1人、10月2町2人、12月1市1ヶ所9人が納入しており、大津市の17人が最多で、近江八幡町11人が次いだ。

京都府では、1月京都市3人、2月1市1町1郡55人、3月京都市149人、宇治町1人、5月伏見町1人、7月2町1郡5人、10月伏見町1人、11月福知山町1人、12月1市2ヶ所15人の1市6町2ヶ所で231人が納入していた。このうちの大半を占めたのが京都市の206人であった。

大阪府では、1月1市1村7人、2月大阪市5人、3月同市114人、4月

同市 58 人、堺市 39 人、6 月大坂市 2 人、淀町 1 人、7 月大坂市 1 人、8 月大坂市 13 人、9 月大坂市 1 人、泉北郡 1 人、11 月大坂市 3 人、12 月大坂市 2 人、堺市 2 人、3 ヶ所 10 人となっており、2 市 1 町 1 郡 1 村他から計 259 人の納入があった。大阪市に限定すると、205 人（最多）となっている。このため、近畿地方のなかでも京都府と大阪府では 3 月を中心に同院職員の現賛助員への募金活動の活発化が展開されていたことが明らかになった。

兵庫県では、10 月を除いて毎月、納入者があり、1 月 1 市 3 町 12 人、2 月 1 市 1 町 2 郡 5 人、3 月 2 市 3 町 1 郡 10 人、4 月神戸市 131 人、武庫郡 1 人、5 月 2 市 1 町 1 郡 70 人、6 月西宮町 2 人、7 月 1 市 2 町 3 郡 28 人、8 月 1 市 1 郡 1 ヶ所 6 人、9 月 1 市 1 町 1 郡 3 人、11 月神戸市他 3 人、12 月 2 市他 9 人の合計 2 市 9 町 7 郡他から 280 人の納入状況が明かされた。このうち、神戸市 210 人が突出しており、生野町 24 人、尼崎町 7 人などが続いた。

奈良県では、1 月 1 市 1 村 3 人、2 月 1 市 2 町 5 人、4 月 1 町 1 人、10 月 1 市 1 人、12 月 1 市 1 ヶ所 3 人の計 13 人が納入した。和歌山県では、2 月 1 町 1 郡 7 人、3 月和歌山市 1 人、4 月同市 34 人、5 月御坊町 2 人、6 月有田郡 1 人、8 月御坊町 3 人、伊都郡 1 人、10 月東牟婁郡 1 人、12 月紀伊 8 人の計 58 人であった。

このように、近畿地方では、合計 847 人の納入者となり、うち兵庫県が 2 市 9 町 7 村他で 280 人が最も多く、大阪府 259 人、京都府 231 人と続き、とりわけ、2 月から 4 月までの京都市 202 人、大坂市 177 人、神戸市 135 人等は同院職員による集金活動の顕著な成果の一つと捉えることができよう。

中国地方では、鳥取県においては、鳥取市を中心に（1 月 1 人、6 月 2 人、7 月 1 人、11 月 1 人、12 月 1 人）、2 月米子町 2 人など合計 8 人が納入しており、島根県では 12 月に石見で 6 人の納入があったのに留まった。

岡山県では、毎月の納入者があり、1 月 1 市 2 町 4 郡 80 人、2 月 1 市 5

町3郡39人、3月1市2町3郡14人、4月1市4町3郡41人、5月1市4町4郡他62人、6月1市7町3郡202人、7月1市6町2郡1村75人、8月1町2郡5人、9月1市2町4郡7人、10月1市2郡13人、11月1市1郡7人、12月1他30人の合計1市16町16郡他から575人の納入があった。このうち、岡山市の142人が最多であり、津山町64人、倉敷町39人、備中高梁36人、久世町26人などが続いており、ここにも市町村単位での職員の集金活動の一端が窺い知れる。

広島県では、1月1市3郡4人、2月2市1町1郡51人、3月2市1郡5人、4月1市1郡3人、5月2市2郡40人、6月2市1町3人、7月2市6町3郡105人、8月2市2人、11月2市1郡3人、12月2市2ヶ所19人の合計3市7町6郡他で235人からの納入があった。多い順に見てみると、呉市69人、広島市46人、福山町45人、尾道市19人、府中町16人となり、ここでも市町村レベルでの同院職員による集金活動が展開されていたことが示唆された。

山口県では、1月1町1村2人、2月2町2人、4月1市1町他3人、5月1市4町1郡41人、7月1市1町1郡6人、8月3市1町2郡26人、9月下関市1人、10月長府町3人、11月同町1人、12月長門8人、周防3人の2市6町4郡1村他から94人の納入があり、山口町26人、徳山市19人、下関市7人、岩国町5人、長府町4人が続いた。

このように、中国地方では、岡山県の575人がもっとも多く、次いで広島県235人、山口県94人と続き、岡山市142人をはじめとする10人以上の納入者があったところでは、同院職員による集金活動の努力があったことが推察される。

四国地方では、徳島県においては、1月阿波池田署1人、2月徳島市1人、8月麻植2人、12月阿波1人の合計5人の納入があり、香川県では、2月2町2人、4月善通寺町1人、5月多度津町1人、6月2郡2人、7月美馬郡1人、8月2市2町他90人、9月1市1町1郡8人、11月善通寺

町 1 人、12 月讃岐 3 人の合計 2 市 4 町 3 郡他で 109 人から納入があった。愛媛県では、1 月 1 町 3 郡 4 人、2 月 1 町 1 郡 40 人、3 月 1 市 1 町 1 郡 5 人、4 月喜多郡 2 人、5 月三島町 1 人、6 月新居郡 2 人、7 月温泉郡 1 人、8 月松山市 8 人、三津濱 1 人、10 月新居濱 2 人、11 月同 1 人、12 月伊豫 16 人の合計 83 人であった。高知県では、1 月高岡郡 1 人、2 月同郡 1 人、佐川町 1 人、8 月高知市 41 人、土佐安芸町 3 人、12 月土佐 4 人の合計 51 人から納入がなされていた。

このように、四国地方では、香川県が 109 人と最多であり、愛媛県 83 人、高知県 51 人、徳島県 5 人と、ここでは少なからぬ地域差が窺えた。こうした広範囲に及ぶ地形・地域では、同院職員による集金活動の偏重や限界が見られたことが分かった。

九州地方では、福岡県において、1 月 1 市 1 郡 3 人、2 月 1 町 1 郡 2 人、3 月 1 町 1 郡 3 人、4 月 1 市 2 郡 4 人、5 月 3 市 5 町他で 111 人、6 月 2 市 1 町 1 郡 6 人、7 月門司市 21 人、9 月福岡市 1 人、門司市 1 人、10 月小倉市 1 人、八幡町 1 人、11 月築上郡 1 人、12 月 3 市他で 25 人の合計 4 市 5 町 7 郡他で 180 人の納入があった。なかでも、小倉市 31 人、門司市 25 人、枝光 18 人、若松町 17 人、福岡市 16 人、柳河町 12 人、中津町 10 人などで成果が見られ、ここにも同院職員による現賛助員への集金活動が行われていた。

佐賀県では、3 月唐津町 2 人、4 月同町 1 人、台岐郡 1 人、4 月 1 市 2 町 13 人、12 月肥前 7 人の計 27 人から納入があり、長崎県では、1 月長崎市 2 人、3 月同市 12 人、佐世保市 3 人、5 月長崎市 16 人、佐世保市 30 人、6 月佐世保市 1 人、嬉野郡 1 人、8 月長崎市 4 人、9 月同市 1 人、佐世保市 2 人、11 月長崎市 1 人、12 月佐世保市 2 人の計 75 人から納入されていた。佐賀県では唐津町で、長崎県では長崎市・佐世保市で同院職員による集金活動の展開を窺わせる成果が見られていたことが明らかになった。

熊本県では、1 月飽託郡 2 人、2 月日奈久町 4 人、5 月熊本市 11 人、八代町 8 人、12 月熊本市 2 人、肥後 3 人の合計 30 人が納入し、大分県では

12月豊後2人の納入に留まった。宮崎県では、1月東臼杵郡8人、2月同1人、3月高鍋町6人、都城町1人、児湯郡1人、5-6月宮崎町各1人、7月北諸縣郡1人、10月富高新町3人、高鍋町3人、11月延岡3人、12月日向6人の合計4町3郡他で35人の納入があった。鹿児島県では、1月鹿児島市1人、熊毛郡1人、2月鹿児島市1人、4月薩摩郡13人、10月鹿児島市1人、12月薩摩郡1人の計18人から納入があった。

このため、九州地方では、福岡県180人、長崎県75人、宮崎県35人、熊本県30人、佐賀県27人と続き、3月から5月を中心に見てみると、5月の福岡県の3市5町他で111人、5月の長崎県の2市46人、5月の佐賀県の1市2町13人、3月の長崎県の2市15人、4月の鹿児島県の薩摩郡13人などに同院職員による集金活動の成果を見ることができた。

そして、海外においては、韓国では、1月仁川5人、2月仁川1人、釜山1人、3月京城1人、仁川2人、釜山2人、4月釜山1人、7月京城38人、仁川57人、釜山31人、大邱6人の132人が、9月京城1人、11月4人、12月5人の計155人からの納入があり、とりわけ7月の納入結果が顕著で、ここに同院職員の集金活動の成果を見いだせる。

清国では、1月天津3人、4月天津4人、鎮南浦2人、8月北京1人、10月南京1人、遼陽1人、12月2人の計14人の納入が見られた。台湾では、台北、台中、台南、其隆、新竹を中心に、1月27人、2月41人、3月15人、4月22人、5月37人、6月9人、7月台北2人、8月4人、9月台中1人、10月175人、11月2人、12月13人の納入があり、特に10月(175人)において同院職員による集金活動の活発化が窺えた。

米国では1月と3月の各1人の納入があり、その他では、軍艦、出征師団、陸軍病院など戦争関連のものが多く、1月軍艦橋立4人、2月軍艦赤城・秋津洲他6人、3月軍艦三笠他6人、4月軍艦橋立他3人、5月軍艦吾妻他3人、6月軍艦千歳4人、8月軍艦橋立3人、12月陸軍病院他11人などの納入があった。

以上のように、「年一時出金者」は全国 46 道府県 3 区 57 市 129 町 81 郡と海外 4 ヶ国などを含め、4,135 人等の納入が確認できた。最大は、東京府 607 人であり、次いで、岡山県 575 人、台湾 349 人、兵庫県 280 人、大阪府 259 人、広島県 235 人、京都府 231 人、福岡県 180 人、韓国 155 人、北海道 114 人、香川県 109 人と続いていた。市区町村では、東京府 578 人、京都市 202 人、大坂市 177 人、岡山市 142 人、神戸市 135 人、横浜市 85 人と続いていた。そして、1905 年の「年一時出金者」の総数が 4,135 人であったことから判断し、同年の納入額は最低でも 4,135 円と理解でき、同年の全賛助金収入が 5,330 円 6 銭であったことから、77.6%程度が「年一時金者」からの納入と推定できよう。

1904 年と 1905 年の現賛助員の道府県市町村別の年一時金出金者数を比較すると、1905 年時に増加傾向を示していた主な自治体は、東京市（50 人増）、横浜市（8 人増）、大阪府（59 人増）、岡山県（45 人増）、広島県（41 人増）であった。つまり、これらの地域で一時金獲得に対する理解者が増えていたことになる。次いで、横ばい傾向は、京都市（233 人→231 人）、福岡県（180 人→180 人）で窺え、減少傾向を示していたのは、北海道（30 人減）、兵庫県（26 人減）などの市町村であった。

一方、諸外国の状況比較では、韓国（139 人増）、台湾（229 人増）において急増しており、前者では 1905 年 7 月において、京城 38 人、仁川 57 人、釜山 31 人、大邱 6 人から一時金を得ており、後者では、1905 年 10 月において、台中 21 人、打狗 3 人、台南 47 人、新竹 31 人、安平 8 人、淡水 10 人、台北 43 人、其隆 12 人から一時金出金の成果を挙げていたことが示され、こうした諸外国の在住者に対する働きかけとその一定の成果をこのような結果から解読できる。

他方、上記の年度比較で、とりわけ増加傾向を示していた自治体について、地域別に比較検討してみると、東京都（1 市 3 町 3 村 [1904 年] → 1 市 5 町他 [1905 年]）では 2 町増えており、横浜市（1 市 4 町 3 村 [1904 年]

→1市1町他[1905年])では3町減少している。大阪府(2市1町2村[1904年]→2市1町1郡1村他[1905年])では、地域の変化はあまり見られず、岡山県(1市21町61村[1904年]→1市16町16郡他[1905年])では、5町減っているものの、村部を郡部でまとめながら集金成果を挙げていたことが分かる。広島県(3市6町10村[1904年]→3市7町6郡他[1905年])では1町増えたものの、それほど大きな地域変化がないなかでの活動であったことが示される。つまり、多少の地域差はあるものの、このように、地域別比較検討ではそれほど大きな地域の変化がないなかで、1904年及び1905年当時の岡山孤児院の財政基盤が一時金獲得活動を通して整えられながら、院児の生活や教育が展開されていたことが認識できる。

因みに、一時金出金者数が30人減であった北海道(4区7町18村4ヶ所[1904年]→3区1市6町4郡他[1905年])では、1区1町減っていたものの、1市増えていたこと、26人減であった兵庫県(1郡2市14町16村1ヶ所[1904年]→2市9町7郡他[1905年])では、町部・村部を減らしながらも郡部での活躍が見られたことが跡付けられる。

(3) 1905年の本部直接

1905年の本部直接及び職員と出張員による賛助金の月別集金内容を表14に整理した¹⁵⁾。まず、1905年の本部直接収入は月別平均108円88銭であり、多かった月は、12月(361円30銭)、1月(195円67銭)、2月(182円70銭)などであった。次に、これらを全賛助金に対する比率で表すと、17.8%(1月)、15.5%(2月)、14.3%(3月)、16.6%(4月)、20.6%(5月)、19.0%(6月)、2.0%(7月)、2.3%(8月)、1.8%(9月)、3.4%(10月)、2.7%(11月)、8.0%(12月)となり、1月～6月までの上半期では10%台であったのに対し、7月以降の下半期では、急激に低下しており、2～3%台が多くなっている。

上記の傾向を、前年の1904年と比較した場合、本部直接集金状況で

は、合計金額を見ると、1,221 円 57 銭 8 厘（1904 年）、1,036 円 61 銭（1905 年）となっており、1905 年のほうが 184 円 96 銭 8 厘減少している。月別で見ると、年末・年始の集金額が目覚ましく、例えば、1904 年の場合、12 月（385 円 39 銭）、1 月（199 円 32 銭）、2 月（104 円 42 銭）の順に多く、1905 年の場合も、12 月（361 円 30 銭）、1 月（195 円 67 銭）、2 月（182 円 70 銭）の順に多いところが共通している。一方、もっとも少なかった月は、11 月（1904 年、41 円 90 銭）と 9 月（1905 年、36 円 80 銭）と異なっている。なお、各年とも 12 月及び 1 月をピークとしつつも、一年間では増減を繰り返しながら集金しており、月平均数としては、101 円 79 銭 8 厘（1904 年）、86 円 38 銭 4 厘（1905 年）と、1904 年のほうが月平均 15 円 41 銭多かったことが示される。

（4）職員と出張員による賛助金の月別集金内容

他方、職員及び出張員による賛助金募集状況についても、表 14 から読み取れよう。なかでも、1905 年において目覚ましい働きをした職員として、末藤新市、佐久間武男、光延義民、大島三郎の 4 人を挙げることができる。具体的には、末藤は岡山県、大阪府はもとより、京都府、和歌山県、広島県、徳島県、高知県、滋賀県、石川県、富山県など全国各地を幅広く飛び回っている。佐久間も同様に、静岡県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、香川県などと射程範囲が広く、特に九州地方を中心としつつも、さらに海外にも赴き、例えば、台湾では台南、台中、打狗、新竹、安平、淡水、台北、基隆などで活動し、他方、韓国では京城、仁川、釜山、大邱などで少なからぬ成果を挙げた。また、光延については、長崎県、石川県、京都府、韓国（仁川）での活躍が見られ、大島も滋賀県、愛媛県、福岡県など、西側での活動を展開していたことが示された。

さらに、1905 年時の職員及び出張員によつ賛助金の月別集金額が 50 円以上であったケースを詳細に見ていくと、まず、東京出張員佐久間が 270

円(1月)、170円40銭(2月)、150円(3月)を集金したことが目を引く。佐久間はこの他、横浜出張所では82円(3月)を集め、海外でも活躍し、例えば、台南出張員として62円(10月)、台北出張員としても91円(10月)、さらには韓国京城出張委員としても71円(7月)を集めるなど幅広い活躍を見せた。次いで、岡山集金員柳瀬政吉は55円20銭(1月)を集め、大阪出張所末藤新市は101円(3月)、61円40銭(4月)を集めたが、末藤は神戸出張所でも142円50銭(4月)、72円20銭(5月)の他、津山出張所では75円90銭(6月)、京都出張所では56円50銭(2月)、165円80銭(3月)、福山出張所でも54円30銭(7月)を集め奮闘している。

上記の1905年の傾向を1904年時と比較した場合、岡山の渡辺万吉朗が94円90銭(2月)を集め、京都・大阪・神戸の3地域で佐藤弘之が239円20銭(2月、京都)、175円(2月、大阪)、195円50銭(3月、神戸)などの成果を挙げていたことが異なるものの、1905年時にも大活躍していた佐久間武男が495円(2月、東京)、89円51銭5厘(3月、東京)、67円50銭(3月、横浜)などの他、横須賀、名古屋、静岡、沼津、大垣、岐阜、福岡、飯塚、若松、八幡、久留米、小倉、熊本、八代、柳川、大牟田、佐賀、唐津、長崎などで広範囲にわたり活動していたことが共通点として示される。

(5) 1905年の地方委員による賛助金の月別集金内容

1905年の地方委員による賛助金の月別集金内容を表15に示した¹⁶⁾。同年は地方別に見ると、近畿地方及び北海道での集金状況が優れており(近畿地方190円49銭、北海道137円10銭)、次いで、四国地方86円73銭、東北地方78円80銭、岡山県68円20銭、九州地方57円90銭、中国地方37円、中部地方26円90銭となっている。他方、諸外国では、基隆地方、台中地方、台南地方、京城地方、釜山地方での委員活動が見られ(計82円)、賛助金集金が必ずしも国内に限ったことではなくなっていたことが窺い知れる。

1905 年の地方委員による賛助金の月別の集金内容 <表 15>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	計(地方)
高梁金澤長藏	22,600				5,900		10,300				10,000		28,800	
岡山 落合山田義信						3,300							3,300	
岡山 早崎満手				4,000			7,200							
岡山 玉島中郎克一郎				14,000	1,000					1,000			11,200	
岡山 有澤庄三郎吉				8,000									16,000	
倉敷大原孫三郎					0,900								8,000	
倉敷中島	18,000												0,900	68.2
北 札幌越智三郎		5,900		21,500					31,900	6,400	5,300	9,800	80,800	
北 岩見澤峰谷						2,100							2,100	
北海道 南館磯野員為									29,600				29,600	
栗山堤見											6,600		6,600	137.1
弘前石戸谷重三郎	9,700												9,700	
越後前田荒木	11,700												11,700	
岩見澤相澤	5,300												5,300	
京都斎藤	3,000												3,000	
東北 福井高田		14,600											14,600	
北 飯田小澤			7,500										7,500	
宇都宮山田			8,000										8,000	
鹿嶋長谷川			9,000										9,000	
松本中川				10,000									10,000	78.8
四 横浜高橋		8,500						10,000					18,500	
東 横浜寺岡		2,700	2,200					5,100					10,000	28.5
中 静岡藤波長助	4,600		3,800		4,600				3,900				16,900	
滋 四日市仲												10,000	10,000	26.9
近 奈良秋田猪太郎	2,000	2,000		1,000									5,000	
遠 大津巖田信吉	13,800	3,700					2,900						20,400	
鹿 相原宮田											1,050		1,050	
地方 相原林清吉		1,800		1,800				1,900					5,500	

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	計(地方)
彦根森山								3,600					3,600	
彦根若林								6,200					6,200	
彦根水島									3,700				3,700	
彦根永島							23,000					5,500	5,500	
生野吉川繁次郎	1,000												24,000	
田辺伊藤貫一	7,000												7,000	
兵庫下村完兵衛		0,900			3,540			0,400					4,840	
住吉吉田		5,500			3,000								8,500	
神戸日下部			3,000								2,200		5,200	
神戸三瀬千津江					21,900								21,900	
神戸尾崎								4,000					4,000	
明石本林武夫	4,500				9,600		5,400	4,800		4,400	2,000	2,000	32,700	
尼崎小森純一	7,000												7,000	
西宮國田藤吉					1,800	2,400							4,200	
岩代若松兼子					14,000				1,200				15,200	
御坊山本重一					2,000			3,000						190,49
米子岡島太治郎			2,300										5,000	
鳥取山縣						3,500	2,000			1,300	0,500		2,300	
広島大須賀村久光					1,400								1,400	
縣中山			2,000		1,000								3,000	
興松井守真					1,000								1,000	
長府末来										3,000			3,000	
岩国栗原														37
新居濱柳原正一	2,600	4,800	6,800	5,400	4,000	6,800	6,400			8,000	6,400	5,500	66,100	
別子山常喜秀五郎	4,000	1,030	1,000	0,700	0,200	0,600	1,000		0,500	1,200	1,200	0,200	11,630	
川内樋口				9,000									9,000	86,73
長崎北原梅太郎			3,800					8,400					12,200	
延岡加藤馨之助		1,100		1,800			2,200		1,800			3,200	10,100	
高鍋渡田超道	2,800		6,000		1,800		4,900					5,000	20,500	
日向富高新町衛藤										6,000			6,000	

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	計（地方）
宮崎白井卯之助												2,000	2,000	
天城津下		7,100											7,100	57.9
基隆西きよ子			12,000		5,000								17,000	
基隆官島								2,000				5,000	7,000	
打狗横田利盛				4,000									4,000	
台北津下										4,000			4,000	
台中小畑駒三					27,000								27,000	
台南久江										4,000			4,000	
韓国京城長谷川							15,000						15,000	
韓国釜山豊田											4,000		4,000	82

【出典】『岡山孤児院新報 第4巻』第100号～第111号をもとに筆者整理。

さらに、同表に基づき、北海道から諸外国までの各地方委員の活動を概観していくと、岡山県では、高梁地方委員金澤により 28 円 80 銭（1 月、5 月、7 月、11 月）が、玉島地方委員中原により 16 円（4 月、5 月、10 月）の集金結果が挙げられ、同年の県内の約 65.7%を集めている。次いで、北海道では、室蘭地方委員中島により 18 円（1 月）、札幌地方委員越智により 80 円 80 銭（2 月、4 月、9～12 月）、函館地方委員磯野により 29 円 60 銭（9 月）の集金成果が目覚ましく、これらを合わせると、同年の道内の集金額の 93.7%にものぼる。

一方、東北地方では、1 月と 3 月の集金活動が活発化しており、1 月では弘前地方委員石戸たににより 9 円 70 銭、越後前田地方委員荒木により 11 円 70 銭、岩見澤地方委員相澤により 5 円 30 銭、寿都地方委員斎藤により 3 円が集金された。3 月では、飯田地方委員小澤により 7 円 50 銭、宇都宮地方委員山田により 8 円、藤崎地方委員長谷川により 9 円の集金が行われた。

関東地方では、横浜地方委員の高橋・寺岡の両名によって 28 円 50 銭の集金成果が挙げられ、中部地方では、静岡地方委員藤波、四日市地方委員仲の二人によって 26 円 90 銭が集められた。

他方、近畿地方では、奈良、大津、柏原、彦根、生野、田辺、兵庫、住吉、神戸、明石、尼崎、西宮、岩代、御坊など広範囲で活動が展開されており、そのうち集金額が 10 円以上であったケースは、大津地方委員薮田による 13 円 80 銭（1 月）、生野地方委員吉川による 23 円（7 月）、神戸地方委員三瀬による 21 円 90 銭（5 月）、岩代若松地方委員兼子による 14 円（5 月）であった。地域別に見た場合、1905 年でもっとも多く集金したのは近畿地方（190 円 49 銭）であった。

次いで、中国地方では、岩国地方委員栗原による 19 円（12 月、32.4%）が目立ち、四国地方では、新居濱地方員柿原（66 円 10 銭、76.2%）、別子山地方委員常喜（11 円 63 銭、13.4%）が活躍している。九州地方では、高鍋地方委員濱田（20 円 50 銭、35.4%）、長崎地方委員北原（12 円 20 銭、

21.1%)、延岡地方委員加藤(10 円 10 銭、17.4%)らによる集金活動が顕著であり、諸外国では台中地方委員小畑(27 円、32.9%)、其隆地方委員西(17 円、20.7%)、韓国京城地方委員長谷川(15 円、18.3%)らの活躍が見られた。

さらに、1904 年と 1905 年の地方委員による賛助金の月別集金内容を比較検討すると、総額では 1037 円 46 銭(1904 年)から 793 円 62 銭(1905 年)へと、243 円 84 銭減少している。だが反面、1904 年に比べ、1905 年に増加傾向を示している主なケースとしては、高梁地方委員金澤による集金活動(3 円 34 銭増)、明石地方委員本林による集金活動(13 円 20 銭増)、新居浜地方委員柿原による集金活動(19 円 20 銭増)などがあり、近畿地方や四国地方での奮闘が窺える。他方、減少傾向が目立つケースとしては札幌地方委員越智による集金活動(23 円 70 銭減)、函館地方委員磯村による集金活動(8 円 30 銭減)、台中地方委員小畑による集金活動(10 円減)などがあり、これらは前年(1904 年)の集金状況が高額でありその好調さの影響ではなかったかと考えられる。

おわりに

本稿では、これまでの右肩上がりから減少に転じた賛助員募集活動が、日露戦争が始まる 1904 年と同戦争が終わる 1905 年にどのように推移し、全国的なネットワーク網がどう変化するかを、両年の岡山本部、職員(外部事務員)、同院音楽幻燈(活動写真)隊、地方委員(賛助員)による賛助員募集活動の解明を通して明らかにし、その特徴を分析していくことを目的とした。その際、明治 30 年代から同 40 年代に全国的な支援ネットワークシステムを構築した岡山孤児院の賛助員募集活動の展開過程の実態を解明し、その歴史的役割を明らかにすることに主眼を置いた。

具体的には、1904 年と 1905 年の賛助員募集活動により、「1 万人以上(前後)の全国的な賛助員の支援ネットワークシステムをどのように運営し維持した

か」、「個々の賛助員およびその賛助員と岡山孤児院の結節点となった個々の地方委員が、岡山孤児院の活動からどのような啓蒙を受け、彼らの慈善事業に対する認識としての価値感(観)がどのように変化したか」などに迫った。

その結果、システム運営・維持にとって重要なファクターとなる賛助員獲得に注目すると、1904年と1905年の各月別各府県別の新賛助員の加入状況の比較から、増加している主な府県は、京都府(1市1町1村、13人[1904年]→1市3町2郡等、10人[1905年])、大阪府(1市2村、31人[1904年]→2市3町2郡、0人[1905年])、兵庫県(2市2町1村、48人[1904年]→2市等、30人[1905年])など近畿地方に留まり、岡山県(1市10町10村、78人[1904年]→1市8町4郡1村等、23人[1905年])では横ばい傾向が示された。一方、東京市(1郡1市1村、54人[1904年]→1市1町等、29人[1905年])、横浜市(1市1町1村、79人[1904年]→1市1町、4人[1905年])では大幅に減少していた。そして、諸外国の動向を見ると、韓国(2ヶ所、3人[1904年]→6ヶ所、146人[1905年])で急増したものの、台湾(10ヶ所、607人[1904年]→10ヶ所、46人[1905年])やその他(軍艦2ヶ所、60人[1904年]→軍艦5ヶ所、54人[1905年])などで減少しており、これらの結果を総合すると、1,226人(1904年)から965人(1905年)へと、新賛助員の獲得総数が合計261人も減少していた。

このような苦境に対し、本部直接収入では1,221円57銭8厘(1904年)から1,036円61銭(1905年)へと184円96銭8厘減少し、新たな賛助員の加入も1,226人(1904年)から965人(1905年)へと261人減少していたが、反面、賛助金収入額では4,830円45銭9厘(1904年)から5,455円(1905年)へと、約624円54銭1厘増加しており、ここに新賛助員募集活動より現賛助員からの賛助金集金活動に移行する要因が見て取れる。より詳細に見ていくと、1905年時には国内のみならず、国外での賛助金集金活動が活発化しており、例えば、台湾出張員として活躍した佐久間武男は、台北で91円、台南で62円、新竹で43円、台中で23円、淡水で

18 円、基隆で 17 円、安平で 9 円、打狗で 3 円の合計 266 円を獲得している。また、韓国でも佐久間は、仁川出張員として 71 円、釜山出張委員として 25 円、京城出張員として 26 円、大邱出張委員として 6 円の合計 128 円を集め、その他、韓国釜山出張委員森上信、仁川出張委員光延義民（16 円）などの出張員が活躍したことも重要な一因であった。さらに、このような内容からも、当時の岡山孤児院の賛助員募集活動が日清戦争や日露戦争の直接的な影響を受けていたことも理解できた。

次に、職員（出張員）による賛助金の月別集金内容の面から 1904 年と 1905 年を比較した場合、岡山市で渡辺万吉朗が 94 円 90 銭（2 月）を集め、京都市・大阪市・神戸市の 3 地域で佐藤弘之が 239 円 20 銭（2 月、京都）、175 円（2 月、大阪）、195 円 50 銭（3 月、神戸）などの成果を挙げて、1905 年は佐久間武男が 495 円（2 月、東京）、89 円 51 銭 5 厘（3 月、東京）、67 円 50 銭（3 月、横浜）などの他、横須賀、名古屋、静岡、沼津、大垣、岐阜、福岡、飯塚、若松、八幡、久留米、小倉、熊本、八代、柳川、大牟田、佐賀、唐津、長崎などで広範囲にわたり活動していたことが共通点として確認できた。

さらに、1904 年と 1905 年の地方委員による賛助金の月別集金内容を比較検討すると、総額では 1037 円 46 銭（1904 年）から 793 円 62 銭（1905 年）へと、243 円 84 銭減少しているが、1904 年に比べ、1905 年に増加傾向を示している主なケースとしては、高梁地方委員金澤による集金活動（3 円 34 銭増）、明石地方委員本林による集金活動（13 円 20 銭増）、新居浜地方委員柿原による集金活動（19 円 20 銭増）などが見られた。これは近畿地方や四国地方での奮闘を示唆したものであった。他方、減少傾向が目立つケースとしては札幌地方委員越智による集金活動（23 円 70 銭減）、函館地方委員磯村による集金活動（8 円 30 銭減）、台中地方委員小畑による集金活動（10 円減）などがあり、これらは昨年（1904 年）の集金状況が高額でありその好調さの影響ではなかったかと考えられる。

以上、減少に転じた賛助員募集活動に加え、日露戦争が追い打ちをかけるような苦しい時期であった1904年・1905年においては、新賛助員数、本部直接収入、地方委員による賛助金獲得などに減少傾向が見られたものの、約624円54銭1厘増加した出張員のよる賛助金集金活動が注目され、そこには、佐久間、森山、光延らの国内外を問わない活躍があった。つまり、新賛助員の募集が振るわなかったが、現賛助員による自覚と協力がこれまで以上に目立つようになり、岡山孤児院の財政基盤を支える活動の軸足が新賛助員募集活動から現賛助員へ賛助金集金活動にシフトしていたと言えよう。その根本には岡山孤児院の存続のために賛助員の全国的な支援ネットワークを堅持しようとして活動した個々の現職員の高い自覚や役割認識、さらには使命感や責任感に基づく実践が見られたためと考察する。今後は、1906年以降のこのような実践を解明、分析することに加え、臨時寄付者が寄付金とともに送付した手紙などの文書を発掘し、分析することで、組織運営の維持に貢献した人々の内面や精神（考え方）などにもアプローチしていきたい。（文責 中嶋 洋）

<付記>

本論文は、22K01959（研究代表者 菊池義昭）の研究成果の一部である。

<註>

- 1) 以下2頁12行目までは、①中嶋洋・菊池義昭「1902年、1903年の岡山孤児院の賛助員募集活動と全国的な支援ネットワークシステムの展開内容」『中京大学社会科学研究』第42巻第2号(2022年3月、91頁から184頁)を引用、参照した。（誤記訂正：103頁表4〈注〉の佐藤惣吾→佐藤弘之。154頁10行目の378円40銭→473円60銭、同12行目の169円10銭→174円70銭、147円90銭→59円40銭、同13行目の130円10銭→117円80銭に訂正。156頁の表14の訂正は本論文の0(116)頁に掲載。157頁16行目の2,680人→合計1,060人、同17行目の総賛助員9,777人の約27.4%→総新賛助員2,067人の約51.3%。同18行目の約3割

近く→約 5 割に訂正。表 12 の 179 頁の晩香坂 長瀬君山本君の行は削除、合計(筆者計算)→合計と 344.950→289.950、合計(資料掲載)→合計(全体)で 1,093.210.000→1,093.210、1,180.460.000→1,180.460、676.610.000→676.610、466.180.000→466.180、417.980.000→417.980、351.704.000→351.704、261.500.000→261.500、239.600.000→239.600、201.170.000→201.170、129.520.000→129.520、179.100.000→179.100、450.350.000→450.350。180 頁から 184 頁の表 13 の訂正は 5 (111) 頁から 1 (115) 頁に掲載。

- 2) 以下この項の事実関係と表 1 は、1) の① 148 頁、149 頁、「賛助員現在人員」『岡山孤児院新報』第 88 号(1904 年 2 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 89 号(同年 3 月 15 日、5 頁)、「同」『同』第 90 号付録(同年 4 月 15 日、3 頁)、「同」『同』第 91 号(同年 5 月 15 日、6 頁)、「同」『同』第 92 号(同年 6 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 93 号(同年 7 月 20 日、8 頁)、「同」『同』第 94 号(同年 8 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 95 号(同年 9 月 15 日、6 頁)、「同」『同』第 96 号(同年 10 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 97 号(同年 11 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 98 号(同年 12 月 15 日、7 頁)、「同」『同』第 99 号付録(1905 年 1 月 15 日、7 頁)を引用、参照した。
- 3) 以下この項の事実関係と表 2 は、「新賛助員」『同』第 88 号(同、7 頁)、「同」『同』第 89 号(同、5 頁)、「同」『同』第 90 号付録(同、1 頁から 3 頁)、「同」『同』第 91 号(同、6 頁)、「同」『同』第 92 号(同、7 頁)、「同」『同』第 93 号(同、7 頁、8 頁)、「同」『同』第 94 号(同、7 頁)、「同」『同』第 95 号(同、6 頁)、「同」『同』第 96 号(同、7 頁)、「同」『同』第 97 号(同、7 頁)、「同」『同』第 98 号(同、7 頁)、「同」『同』第 99 号付録(同、7 頁)直木孝次郎著『日本史 B』(実教出版株式会社、1997 年 1 月、264 頁から 266 頁、274 頁から 276 頁)を引用、参照した。
- 4) 以下この項の事実関係と表 3 は、3)、「岡山孤児院地方委員」『同』第 90 号(同、8 頁)、「新賛助員」『同』第 100 号(1905 年 2 月 15 日、7 頁)、菊池義昭「岡山孤児院の音楽幻燈(活動写真)隊の活動と養護実践のかかわり」『共栄児童福祉研究』第 4 号(1997 年 3 月、101 頁から 108 頁)を引用、参照した。
- 5) 以下この項の事実関係と表 4 は、「明治三十七年一月中収支決算表」「院児異動」「賛助寄附金」『同』第 88 号(同、1 頁、7 頁)、「収支決算(廿七年二月中)」『同』『同』第 89 号(同、1 頁、5 頁)、「収支決算(廿七年四月中)」『同』『同』第 90 号(同、2 頁、8 頁)、「収支決算(四月中)」『同』『同』第 91 号(同、1 頁、5 頁)、「収支決算(五月中)」『同』『同』第 92 号(同、1 頁、6 頁、7 頁)、「明治三十七年六月中収支決算表」「同」『同』第 93 号(同、6 頁、7 頁)、「明治卅七年七月中収支決算表」「院児異動」「同」『同』第 94 号(同、1 頁、7 頁)、「明

- 治三十七年八月中収支決算表」「院児異動」「同』『同』第95号(同、1頁、6頁)、「院児異動」「明治三十七年九月中収支決算表」「同』『同』第96号(同、1頁、2頁、7頁)、「明治卅七年十月中収支決算表」「院児異動」「同』『同』第97号(同、1頁、7頁)、「明治三十七年十一月中収支決算表」「院児異動」「同』『同』第98号(同、1頁、6頁、7頁)、「院児異動」「明治三十七年十二月中収支決算表」「同』『同』第99号(同、2頁、8頁)、「同』『同』第99号付録(同、4頁)を引用、参照した。
- 6) 以下この項の事実関係と表5は、「一年壹円賛助員法の新設に就いて」「同』52号(1901年2月10日、1頁)、「月約賛助員の方々に御願申上候」「同』76号(1903年2月10日、1頁)、「年一時出金者姓名」「同』第88号(同、7頁)、「同』『同』第89号(同、5頁から7頁)、「同』『同』第90号付録(同、3頁、4頁)、「同』『同』第91号(同、6頁、7頁)、「同』『同』第92号(同、6頁)、「同』『同』第93号(同、7頁)、「同』『同』第94号(同、7頁)、「同』『同』第95号(同、6頁)、「同』『同』第96号(同、7頁)、「同』『同』第97号(同、7頁)、「同』『同』第98号(同、7頁)、「同』『同』第99号付録(同、4頁)を引用、参照した。
- 7) 以下この項の事実関係と表6は、1)の①152頁、176頁、「日誌一月」「賛助寄附金」「同』第88号(同、4頁、7頁)、「日誌」「賛助寄附金」「同』第89号(同、3頁から5頁)、「同」「同』『同』第90号(同、3頁、4頁、8頁)、「同」「同』『同』第91号(同、3頁、5頁)、「賛助寄附金」「同』第92号(同、6頁)、「日誌」「賛助寄附金」「同』第93号(同、5頁、7頁)、「同」「同』『同』第94号(同、3頁、4頁、7頁)、「同」「同』『同』第95号(同、2頁、3頁、6頁)、「同」「同』『同』第96号(同、4頁、5頁、7頁)、「同」「同』『同』第97号(同、3頁、4頁、7頁)、「同」「同』『同』第98号(同、3頁、4頁、6頁)、「日誌」「同』第99号(同、3頁から5頁)、「基本金」「賛助寄附金」「同』第99号付録(同、3頁、4頁)を引用、参照した。
- 8) 以下この項の事実関係と表7は、1)の①153、154頁、176頁から179頁、6)の「年一時出金者姓名」「同』第88号から『同』第99号付録、7)の「賛助寄附金」「同』第88号から『同』第99号、「特別廣告」「謹賀新年」「同』第87号(同年1月15日、1頁)、「日誌一月」「同』第88号(同、4頁)、「雑報」「同』第89号(同、1頁)、「雑報」「同』第94号(同、2頁)、児嶋琥一郎編『石井十次日誌(明治三十七)』(社会福祉法人石井記念友愛社、1975年11月、1頁)を引用、参照した。
- 9) 以下この項の事実関係と表8は、1)の①154頁、155頁、180頁から184頁、6)の「年一時出金者姓名」「同』第88号から『同』第99号付録、7)の「賛助寄附金」「同』第88号から『同』第99号、「月約賛助員の方々に御願申上候」「同』76号(同、1頁)、『同』第99号、「日誌一月」「同』第88号(同、4頁)、「日誌」「同』第89号(同、4頁)、「同』『同』第90号(同、4頁)、「同』『同』第91号(同、2頁)、

- 「同」『同』第 92 号(同、4 頁、5 頁)、「同」『同』第 93 号(同、4 頁、5 頁)、「同」『同』第 94 号(同、3 頁、4 頁)、「同」『同』第 95 号(同、2 頁、3 頁)、「同」『同』第 96 号(同、4 頁、5 頁)、「同」『同』第 97 号(同、3 頁)、「院児異動」「同」『同』第 98 号(同、1 頁、4 頁)、「日誌」『同』第 99 号(同、3 頁から 5 頁)、「廣告」『同』第 99 号付録(1 頁と 2 頁の間の欄外)を引用、参照した。
- 10) 表 9 を含めたこの項の事実関係は、「新賛助員 一月中」『同』第 100 号(19 頁)、「同二月中」『同』第 101 号(31 頁)、「同 三月中」『同』第 102 号(45 頁)、「同 四月中」『同』第 103 号(56 頁)、「同 五月中」『同』第 104 号(69 頁)、「同 六月中」『同』第 105 号(82 頁)より、引用・参照した。但し、1905(明治 38)年 7 月～12 月においては、各月退員数が不詳のため、数値が確定しない箇所については空欄とした。
- 11) 表 10 を含めたこの項の事実関係は、「新賛助員 一月中」『同』第 100 号(19 頁)、「同二月中」『同』第 101 号(31 頁)、「同 三月中」『同』第 102 号(45 頁)、「同 四月中」『同』第 103 号(56 頁)、「同 五月中」『同』第 104 号(69 頁)、「同 六月中」『同』第 105 号(82 頁)、「同 七月中」『同』第 106 号(92 頁)、「同 八月中」『同』第 107 号(108 頁)、「同 九月中」『同』第 108 号(118 頁)、「同 十月中」『同』第 109 号(129 頁)、「同 十一月中」『同』第 110 号(139 頁)、「同 十二月中」『同』第 111 号(155 頁)より、引用・参照した。なおここでは、「新賛助員」欄を用いて、各都道府県において各月にどのような加入状況の傾向が見られるのか、そこにどのような地域差が窺えるのかにアプローチした。
- 12) 表 11 については、『岡山孤児院新報』第 100 号～第 111 号をもとに、1905(明治 38)年の音楽幻燈会の開催日、場所、寄付収入、新賛助員数、担当職員名を整理することで、いかに音楽幻燈会の活動が鍵になっていたのかを表した。具体的には、「各地音楽會・慈善會 一月中」『同』第 100 号(15-17 頁)、「同二月中」『同』第 101 号(25-27 頁)、「同 三月中」『同』第 102 号(40-42 頁)、「同四月中」『同』第 103 号(54-55 頁)、「同 五月中」『同』第 104 号(64-67 頁)、「同六月中」『同』第 105 号(80 頁)、「同 七月中」『同』第 106 号(88-90 頁)、「同八月中」『同』第 107 号(104-107 頁)、「同 九月中」『同』第 108 号(116-117 頁)、「同十月中」『同』第 109 号(126-127 頁)、「同 十一月中」『同』第 110 号(135-137 頁)、「同 十二月中」『同』第 111 号(147-151 頁)より、引用・参照した。
- 13) 表 12 を含めたこの項の事実関係は、「各月収支決算表」及び「賛助寄付金」欄をもとに、月別の賛助金収入を確認し、それが全収入の何割なのか、また、全収入に対する全支出の状況を捉えることで、月別の経営状況を概観した。具体的には、「各月中収支決算表」・「賛助寄附金」『同』第 100 号(13、17 頁)、「同

二月中」・「同」『同』第101号(21、28頁)、「同 三月中」・「同」『同』第102号(36、43頁)、「同 四月中」・「同」『同』第103号(55-56頁)、「同 五月中」・「同」『同』第104号(59、68頁)、「同 六月中」・「同」『同』第105号(75、82頁)、「同 七月中」・「同」『同』第106号(90、92頁)、「同 八月中」・「同」『同』第107号(101、107-108頁)、「同 九月中」・「同」『同』第108号(118頁)、「同 十月中」・「同」『同』第109号(128頁)、「同 十一月中」・「同」『同』第110号(138頁)、「同 十二月中」・「同」『同』第111号(151、153頁)より、引用・参照した。

- 14) 表13を含めたこの項の事実関係は、「年金一時出金者姓名 一月中」『同』第100号(17-19頁)、「同 二月中」『同』第101号(28-29頁)、「同 三月中」『同』第102号(43-44頁)、「同 四月中」『同』第103号(56-57頁)、「同 五月中」『同』第104号(70頁)、「同 六月中」『同』第105号(84頁)、「同 七月中」『同』第106号(100頁)、「同 八月中」『同』第107号(108頁)、「同 九月中」『同』第108号(118頁)、「同 十月中」『同』第109号(129頁)、「同 十一月中」『同』第110号(139頁)、「同 十二月中」『同』第111号(154-155頁)より、引用・参照した。10人以上の出金者を獲得したケースをゴシック体で表記することで、その特徴を明確にするように努めた。
- 15) 表14については、『岡山孤児院新報』第100号～第111号をもとに、1905(明治38)年の本部直接及び職員、出張員による賛助金の月別集金内容を把握した。職員や出張員の名前を具に記載することで、誰がいつどのように活躍していたのかを捉えられるように配慮した。具体的には、「賛助寄附金 一月中」『同』第100号(17頁)、「同 二月中」『同』第101号(28頁)、「同 三月中」『同』第102号(43頁)、「同 四月中」『同』第103号(56頁)、「同 五月中」『同』第104号(68頁)、「同 六月中」『同』第105号(82頁)、「同 七月中」『同』第106号(92頁)、「同 八月中」『同』第107号(107-108頁)、「同 九月中」『同』第108号(118頁)、「同 十月中」『同』第109号(128頁)、「同 十一月中」『同』第110号(138頁)、「同 十二月中」『同』第111号(153頁)より、引用・参照した。
- 16) 表15については、地方委員による賛助金の月別集金内容を、『岡山孤児院新報』第99号～第111号をもとに整理した。具体的には、「賛助寄附金 一月中」『同』第100号(17頁)、「同 二月中」『同』第101号(28頁)、「同 三月中」『同』第102号(43頁)、「同 四月中」『同』第103号(56頁)、「同 五月中」『同』第104号(68頁)、「同 六月中」『同』第105号(82頁)、「同 七月中」『同』第106号(92頁)、「同 八月中」『同』第107号(107-108頁)、「同 九月中」『同』第108号(118頁)、「同 十月中」『同』第109号(128頁)、「同 十一月中」『同』第110号(138頁)、「同 十二月中」『同』第111号(153頁)より、引用・参照した。

1904（明治 37）年の月別の道府県市町村等別の現賛助員の中の年一時金出金者数　〈表 5〉

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	市区町村数	合計人数
北海道	札幌区 4 人、幌内村 1 人、砂川村 1 人、北竜村 1 人、肥 1 人、登川 4 人、角田村 1 人、夕張炭山 1 人、音江村 1 人、長沼村 1 人、旭川町 3 人、室蘭町 1 人、伊達村 3 人、室蘭町 1 人、伊													

（注）ゴチック体は 10 人以上の新賛助員の加入者。

1905（明治 38）年の月別の道府県市町村等別の現賛助員の中の年一時金出金者数　〈表 12〉

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市区町村数	合計人数	
北海道	札幌区 1 人、旭川 1 人、空知郡赤井江 3 人、雨竜郡秋別村 1 人、夕張郡長沼村 1 人、夕張郡登川村 1 人、空知郡岩見澤村 2 人、後志支庁 3 人、渡島村 1 人、根室町 1 人、室蘭町 12 人、北見稚内町 2 人、十勝帯広鉄道部 1 人、日高浦川町 2 人	札幌区 1 人、旭川 1 人、夕張郡 1 人、岩見澤 1 人、登別 1 人、稚内町 1 人	旭川 2 人、夕張 1 人	札幌区 5 人		旭川 1 人、栗山 1 人	岩見澤 1 人、栗山 1 人、芽部郡 1 人	室蘭 1 人、釧路町 1 人、小樽区 1 人	札幌区 5 人、函館区 25 人、岩見澤 1 人、旭川 1 人、夕張郡 1 人	利尻郡 1 人、小樽区 1 人、札幌区 1 人	上川郡 1 人、小樽区 1 人、札幌区 1 人、石狩栗山 6 人	札幌区 1 人、石狩 8 人、後志 2 人、十勝 1 人、小樽区 2 人、根室 1 人	3 区 1 市 6 町 4 郡他	114 人	
青森県	青森市 1 人、弘前市 5 人	東津軽郡 1 人、南津軽郡 1 人	南津軽郡 9 人				弘前市 1 人					弘前市 2 人、陸奥 1 人	2 市 3 郡	21 人	
岩手県		盛岡市 2 人											1 市	2 人	
宮城県	仙台市 8 人、							仙台市 2 人				仙台市 1 人、陸前 2 人	1 市他	13 人	
秋田県										徳山町 1 人		秋田市 1 人、陸中 1 人	1 市 1 町他	3 人	
山形県	鶴岡町 1 人		鶴岡町 1 人		鶴岡町 1 人				山形市 1 人			山形市 1 人	1 市 2 町	5 人	
福島県	岩代本郷町 1 人、	岩代若松市 4 人	岩代川俣町 1 人		岩代若松市 14 人、河沼郡 1 人、那磨郡 1 人	岩代若松市 1 人		岩代若松市 4 人		岩代若松市 1 人	岩代信夫郡 1 人	磐城 4 人、岩代 3 人	1 市 2 町 3 郡他	36 人	
栃木県			宇都宮市 7 人	栃木町 1 人			足利町 1 人	足利町 1 人				宇都宮市 1 人	1 市 2 町	11 人	
茨城県						水戸市 1 人						常陸 1 人	1 市他	2 人	
群馬県	安中町 3 人、高崎市 1 人、横手町 1 人	前橋市 1 人	上野高崎市 1 人、富岡町 1 人										2 市 2 町	7 人	
埼玉県											浦和町 1 人		1 町	1 人	
千葉県	佐原町 1 人、	館山町 1 人、千葉町 1 人		野田町 6 人	野田町 4 人						安房北條町 1 人	下総 1 人、安房 1 人	5 町他	16 人	
東京府	東京市 267 人	東京市 168 人、	東京市 143 人	東京市 2 人、武蔵境町 1 人	東京市 1 人、北豊島郡 1 人、富岡町 1 人	東京市 3 人	桶川町 1 人	東京市 1 人	東京市 1 人	東京市 6 人、大森町 1 人	東京市 1 人	武蔵 4 人、東京市 5 人	1 市 5 町他	607 人	
神奈川県	横浜市 1 人	横浜市 3 人	横浜賀町 1 人、横浜市 81 人	横浜賀町 26 人		横浜市 1 人			横浜町 2 人			相模 4 人	1 市 1 町他	116 人	
新潟県	高田町 6 人	亀田町 1 人、村松町 1 人	新潟市 1 人、新発田町 4 人		大野郡 1 人		新潟市 1 人		村上町 1 人				1 市 5 町 1 郡他	16 人	
富山県	富山市 1 人、射水郡守山村 1 人	舟見町 1 人、高岡市 1 人		高岡市 1 人						高岡市 2 人		越中 1 人、高岡市 1 人	2 市 1 町 1 村他	9 人	
石川県				金澤市 1 人	金澤市 3 人	金澤市 1 人		石川郡 1 人	金澤市 2 人	金澤市 9 人	金澤市 1 人	金澤市 1 人	1 市 1 郡	19 人	
福井県		福井市 9 人					敦賀町 1 人		福井市 3 人				1 市 1 町	13 人	
山梨県	東山梨郡諏訪村 1 人							甲府市 1 人	西磐井郡 1 人				1 市 1 郡 1 村	3 人	
長野県	長野市 1 人、上田市 1 人		飯田町 6 人	松本町 10 人	小縣郡 1 人	大町 1 人					下諏訪町 1 人	信濃 5 人	2 市 4 町 1 郡他	26 人	
岐阜県				岐阜市 2 人、大垣町 1 人						高須町 1 人			1 市 2 町	4 人	
静岡県	遠州浜松町 2 人、静岡市 1 人			濱松町 1 人、静岡市 7 人、沼津町 9 人	静岡市 2 人			静岡市 1 人				駿河 3 人、遠江 4 人、伊豆 1 人、静岡市 8 人	1 市 5 町他	39 人	
愛知県		名古屋市 1 人、西春井郡 1 人、広岡町 2 人	御影町 2 人、岡崎町 1 人	名古屋市 29 人、岡崎町 7 人、瀬美郡 1 人		名古屋市 1 人	名古屋市 1 人				名古屋市 1 人	名古屋市 3 人、尾張 2 人、三河 1 人	1 市 3 町 2 郡他	53 人	
三重県	多気郡五ヶ谷村 2 人、志摩島羽町 1 人	伊賀上野町 3 人、桑名町 1 人		員弁郡 1 人	一志郡 2 人			伊賀上野町 1 人、島羽町 1 人	多気郡 1 人			伊勢 1 人、津市 1 人、四日市市 10 人	2 市 3 町 2 郡 1 村他	25 人	
滋賀県	大津市 13 人、	大津市 2 人	近江八幡町 9 人、神崎郡 1 人			近江八幡町 1 人		彦根町 1 人	彦根町 1 人	草津町 1 人、近江八幡町 1 人		大津市 2 人、近江 7 人	1 市 3 町 1 郡他	39 人	
京都府	京都市 3 人、	京都市 53 人、天田郡 1 人、峯山町 1 人	京都市 149 人、宇治町 1 人		伏見町 1 人		八幡町 3 人、吉野郡 1 人、舞鶴町 1 人			伏見町 1 人	福知山町 1 人	京都市 1 人、山城 2 人、丹波 12 人	1 市 6 町 2 郡他	231 人	
大阪府	大阪市 6 人、河内郡南我村 1 人、	大阪市 5 人	大阪市 114 人	大阪市 58 人、堺市 39 人		大阪市 2 人、淀町 1 人	大阪市 1 人	大阪市 13 人	大阪市 1 人、泉北郡 1 人		大阪市 3 人	摂津 5 人、和泉 2 人、河内 3 人、堺市 2 人、大阪市 2 人	2 市 1 町 1 郡 1 村他	259 人	
兵庫県	神戸市 3 人、赤澤町 1 人、東出町 1 人、尼崎町 7 人	神戸市 2 人、武庫郡 1 人、生野町 1 人、加古郡 1 人	神戸市 2 人、武庫郡 4 人、綾部町 1 人、益田町 1 人、姫路市 1 人、明石町 1 人	神戸市 131 人、武庫郡 1 人	神戸市 62 人、姫路市 1 人、明石町 5 人、佐用郡 2 人	西宮町 2 人	神戸市 1 人、氷上郡 1 人、生野町 23 人、美方郡 1 人、明石町 1 人、神崎郡 1 人	神戸市 4 人、綾部 1 人、錦磨郡 1 人	神戸市 1 人、御影町 1 人、多紀郡 1 人		神戸市 2 人、兵庫 1 人	播磨 5 人、神戸市 2 人、姫路市 2 人	2 市 9 町 7 郡他	280 人	
奈良県	大和生駒郡片桐村 1 人、奈良市 2 人	八木町 2 人、今井町 1 人、奈良市 2 人		大和郡山町 1 人						奈良市 1 人		大和 2 人、奈良市 1 人	1 市 3 町 1 村他	13 人	
和歌山県		田辺町 6 人、東牟婁郡 1 人	和歌山市 1 人	和歌山市 34 人	御坊町 2 人	有田郡 1 人		御坊町 3 人、伊都郡 1 人		東牟婁郡 1 人		紀伊 8 人	1 市 2 町 3 郡他	58 人	
鳥取県	鳥取市 1 人	米子町 2 人				鳥取市 2 人	鳥取市 1 人				鳥取市 1 人	鳥取市 1 人	1 市 1 町	8 人	
鳥根県												石見 6 人	1 町	6 人	
岡山県	岡山市 45 人、赤磐郡 16 人、都窪郡 5 人、玉島町 3 人、高梁町 8 人、真庭郡 2 人、久米郡 1 人	岡山市 20 人、児島郡 8 人、牛窓町 4 人、和気郡 1 人、世岡町 1 人、妹尾町 1 人、赤磐郡 1 人、津山町 2 人、落合町 1 人	岡山市 5 人、和気郡 1 人、笠岡町 3 人、都窪郡 3 人、川上郡 1 人、成羽町 1 人	岡山市 13 人、玉島町 12 人、早島町 4 人、吹屋町 1 人、上房郡 8 人、井原町 1 人、浅口郡 1 人、津山町 62 人、久米北條郡 4 人	津山町 2 人、岡山市 3 人、邑久郡 11 人、倉敷町 39 人、総社町 10 人、成羽町 9 人、吹屋町 8 人、浅口郡 2 人、吉備郡 1 人、都窪郡 1 人	岡山市 7 人、都窪郡 9 人、賀陽郡 1 人、倉敷町 39 人、総社町 1 人、井原町 6 人、勝山町 20 人、落合町 17 人、久世町 26 人、津山町 62 人、久米北條郡 4 人	岡山市 20 人、小田村 5 人、下津井町 2 人、児島郡 2 人、邑久郡 1 人、庭瀬町 1 人、早島町 8 人、玉島町 22 人、笠岡町 13 人、高梁町 1 人	邑久郡 1 人、落合町 2 人、高米郡 2 人	岡山市 1 人、赤磐郡 1 人、御津郡 1 人、総社町 1 人、高梁町 1 人、久米郡 1 人、西松浦郡 1 人	苦田郡 2 人、浅口郡 1 人、岡山市 10 人	御津郡 1 人、岡山市 6 人	備前 9 人、備中 6 人、美作 3 人、岡山市 12 人	1 市 16 町 16 郡他	575 人	
広島県	広島市 1 人、安芸郡 1 人、沼隈郡 1 人、芦品郡 1 人	広島市 1 人、呉市 48 人、西條町 1 人、安芸郡 1 人	深安郡 1 人、広島市 3 人、呉市 3 人、安芸郡 1 人	呉市 2 人、豊田郡 1 人、	深安郡 1 人、広島市 35 人、呉市 3 人、安芸郡 1 人	新方町 1 人、広島市 1 人、呉市 1 人	尾道市 19 人、福山町 45 人、深安郡 2 人、府中町 16 人、芦品郡 5 人、三原町 2 人、松永町 11 人、糸崎町 1 人、沼隈郡 2 人、広島市 1 人、忠海町 1 人	広島市 1 人、呉市 1 人			広島市 1 人、呉市 1 人、御調郡 1 人	呉市 13 人、備後 2 人、安芸 2 人、広島市 2 人	3 市 7 町 6 郡他	235 人	
山口県	山口町 1 人、高根村 1 人	周防町 1 人、萩町 1 人		柳井津山鉄駅 1 人、三田尻町 1 人、下関市 1 人	山口町 24 人、岩国町 5 人、徳山町 1 人、三田尻町 7 人、下関市 2 人、豊浦郡 2 人		山口町 1 人、下関市 4 人、豊浦郡 1 人		宮市 1 人、三田尻町 1 人、美郷郡 1 人、原狭郡 1 人、下関市 1 人、徳山市 19 人	下関市 1 人	長府町 3 人	長府町 1 人	長門 8 人、周防 3 人	2 市 6 町 4 郡 1 村他	94 人
徳島県	阿波池田警察署 1 人	徳島市 1 人、						麻植 2 人				阿波 1 人	1 市他	5 人	
香川県		西郷町 1 人、善通寺町 1 人		善通寺町 1 人	多度津町 1 人	小豆郡 1 人、三豊郡 1 人	美馬郡 1 人	高松市 39 人、丸亀市 18 人、多度津町 28 人、善通寺町 3 人、琴平 2 人	高松市 3 人、坂出町 2 人、新居郡 3 人		善通寺町 1 人	讃岐 3 人	2 市 4 町 3 郡他	109 人	
愛媛県	内子町 1 人、新居郡 1 人、温泉郡 1 人、宇摩郡 3 人、	今治町 39 人、喜多郡 1 人	宇和島市 1 人、八幡濱町 2 人、新居郡 2 人	喜多郡 2 人	三島町 1 人	新居郡 2 人	温泉郡 1 人	松山市 8 人、三津濱 1 人		新居濱 2 人	新居濱 1 人	伊豫 16 人	2 市 4 町 4 郡他	83 人	
高知県	高岡郡 1 人	高岡郡 1 人、佐川町 1 人						高知市 41 人、土佐安芸町 3 人				土佐 4 人	1 市 2 町 1 郡他	51 人	
福岡県	嘉穂郡 2 人、門司市 1 人	柳河町 1 人、豊前京都郡 1 人	遠賀郡 1 人、柳河町 2 人	福岡市 2 人、三猪郡 1 人、浮羽郡 1 人	福岡市 13 人、若松町 16 人、八幡町 1 人、戸畑町 2 人、枝光 18 人、久留米市 7 人、柳河町 9 人、大牟田 8 人、小倉市 27 人、中津町 10 人	若松町 1 人、鞍手郡 2 人、久留米市 1 人、門司市 2 人	門司市 21 人		福岡市 1 人、門司市 1 人	小倉市 1 人、八幡町 1 人	筑上郡 1 人	門司市 1 人、豊前 7 人、筑前 8 人、筑後 5 人、小倉市 3 人、久留米市 1 人	4 市 5 町 7 郡他	180 人	
佐賀県			唐津町 2 人	唐津町 1 人、台岐郡 1 人	佐賀市 4 人、唐津町 8 人、平戸町 1 人							肥前 7 人	1 市 2 町 1 郡他	27 人	
長崎県	長崎市 2 人		長崎市 12 人、佐世保市 3 人		長崎市 16 人、佐世保市 30 人	佐世保市 1 人、嬉野郡 1 人		長崎市 4 人	長崎市 1 人、佐世保市 2 人		長崎市 1 人	佐世保市 2 人	2 市 1 郡	75 人	
熊本県	飽託郡 2 人	日奈久町 4 人			熊本市 11 人、八代町 8 人							熊本市 2 人、肥後 3 人	1 市 2 町 1 郡他	30 人	
大分県												豊後 2 人	1 町	2 人	
宮崎県	東臼杵郡 8 人	東臼杵郡 1 人	都城町 1 人、高鍋町 6 人、児湯郡 1 人		宮崎町 1 人	宮崎町 1 人	北諸縣郡 1 人		富高新町 3 人、高鍋町 3 人	延岡 3 人		日向 6 人	4 町 3 郡他	35 人	
鹿児島県	熊毛郡 1 人、鹿児島市 1 人	鹿児島市 1 人		薩摩郡 13 人						鹿児島市 1 人		薩摩郡 1 人	1 市 2 郡	18 人	
沖縄県														0 人	
韓国	仁川 5 人	仁川 1 人、釜山 1 人	京城 1 人、仁川 2 人、釜山 2 人	釜山 1 人			京城 38 人、仁川 57 人、釜山 31 人、大邱 6 人		京城 1 人		市町村不詳 4 人	韓国 5 人		155 人	
清国	天津 3 人			天津 4 人、鎮南浦 2 人				北京 1 人		南京 1 人、遼陽 1 人		清国 2 人		14 人	
台湾	台北 11 人、總督府 2 人、台中 2 人、台南 6 人、嘉義地方 2 人、新竹 3 人、安中 1 人	台北 34 人、台南 4 人、基隆 1 人、新竹 1 人、内招 1 人	台北 13 人、新竹 1 人、淡水 1 人、台中 1 人、台南 1 人、打狗 4 人	基隆 12 人、台北 3 人、三义河 1 人、台中 1 人、台南 1 人、打狗 4 人	基隆 6 人、台北 2 人、新竹 2 人、台中 27 人	台北 6 人、新竹 1 人、台南 2 人	台北 2 人	彰化 1 人、其隆 3 人	台中 1 人	台中 21 人、打狗 3 人、台南 47 人、新竹 31 人、安平 8 人、淡水 10 人、台北 43 人、其隆 12 人	台北 1 人、鳳山庁 1 人	台湾 9 人、其隆 4 人		349 人	
米国	ニューヨーク 1 人		米国 1 人											2 人	
ハワイ														0 人	
その他	軍艦橋立 4 人	軍艦赤城 1 人、軍艦秋津洲 1 人、出征第一師団 1 人、出征第六師団、後備歩兵第一旅団 1 人、後備四十二連隊 1 人	軍艦三笠 5 人、出征第五師団 1 人	軍艦橋立 1 人、病院船吉生丸 1 人、ロヒラ丸 1 人	軍艦吾妻 1 人、軍艦秋津洲 1 人、遼東 1 人	軍艦千歳 2 人、軍艦八雲 1 人、軍艦橋立 1 人		出征 1 人、軍艦橋立 3 人				陸軍病院 4 人、軍艦八雲 2 人、軍艦千歳 1 人、軍艦橋立 4 人、		41 人	

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中嶋・菊池) (127) 140

1905 (明治 38) 年 1 月からの各月別各府県別の賛助員の加入人数 <表 10 >

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
北海道		北見稚内町 1 人						石狩空知郡 2 人	札幌市 1 人、石狩空知郡 1 人			札幌市 1 人	1 市 1 町 1 郡	6
青森県										桃生郡 1 人				0
岩手県													1 郡	1
宮城県														0
秋田県														0
山形県					盾岡町 1 人							伊達郡 1 人	1 町 1 郡	2
福島県														0
栃木県														0
茨城県														0
群馬県														0
埼玉県														0
千葉県					野田町 1 人								1 町	1
東京府	東京市 6 人	東京市 2 人、東京高等師範学校 2 人	東京市 5 人	日本女子大学 1 人、女医学校 3 人	東京市 1 人	東京市 2 人、八王子町 1 人	東京市 1 人	東京市 2 人		東京市 1 人、東宮御所 2 人			1 市 1 町等	29
神奈川県				横須賀町 1 人					横浜市 1 人	横須賀町 1 人		横浜市 1 人	1 市 1 町	4
新潟県														0
富山県									富山県 1 人、新川郡 1 人、新川郡 1 人	富山県 2 人、新川郡 2 人、南加積村 1 人、新川西郡 2 人	福光町 1 人、三日市町 1 人、高岡市 2 人	富山県 1 人	2 市 2 町 3 郡 1 村	14
石川県									金沢市 8 人、加賀小松町 1 人	金沢市 4 人			1 市 1 町	13
福井県							敦賀市 1 人	福井市 2 人	福井市 7 人、南條郡 1 人				2 市 1 郡	11
山梨県														0
長野県				伊那郡 1 人					上田町 1 人				1 町 1 郡	2
岐阜県									養老郡 1 人				1 町 1 郡	2
静岡県		静岡市 2 人、浜松町 3 人、駿河駿東郡 1 人	浜松町 2 人							金山町 1 人			1 市 1 町 1 郡	8

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
愛知県	名古屋 市1人、岡 崎町2人	碧海郡 1人	額田郡 1人	名古屋3 人、岡崎 町1人			名古屋 市1人			豊橋町 2人			1市2 町2郡	12
三重県	四日市 市2人、伊 勢多気郡 1人								伊勢多 気郡1人		四日市 市8人	1市1 郡	12	
滋賀県					大津市 5人				彦根町 5人	近江八 幡町2人、彦 根町2人、大 津市2人	大津市 2人	大津市 1人	1市2 町	19
京都府	京都市 1人		京都市 2人		京都市 6人	京都市 1人、丹後 3人	加佐郡 1人			伏見町 1人	京都市 2人	河原町 1人、宮津 町7人、舞 鶴9人、加 佐郡1人、倉 橋村2人	1市3 町2郡等	37
大阪府		大阪市 1人	大阪市 3人、宇治 町1人	大阪市 4人	大阪市 1人				大阪市 2人		大阪市 17人、武庫 郡2人	岸和田町 1人、堺市 2人、南河 内郡1人、津 西町6人、武庫 郡1人、大阪 市2人	2市3 町2郡	44
兵庫県	神戸市 2人		姫路市 1人		神戸市 3人	神戸市 1人、姫路 市2人		姫路市 1人			神戸市 35人、兵庫 南1人	神戸市 3人、丹波 篠山3人	2市等	52
奈良県		奈良市 1人										奈良市 1人	1市	2
和歌山 県				那賀郡 1人									1郡	1
鳥取県														0
島根県														0
岡山県	岡山市 2人、和気 町10人、三 石村4人、赤 磐郡14人	岡山市 1人、大黒 町1人	都窪郡 1人	岡山市 3人、都窪 郡1人	西川町 1人、高梁 町2人、吹 屋町2人	岡山市 1人、新見 町1人、美 作20人	児島郡 5人、早島 町1人	岡山市 1人、御津 郡1人、赤 磐郡1人、美 作1人	総社町 1人	岡山市 2人		岡山市 2人	1市8 町4郡 1村等	79

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中嶋・菊池）（129）138

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
広島県		呉市 47人、 福山町 3人	深安郡 1人、 呉市 3人	呉市 2人	呉市 1人		福山町 1人、 府中町 1人、 松永町 1人、 廣谷村 1人、 東村 1人、 津村 1人、 呉市 1人、 忠海町 1人		尾道市 2人	広島市 1人	尾道市 1人、 呉市 1人		3市 4町 1郡 3村	70
山口県						佐波郡 2人、 都濃郡 1人	山口町 19人、 下関市 5人、 豊浦郡 11人	岩国市 13人、 徳山 市3人、 防府 市3人、 熊毛 郡1人、 吉良 郡1人、 豊浦 郡1人、 山口 農学 校1人	熊毛郡 5人、 周防 市1人、 下関 市1人	吉敷郡 1人		4市 1町 5郡 等	69	
徳島県	徳島市 1人							徳島市 1人					1市	2
香川県								高松市 1人、 多度津 2人	高松市 1人				1市等	4
愛媛県		今治町 3人、 新居浜 村7人	新居浜 村13 人	新居 浜村 3人、 石ヶ山 丈村 4人	角野村 1人、 金子村 1人	新居浜 村3人	新居浜 村1人	松山市 7人	新居浜 村6人		別子山 1人		1市 1町 4村 等	50
高知県								高知市 3人					1市	3
福岡県	久留米 市1人	柳河町 1人	柳河町 17人	福岡市 7人、 遠賀郡 6人、 久留米 市1人、 川口村 1人	福岡市 1人、 若松町 21人、 久留米 市9人、 柳河 町10人、 門司市 3人、 小倉市 14人、 企救郡 2人	黒崎町 1人、 鞍手郡 3人、 門司市 1人、 小倉市 3人	福岡市 1人、 柳河町 2人、 企救郡 1人	企救郡 1人				門司市 1人	4市 3郡 1村	108
佐賀県			西臼 杵郡 1人、 長浜村 1人、 唐津町 6人	唐津町 1人				南高来 郡2人					1町 2郡 1村	11

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	市町村数	合計
長崎県			長崎市 12人、佐世保市 6人	佐世保市 8人	佐世保市 10人、長崎市 1人			佐世保市 1人	長崎市 1人	長崎市 1人	長崎市 1人		2市	41
熊本県	熊本市 2人									水俣村 1人			1市1村	3
大分県						庄内村 1人、高鍋町 1人	高鍋町 3人							0
宮崎県		高鍋町 2人											1町1村	7
鹿児島県				鹿児島市 1人									1市	1
沖縄県						中頭郡 1人							1郡	1
軍艦吉野														0
軍艦松島														0
大日本軍艦														0
韓国・京城						仁川 12人、京城 23人、釜山 2人、電本 部1人	京城 13人、仁川 8人、釜山 47人、馬 浦9人、大 邱8人、木 浦港1人	京城 4人、仁川 1人、釜山 2人、馬 浦1人	慶尚道 尚海1人	仁川 2人	京城 1人	釜山 2人	8	138
台湾	安平 1人			内狗 2人	台北 1人	鼻頭角 飯望樓 1人			台北 8人、基隆 港1人、淡 水港1人	基隆港 2人、台北 24人、台 南2人、台 中1人、淡 水港1人、安 平1人			10	46
台北県														0
台南														0
米国														0
清国・天津	天津 2人			天津 2人、鎮 南1人									2	5
海軍	水田衛 練習所 1人													1
軍艦橋立	軍艦橋 立1人			軍艦橋 立1人		軍艦橋 立1人						軍艦橋 立39人		42
軍艦吾妻					軍艦吾 妻4人									4
軍艦千歳						軍艦千 歳2人						軍艦千 歳1人		3
陸軍病院												陸軍病 院3人		3
軍艦千早												軍艦千 早1人		1

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中嶋・菊池) (131) 136

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前年対比	合計
軍艦日進												軍艦日進		
総数	60	75	74	59	102	91	147	60	61	65	68	103	1人	965

<注>空白は人数がゼロである。（『岡山孤児院新報』第100号から第111号附録より作成）

1905 年の本部直接および職員と出張員による賛助金の月別の集金内容 <表 13>

[illegible]

[illegible]

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中畠・菊池）（133）134

[illegible]

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
佐世保 出張員 佐久間 武男					12.200								12.200
唐津出 出張員 佐久間武 男					7.500								7.500
八代出 出張員 佐久間武 男					9.000								9.000
熊本出 出張員 佐久間武 男					12.500								12.500
小倉出 出張員 小野田鎮					2.000								2.000
小倉出 出張員 佐久間武 男					25.000								25.000
中津出 出張員 佐久間武 男					10.000								10.000
岡山集 金人末 藤新市						24.000	24.800						48.800
撫川出 出張員 末藤新市						11.600							11.600
庭瀬出 出張員 末藤新市						11.500							11.500
玉島出 出張員 末藤新市							26.200						26.200
味野出 出張員 末藤新市							21.500		1.500				23.000
下津井 出張員 末藤新市							6.500						6.500
早島出 出張員 末藤新市							1.200						1.200
笠岡出 出張員 末藤新市							15.000						15.000

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中嶋・菊池) (135) 132

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
倉敷出 張員渡 辺萬吉 朗						39.000	1.500						40.500
津山出 張員末 藤新市						75.900							75.900
久世出 張員末 藤新市						33.900							33.900
勝山出 張員末 藤新市						21.500							21.500
落合出 張員末 藤新市						19.300		0.500					19.800
西川出 張員末 藤新市						4.500							4.500
京都出 張委員 末藤新 市		56.500	165.800										222.300
和歌山 出張委 員末藤 新市				35.200									35.200
直方出 張員小 野田鎮						2.000							2.000
福山出 張員末 藤新市							54.300						54.300
新市出 張員末 藤新市							5.600						5.600
府中出 張員末 藤新市							16.500						16.500
松永出 張員末 藤新市							15.200						15.200
尾道出 張員末 藤新市							22.200						22.200
三原糸 崎出張 員末藤 新市							3.000						3.000
門司出 張員佐 久間武 男							21.500						21.500
岡山集 金人佐 久間武 男								12.300					12.300

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
三田尻 出張員 渡辺萬 吉朗								1.000					1.000
宮市出 出張員 渡辺萬 吉朗								1.000					1.000
徳島出 出張員 末藤新 市								16.700					16.700
阿波桑 川出張 員末藤 新市								2.000					2.000
高松出 出張員 末藤新 市								39.200					39.200
丸亀出 出張員 末藤新 市								21.030					21.030
多度津 出張員 末藤新 市								29.100					29.100
善通寺 出張員 末藤新 市								6.000					6.000
琴平出 出張員 末藤新 市								2.100					2.100
松山出 出張員 末藤新 市								10.000					10.000
三津浜 出張員 末藤新 市								1.000					1.000
新居浜 出張員 末藤新 市								4.200					4.200
別子山 出張員 末藤新 市								0.400					0.400
高知出 出張員 末藤新 市								46.000					46.000
彦根出 出張員 末藤新 市									1.000				1.000
彦根出 出張員 大島三 郎									1.000				1.000

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中嶋・菊池）（137）130

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
今治出張委員 大島三郎		42.600											42.600
八幡出張委員 大島			10.400										10.400
金澤出張委員 光延義民									2.000				2.000
長崎出張委員 光延義民			12.000										12.000
岡山集金 人光田									17.700				17.700
高松出張委員 藤新市									4.000				4.000
坂出張委員 藤新市									2.000				2.000
台南出張員 佐久間武男										62.000			62.000
台中出張員 佐久間武男										23.000			23.000
打狗出張員 佐久間武男										3.000			3.000
新竹出張員 佐久間武男										43.000			43.000
安平出張員 佐久間武男										9.000			9.000
淡水出張員 佐久間武男										18.000			18.000
台北出張員 佐久間武男										91.000			91.000
基隆出張員 佐久間武男										17.000			17.000

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
韓国京城出張委員佐久間武男							26.000						26.000
韓国仁川出張委員佐久間武男							71.000						71.000
韓国釜山出張委員佐久間武男							25.000						25.000
韓国大邱出張委員佐久間武男							6.000						6.000
韓国仁川出張委員光延義民							16.000						16.000
韓国釜山出張委員森上信							18.000						18.000
金澤出張員末藤新市										11.360			11.360
富山出張員末藤新市										7.500			7.500
広島山鉾委員久光										2.000			2.000
山城伏見出張員末藤新市										1.000			1.000
広島日下村												0.500	0.500
舞鶴出張員光延義民												9.200	9.200
賛助金合計(筆者計算)	528.870	535.700	666.250	474.600	484.250	287.220	459.460	256.730	71.700	351.170	70.950	403.350	4,590.250
①全賛助金(資料掲載)	1,093,210.000	1,180,460.000	676,610.000	466,180.000	417,960.000	351,704.000	261,500.000	239,600.000	201,170.000	129,520.000	179,100.000	450,350.000	5,647,384.000

【出典】『岡山孤兒院新報 第4巻』第100号～第111号をもとに筆者整理。

【訂正後の資料】〈表 13〉1903 年の地方委員による賛助金の月別の集金内容

市町村と地方委員氏名	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計	計(地方)
岡山	撫川地方委員牧	8,000	1,000	4,100	4,600					4,400			1,000	
	香登地方委員武用						2,500						23,600	
	有漢地方委員莊	6,100					9,000						9,000	
	吹上地方委員守屋	50,000					2,200		1,200		0,900	1,500	6,100	
	倉敷地方委員大原				0,900								56,700	
山	玉島地方委員中原	1,000	6,000	0,800	0,800				1,400	2,600			6,000	
	笠岡地方委員浅野		1,000	0,800	3,700	1,100	1,300						6,200	
	高梁地方委員伊吹	17,300		1,500		6,200						2,100	8,300	
	早島地方委員溝手							7,300					27,300	
	落合地方委員山田			9,800	8,200	2,000						2,000	2,000	
北海道	日方地方委員西山											5,500	5,500	178
	御坊地方委員山本													
	札幌地方委員越智	23,700	21,400		9,600	7,100	12,100	7,000	10,800	6,900	9,400		108,000	
	函館地方委員磯野	23,200							33,800				57,000	
	旭川地方委員辻	1,000	4,420	2,100	3,000	3,300	1,400	1,900		1,700		2,000	17,820	
東北地方	瀧川地方委員青山												3,000	
	岩見澤地方委員内田	2,100		1,500		4,700		3,000					11,300	197.12
	藤崎地方委員長谷川		11,600						0,700				12,300	
	福島地方委員長谷川	2,000		3,000	1,000	1,000							7,000	
	弘前地方委員石戸谷	6,400	4,500		5,300			6,300				8,700	31,200	
関東地方	弘前地方委員工藤	4,300			4,600								8,900	59.4
	水戸地方委員松井						8,000						8,000	
	足利地方委員森田		8,800	3,800				5,200	2,600	5,700			3,800	
	横近地方委員中野												31,900	
	横浜地方委員日能					8,700						7,100	21,500	

関東地方	横須賀地方委員館林	11,500		9,000	7,800	2,300	3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	5,400	11,500
	横須賀地方委員鈴木												26,500
	横須賀地方委員長谷川	1,600											7,000
	宇都宮地方委員山田												1,600
中部地方	金澤地方委員中島		15,000		4,800		2,700	2,700	3,300			2,000	30,500
	富山地方委員服部	2,700		7,300	5,700			2,600					8,300
	福井地方委員高田	3,700	19,700	2,700	4,500	2,500		3,200					15,700
	高田地方委員荒木					2,200	0,600	5,400					45,700
	敦賀地方委員池見												0,600
	名古屋地方委員赤司			12,800		11,500							11,500
	松本地方委員中川				3,500								17,000
	上田地方委員河合												5,100
	飯田地方委員小澤	5,300	4,500		4,300	5,700						7,500	7,500
	静岡地方委員藤波											3,800	32,800
近畿地方	大津地方委員藪田		16,300	3,800	2,500	2,300	2,300	1,300	2,300	1,300	1,300	1,300	34,700
	彦根地方委員森山				7,400		5,000			8,500		14,700	35,600
	八幡地方委員大島			3,700		6,500						6,600	13,100
	長浜地方委員林	2,000			2,100						2,100		3,700
	和原地方委員林			5,000	11,000								8,100
	堺地方委員青木	8,800								4,400			22,200
	福知山地委員大槻												8,800
	奈良地方委員秋田		2,600		1,000								4,200
	岸和田地方委員土井		5,000										13,900
	神戸地方委員土井	2,500											2,500
	神戸地方委員田村	77,300		24,100									101,400
	神戸地方委員松田	2,400				2,400						3,800	12,800

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と
全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容（中嶋・菊池）（141）126

[illegible]

1904 年、1905 年の岡山孤児院の賛助員募集活動と

全国的な支援ネットワークシステムの推移の内容(中畠・菊池) (143) 124

諸外國

【出典】『岡山孤兒院新報 第3卷』第75号～第87号をもとに筆者整理。

【訂正後の資料】〈表 14〉 1903 年の音楽幻燈 (活動写真) 会の開催地等と新賛助委員数や新地方委員

開催月日	開催地	寄付収入	新賛	新地方委員氏名
1/12	岡 玉島町	242.946	1	大野友松、中原克一郎、小野節
3/7-9	福 門司市	996.838	0	
3/13,14	山 下関市	553.920	0	
3/20-22	小倉市	610.000	0	
3/24,25	福 若松町	338.050	2	
3/27,28,29	岡 枝光	255.140	0	
4/2,3	広 三原・糸崎	118.940	2	
4/21,25,26	山 山口町	476.153	50	
5/1,2	山 岩国町	192.815	24	
5/6-9	広 広島市	507.325	86	
5/25,26	兵 明石町	300.000	0	長尾豊吉
5/28,29,30	岡 岡山市	1,031.004	8	
6/4,5,6	香 高松市	235.374	18	
6/15,16	岡 笠岡町	172.470	0	
6/19,20,21	兵 生野町	266.347	17	
6/25,26	和 和歌山市	500.385	22	
7/19	成羽村	81.365	14	
7/21	岡 吹屋町	201.264	12	
7/23	山 川面村	11.240	0	
7/24,25	高梁町	314.768	24	金澤長蔵、藤井千代太郎
7/28,29	大 堺町	155.912	0	
8/11,12	函館区	971.085	0	
8/16,17	室蘭町	363.820	0	
8/18-20	伊達村	147.850	22	
8/21,22	夕張村	127.880	19	
8/25,26	旭川町	395.229	0	
9/1,2	札幌区	729.170	8	
9/4-5	岩見沢村	231.231	33	
9/7 か 8	浦臼町	74.042	12	大堀俊太郎 齋藤純一郎
9/9,10	栗山村	137.500	0	
9/15,16	小樽区	631.325	2	
9/20,21	余市町	134.650	0	
9/25,26	寿都町	115.950	0	
10/7,8	加古川町	116.910	11	
10/10,11	龍野町	130.666	11	
10/19,20,21	姫路市	433.800	8	
10/26,27	倉敷町	423.511	5	
11/4,5	岡山 庭瀬町	153.970	2	船曳正三、五味恵次郎、豊田歌子 長谷川金次郎、高木正義、富田耕 司、中村忠吉、藤信夫、田端正平、 豊田福太郎、林虎之助、豊田邦吉
11/14,16,17	釜山	900.690	0	
11/24,25,26,27	韓国 京城	704.000	53	
12/1,2	仁川	1,205.371	135	
12/19,20	岡 総社町	334.776	5	

(『岡山孤児院新報』第 75 号から第 86 号より作成)